



0004462-000

a 309-24

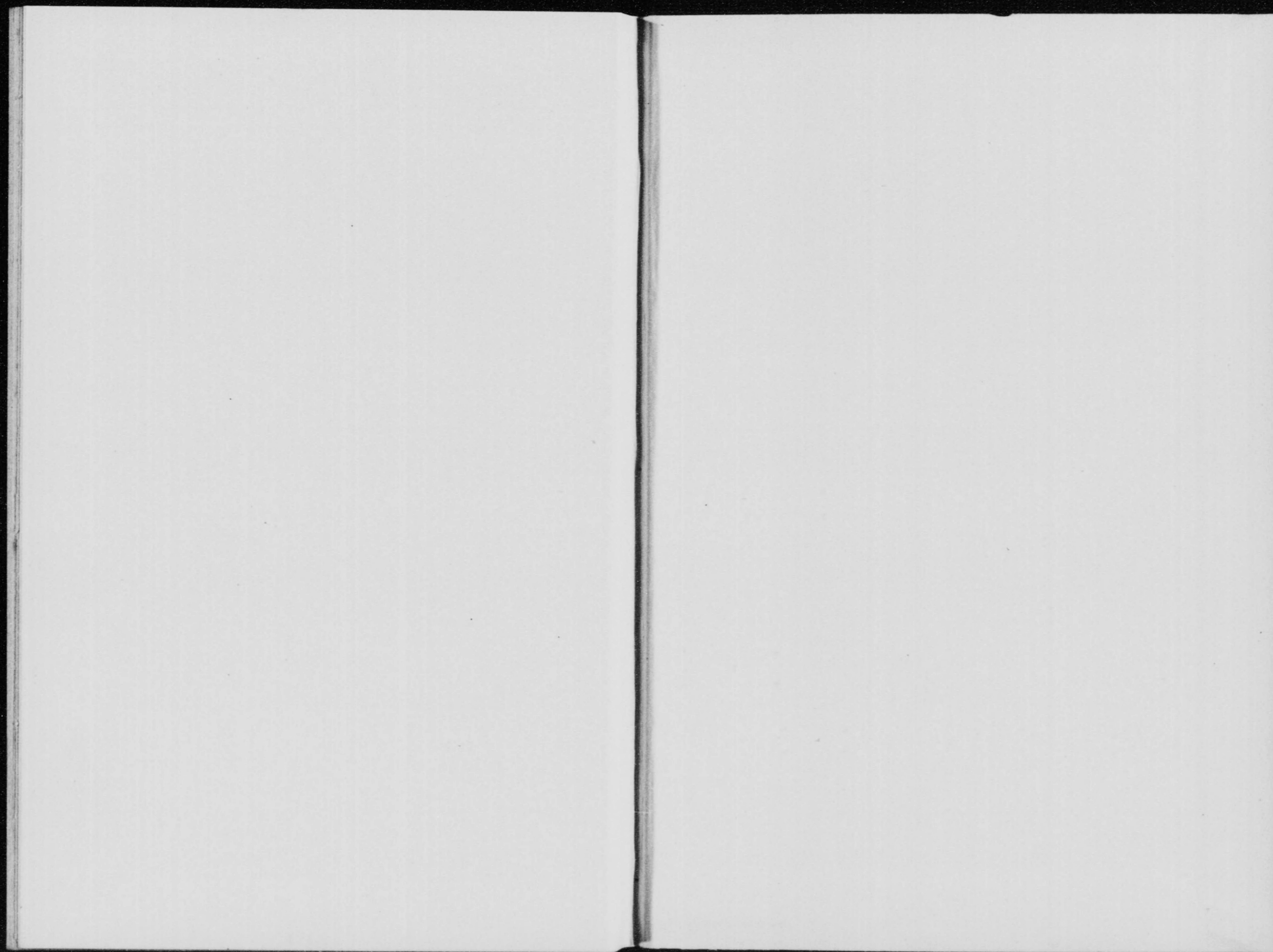
ナチス

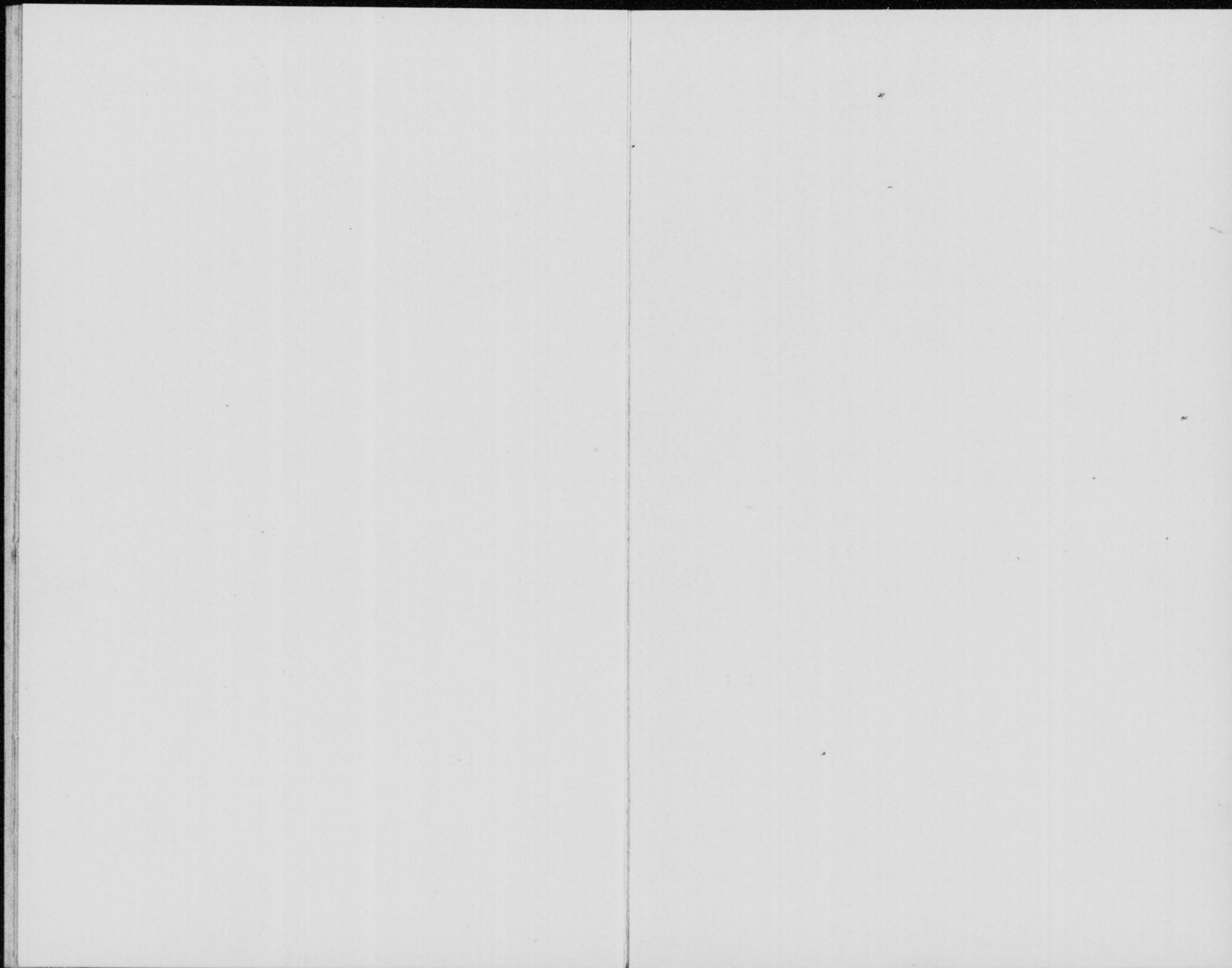
長守善・著

日本評論社

1933

ABB





Z1-4K-32

2309
24

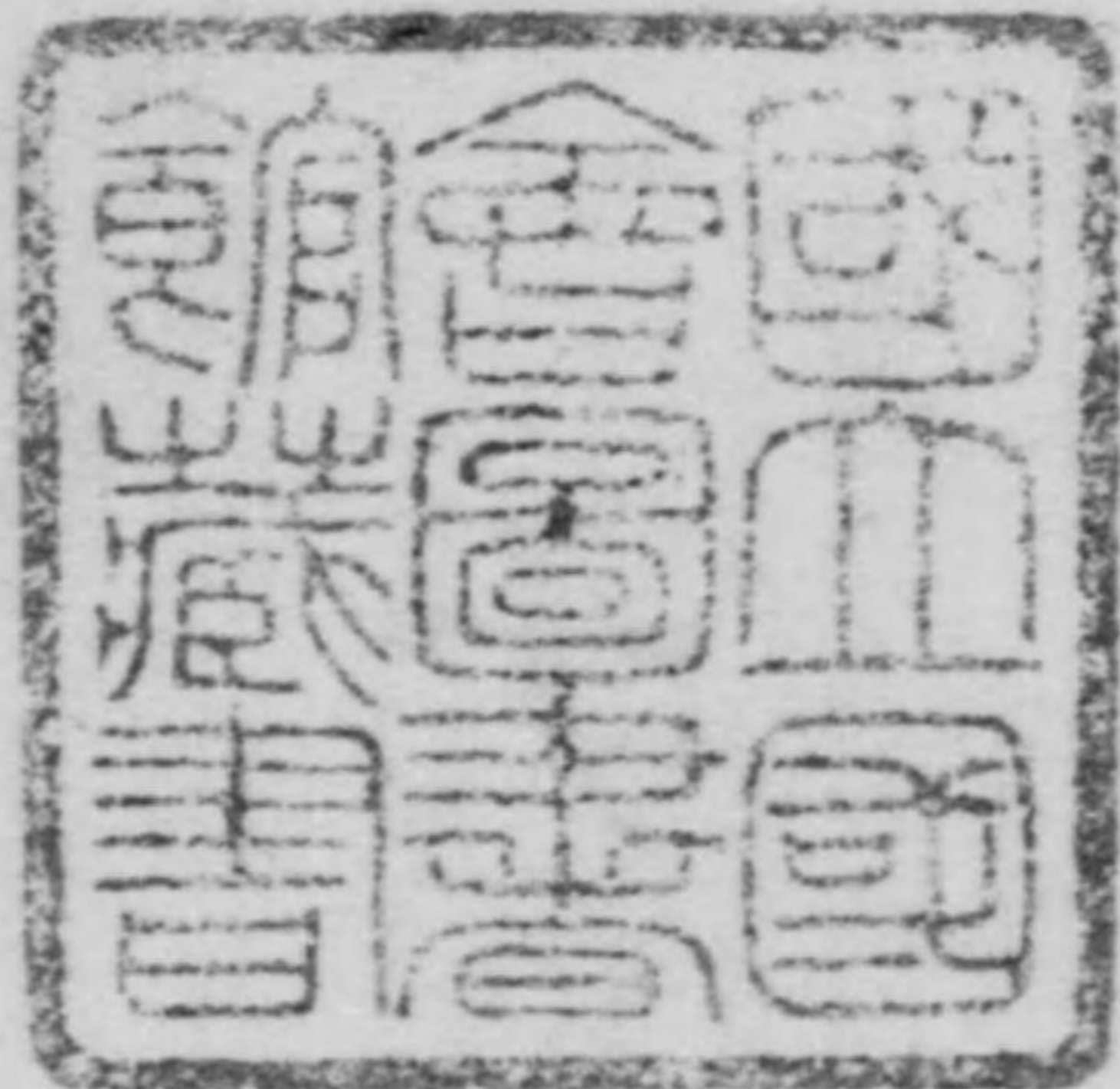
長
守
善
著

ナ チ ス

—ヒットラー—運動・思想・政策—

日
本
評
論
社
版

209
24



1736

はしがき

資本主義が多くの缺陷を含んでゐることに誰しも異論はあるまい。だが我々は其の缺陷の故を以て、此の制度の下に於ける一切の善美なものをも醜惡なものとして一括して破壊し去り、これに代へるに一つの階級のみの利益を代表する制度を以てせんとするマルクシズムに左擔するとは出来ない。これに反して資本主義の危機の原因を制度そのものに見ずして、其の思想的背景を爲すところの個人主義的自由主義を退けて、國民全體の利益を調和せんとする普遍主義的立場から、社會の改造を企てるものに、ファッシズム及び國民社會主義がある。

イタリヤにファッシスト政府が確立されて既に十年、其の間に多くの社會的實驗も行はれた結果、今やファッシズムに關する限り、漸次權威ある研究も現はれるに至つた。しかるに國民社會主義にあつては、嘗てファッシズムが蒙つた以上に甚だしい歪曲が加へられてゐる。其の指導者ヒットラーは權力慾の權化と見做され、ナチスは暴力團體と思惟され、其の綱領は一片

はしがき

のデマゴギーとして片付けられ勝ちである。

破壊を事とする者の眼には、國民社會主義は反動思想として映るかも知れない。だが事實は容赦なく進展する。今や國民社會主義は一片のデマゴギー、反動の名を以て片付けられるには餘りに力強い根を、ドイツ國民の間に張りつゝある。本書は此の新興運動の思想及び政策綱領に全面的解剖を加へ、正しい認識に到達することを以て目的とする。

もとよりさゝやかな本書がよく此の使命に耐へたか否かについては危惧なきを得ない。資料の乏しさによる缺陷も多いであらうし、著者自身の主觀に禍された點があるかも知れない。大方の叱咤を待つ次第である。

本書の完成は徹頭徹尾、恩師土方成美博士の御援助に負つた。博士の御示教なくば、著者は執筆の勇氣を持たなかつたであらうし、博士の御盡力なくば、本書は世に出る機會を持たなかつたであらう。此處に心からなる感謝を捧げる。

昭和八年三月八日

著者

目次

第一章 社會民主主義の破綻……………一

第二章 國民社會主義運動……………二〇

 第一節 ヒットラー小傳……………二〇

 第二節 國民社會主義運動の擡頭と現状……………二六

 第三節 國民社會主義運動の綱領……………三〇

 第四節 ナチスの構成分子……………三六

 第五節 中産階級……………四六

第三章 國民社會主義の思想體系……………五〇

第一節 國民社會主義思想の起源…………… 七〇

 第一項 浪漫主義…………… 七二

 第二項 國家社會主義及講壇社會主義…………… 一〇九

 第三項 キリスト教社會運動…………… 一二三

 第四項 民族主義運動…………… 一二八

第二節 國民社會主義と國民主義…………… 一三六

第三節 國民社會主義と社會主義…………… 一四二

第四節 國民社會主義とマルクシズム…………… 一五五

第四章 ナチスの政治理論…………… 一六九

 第一節 國家觀…………… 一六九

 第二節 身分階級國家…………… 一七六

第三節 政治形態…………… 一九五

第四節 外交政策…………… 二〇九

第五章 ナチスの經濟政策理論…………… 二三〇

 第一節 ナチスの經濟原則…………… 二三〇

 第二節 金融及財政…………… 二三三

 第一項 金融資本…………… 二三三

 第二項 利子…………… 二四一

 第三項 税制…………… 二五六

 第三節 工業…………… 二六〇

 第四節 農業…………… 二六九

 第五節 勞働問題…………… 二八〇

目次…………… 三

第六節 失業問題……………二六七

第六章 國民社會主義とファッシズム……………二九四

後記……………三〇五

第一章 社會民主主義の破綻

民主主義の危機が叫ばれてゐる今日、議會制度が政治形態として最高のものであるか、或ひは他の異なる政治形態に代位さるべき運命を負ふものであるか、此處には論斷の限りではないが、既に一方にはスターリンの指導下にあるソヴェート・ロシヤ、他方にはムッソリニのファシズム獨裁が新たな政治形態として世界の表面に嚴然として實在してゐる。

資本主義的民主制の動搖と、それに伴ふ既成ブルジョア諸政黨の凋落、及びファシズムとコンミニズムとの對立の尖鋭化の問題は多少ともに多くの國の悩みであらう。其の典型的な姿を我々はドイツに於て見る事が出来る。

ドイツは其の特殊な國狀、選舉制度の結果數多の政黨の對立があり、思想的には極左コンミニズムから極右ファッシズムに近いものまでを含み、其の間には社會民主黨を初め、宗

教的色彩濃厚なカトリック中央黨、重工業家を背景とする人民黨、帝制復興を夢み、大地主資本家の支持に立つ國權人民黨等、夫々特殊の立場、独自の主張を有する二十に近い政黨があり、其の政狀は現代のあらゆる政治思想の縮圖だと云へる。從來これらの諸政黨が賠償問題、失業問題、等々をめぐつて、妥協、或ひは抗争を續け、ドイツ政界を益々混亂せしめてゐる。

しかしながら共和國成立以來最近までドイツ政界を支配し來つた勢力は社會民主主義であつた。マルクス、ミュラー、ブリュニングと歴代内閣の首班者は其の所屬政黨を異にしてゐたけれども、要するに彼等はワイマール憲法擁護派であり、社會民主黨の支持の下に政權を維持し來つたのである。

しかるに其の後の情勢は社會民主主義の支配を最早不可能ならしめるに至つた。即ち近年に於ける共產黨と國民社會黨との目覺ましい躍進によつて社會民主黨は他の中間諸政黨と共に漸次凋落し初めた。ドイツが政黨政治の基礎に立つ限り、組閣の唯一の途は數政黨の協力

にあるが、妥協性乏しき前記二政黨の擡頭は此の唯一の可能性を奪つた。假りに議會に於ける中間諸政黨のプロック結成が可能なりとするも、それを以て共產黨及び國民社會黨の反對を押し切ることは出来ない。況んや與黨必らずしも信を置くに足らず、其の向背常ならざることは歴代内閣の經驗し來つたところである。此處に於てかドイツ政局は必然的に獨裁的傾向を辿らざるを得なくなつたのである。此の傾向は既に前ブリュニング内閣に初まつた。

ブリュニングは一九三〇年十二月一日憲法第四十八條に基く第一回緊急令發布以來、申譯的な短期の議會召集の外には、重要事項の決定及び遂行は殆んど緊急令の發動にのみ俟ち、形式的にも内容的にも獨裁によつて時局を切り抜けたのである。パーベン超然内閣が兎も角も命脈を維持し得た所以、シュライヘルを首班とする軍閥内閣の存在が許された理由も此處にある。かくて七〇年も前にジョン・スチュワート・ミルが英國について「議會は漸次政治に参加し得なくなるであらう」と豫言した言葉が、今や其の儘ドイツに妥當するに至つたのである。

かくの如く、ドイツ國民大衆を左右兩極に驅り、中間諸政黨を顛落の淵に誘致した原因は何か？

我々はこれを社會民主主義の行詰りであると斷言するに躊躇しない。賠償問題、失業對策、農村救済、財政の確立等ドイツに課せられた重要問題は數限りなくあつたが、其の多くに於て従來の社會民主主義的政府は失敗した。此處に前ライヒスバンク總裁ヒャルマール・シャハトの所論を引用しやう。

戦後のドイツの爲すべき唯一の使命は、國民的感情を培養し、ドイツに残された一切のものを集め、最大の節約と勤勞とによつて生産力を高めることであつた。しかも社會民主主義によるマルクシズム的制度はドイツ國民を没落の淵に導くことにしか貢献しなかつた。イギリスやフランスに於ては社會民主主義的政黨と雖も國民の利益擁護を怠らなかつた。ドイツ社會民主主義が道德的文化的方面に残した害悪は外面に現はれた以上に甚だしいものがあるが、これを暫らく措くとしても、單にドイツ經濟に及ぼした罪科のみでも看過し難い。

社會民主主義制度の根本的疾患は、第一に國家機關の驚くべき過大視である。官僚主義の跋扈、及びそれに伴ふ官吏數の増加は行政機關の不生産力を高めた。

社會主義的理論家の頭に描かれた生産國營の夢は早くも革命直後に破れたが、一九一九年三月二十三日の社會化法は、社會化に適した企業を一定の賠償によつて國有にすべき權限を國家に與へた。其の結果一九二九年には電力事業の如きは官公營に屬するもの五三%、私人企業に残されたものは僅かに四七%に過ぎない。其の他ガス、電車事業の如きもこれに屬するが、かゝる獨占的公營事業は無税でありながら、一度損失を生ずれば一般國民の租税によつて償はれてゐる。

第二の失敗は社會保險問題である。云ふまでもなくドイツは戦前に於て社會保險制度を設けた最初の國である。しかるに社會民主主義は戦後に於てそれを盲目的に擴張し、此の制度濫用の弊に陥つた。ドイツ社會保險の總費用は一九一三年には十億ライヒスマルク弱であつたが、今日では八十億ライヒスマルクに達してゐる。戦前にはなかつた失業保險を除くも、

他の部分（疾病、癱疾、老年、從業者、貧窮、災害等諸保險）のみでも戦前の四倍に達してゐる。此の巨額の國家支出がドイツの如く窮迫せる國民經濟上耐へ難き負擔たるは勿論、其の結果個人企業經營の國有化が益々促され、延いては全產業界に著しい弊害を残すは必然である。

第三の稅政は賃銀問題である。イギリスと同じく戦前のドイツにあつても、賃銀はある程度まで協定賃銀によつて決定されてゐた。しかし此の協定賃銀は當時一定の企業にのみ限られ、それによる勞働者數は一九一四年末には約二百萬に過ぎなかつた。革命政府は其の成立の數週間後に早くも、勞働組合に對して共同賃銀協定の合法的權限を與へた。爾來政府の強制によつて此の強制賃銀制度は益々發達し、今や一千二百萬の勞働者が共同賃銀協定に與るに至つた。しかも同時に此の制度は今や企業家と勞働者との間の自由な結合ではなく、國家が謂ゆる調停制度に基いて恣に賃銀の決定に干渉するのである。即ち一九二三年以後は調停制度に關する命令によつて、政府によつて任命された議長を蔽く調停委員が裁停を行ふこ

とになつた。其の結果企業家の利潤は經濟的條件でなしに、政治的事情によつて左右されるに至つた。これらの結果による最大の害悪は個人の責任感の破壊である。社會民主主義制度は個人の責任感と個人の機能とに代へるに官僚制度を以てせんとするのである。

ドイツに於ける總從業者數の三割は官公署か、國家、州、市町村が決定的支配力を有する事業に従事し、隨つて彼等は直接にか間接にか、國家的團體の事業に雇傭されてゐる。このことは經濟上個人の企業活動力を低下せしめ、卑屈な依頼心を助長する。

殊に社會保險制度の擴張が如何に個人の責任感を低下せしめるかは、甚だしく濫用されてゐる失業保險制度の上のみならず、疾病保險制度の上にも數多の實例がある。一九二八年一月一日強制疾病保險制度が海員に對しても適用されるに至つて以來、ハムブルグ、アメリカ航路は其の年報に於て、其の從業者の罹患數が前年迄平均の六倍半に増加したと報じた。失業保險、疾病保險の濫用に至つては更に甚だしく、其の結果政府でさへも若干の變更を加へるの止むなきに至つた。勞働義務の觀念、自力更生の努力、即ち國民の繁榮を齎すべき源

泉が社會保險制度の濫用によつて破壊され、節約心は消滅し、浪費的傾向が高まつた。

勞働賃銀制度も同様な悪影響を與へた。社會民主主義的勞働組合が其の政治的權力増大によつて賃銀の平均化を企てるに従つて、却つて勞働者は賃銀が實際の勞働能力に應じて決定されることを望むに至つた。

以上の結果は著しく國民の租稅負擔を増大した。ドイツに於ては一九三〇年評價國民所得六百二十億乃至六百五十億ライヒスマルクであつたが、其の内三百億ライヒスマルク、即ち總國民所得の四五%以上が租稅と社會的支出（社會保險）とに奪はれた。

かゝる政策が國家財政及び國民經濟を根本的に破壊することは明らかである。今や財源は涸れ、外國信用は杜絶した。かくて社會民主主義制度は其の支柱を失つたのである¹⁾。

以上の如くシャハトも亦社會民主主義の行詰りを指摘してゐる。此處に一九三一年乃至三二年の兩年度のドイツ歳出入決算を見るに、一般會計に於て歳入六百五十六億一千四百萬ライヒスマルクに對して歳出七百一億二千三百萬ライヒスマルク、差引四十五億九百萬ライヒ

1) Hjalmar Schacht; Das Ende der Reparationen, S. 176ff.

スマルクの歳出超過であり、特別會計に於ては歳入二億七千二百萬ライヒスマルク、歳出十七億八千七百萬ライヒスマルク、差引十五億一千五百萬ライヒスマルクの歳出超過を示してゐる。右歳出の内社會保險支出は四十二億七千萬ライヒスマルク、危機手当は四十一億五千三百萬ライヒスマルクである。これだけの事實を以てしても社會保險制度が如何にドイツ財政の重大な負擔になつてゐるか理解されるであらう。しかも此の制度の濫用はシャハトの云へる如く個人の依頼心を助長し、失業者數は最近に於て六百萬に達した。かくて社會民主主義的政府は財政的にも破綻したのみならず、失業救済にも失敗し、延いて今日の獨裁的傾向を誘致したのである。

第二章 國民社會主義運動

第一節 ヒットラー小傳

國民社會主義運動の擡頭と現状とに論及するに先立つて、我々は此の運動を今日の如く優勢ならしめた指導者ヒットラー其の人の生ひ立を見なければならぬ。

アドルフ・ヒットラーは一八八九年四月二十日イン河畔のオーストリア小邑ブラウナウに於て下級税關吏の長男として生れた。國籍はオーストリアであつたが、家系はニーダーバイエルから出てゐる。

彼の幼少の時、其の父はドイツのバッサウ峡谷の税關に赴任したが、間もなく恩給を支給されてリンツに來り、オーストリアの小都ラムバッハに小地所を求めて、自ら耕作に従事し

つゝ其の生計を立てるに至つた。

彼の父は貧しい水呑百姓の子であつて、僅か三グルデンの旅費を持つてウィーンに到り、其處で手細工を習つたが、これに満足することが出来なかつたので、刻苦して後二十三歳にして小吏になることが出来たのであつた。それで彼は其の息子のアドルフを偉大な官吏に仕上げることに其の念願であつた。しかしヒットラーは畫家になり度いと願つてゐた。彼は官吏が嫌でくたまらなかつた。彼の言葉を借れば「自分の時間を持ち得ず、事務所に縛られて坐つてゐることを考へただけで、ぞつとした¹⁾」此の父子の極端な意見の相違が表はれた時にヒットラーはまだ十二歳であつた。十三歳の時其の父は急死した。同年彼は重い肺患に罹つた爲にそれまで通つてゐた實科學校を退くと共に、醫者の勸告によつて、彼の母は亡夫の遺志によつて子供を官吏に仕上げることを諦めた。そして彼女は其の息子の乞ひに任して美術學校へ入れる決心をした。少年ヒットラーは美術家たんとする憧れに病苦も忘れた。だがそれは彼に取つては短い夢であつた。其の二年後母を失つたのである。此の時から彼の生

1) Adolph Hitler; Mein Kampf, 12 Aufl. S. 6.

活苦が始まつた。父の僅かな遺産は母の重患の爲に殆んど使ひ果たされてゐたのである。

十六歳の時彼は青雲の志を抱いて二、三着の着物のはいつた行李を財産としてウィーンに來て美術學校の入學試験に應じたが、幸か不幸か失敗した。彼の希望は斷たれた。其の後の五年間は文字通り苦難の連続であつた。最初に彼は大工の徒弟になり、後にペンキ屋になつた。當時の生活について、ヒットラー自ら其の著「我が闘争」の中でかう述べてゐる——

「私が最初には見習大工として、次には一介の繪書きとして、自らパンを求めねばならなかつた此の五年間は、悲惨と苦痛其の物であつた。かうした苦勞によつて得たパンとても飢を凌ぐにも足りなかつた。此の飢こそは當時私の傍を離れないで、あらゆる勞苦を分けた唯一の伴侶者であつた。私の買ひ求めた書物は悉く、此の激しい飢を忍んで獲たものである。一度オペラ見物に行けば、其の後に飢餓が終日私に付き纏つた。私の生活は此の殘酷な友との不斷の闘争以外の何物でもなかつた。にも拘らず私は、此の時代に嘗てなかつた程の勉強をした。仕事の餘暇に、極く稀れに食物を節してオペラを見に行く外には、私の唯一の友人は

多くの書物であつた。」

同時に此の職場から職場に渡り歩いてゐる困苦の時代に、彼の社會問題に關する眼が開かれた。殊にウィーンは當時最も不合理な社會形態を具へてゐた。素晴らしい富と甚だしい貧窮とが、ハプスブルグ專制下に相對立してゐた。ヒットラーはかう云つてゐる——

「ウィーンは政治的精神のみならず、經濟的にも、古いドナウ王國の中心であつた。地位の高い軍人、官吏、藝術家、學者等の一團が勞働者大衆に對立し、貴族や商人の富が國民の甚しい貧窮に對立してゐた。豪壯な宮殿の前の廣場には數千の浮浪者の群が溢れてゐた。

社會問題を研究するにはドイツの如何なる都會よりもウィーンが便利であつた。」同時に彼を驚かせたことは、彼の周圍の此の虐げられた下層階級に於ける甚だしい道徳的頹廢であつた。そして彼は總ての道徳的墮落の原因を國民的誇りの缺乏の中に認めると共に、社會問題の解決と國民精神の鼓吹とは相離るべからざるものであると考へたのである。即ち彼自ら「一國民の國民精神鼓吹の問題は、第一に健全な社會狀態創造の問題である」と云つてゐる。

2) Hitler; a. a. O., S. 23.

幸にも一九〇九年から一九一〇年頃に至つて、彼の新たに得た獨立の製圖家としての職業は、稍々生活を樂にしたので、益々熱心に社會問題の研究に没頭した。しかも一方では彼は少年時代から抱いてゐた藝術家としての生活に對する憧憬を捨てることが出來ないで、祕かに彫刻家たるべく努力してゐた。

一九一二年の春彼は初めて憧れの街ミュンヘンに來た。此處こそ彼は「眞のドイツの都會」であることを感じた。彼によれば、此の古いバイエル之都「ミュンヘン」を知らずしてはドイツを知つたものとは云へないし、ミュンヘンを見ずしては、ドイツの藝術を語ることが出來ない」のである。實にドイツ的な傳統に充たされたミュンヘンの空氣は若きヒットラーの心を完全に捉へ、彼の生涯と切り離すべからざるものとなつた。

此の藝術的香り高き都に於る生活苦と闘ひつゝ、彫刻家たるべく精進した大戦勃發までの二ケ年間の生活は、彼の生涯に於て、最も樂しい、安らかな生活であつたと自ら追想してゐる。

一九一四年動員令が下るや、彼は愛國的感情に燃えて、一ドイツ人として、ドイツ國民と

眞のドイツ人の國家としてのドイツ國家との防衛の爲に劍を執つた。即ち彼は其の故郷オーストリアを以て、外國民族によつて汚された國として嫌惡して、八月三日バイエル國王ルードウィッヒ三世に宛て、バイエル軍從軍の請願をして許可されたのであつた。かくて彼はリスト聯隊に編入されて、フランデルン戦線に送られた。その途中で初めてドイツの守り、ライン河を見た。其の時のことを彼は次のやうな感激の言葉を以て描いてゐる――

「遂に我々は義務を果たす爲にミュンヘンを去るべき日が來た。我々が西方に向つて進軍する途中で初めて私はライン河を見た。我々は此の河を貪慾な敵から死守せねばならないのだ。ほのかな朝靄を通して曙光が、ニーダーワルドの自由の像を照らすのを見た時、長蛇の如き輸送列車からは自ら『ドイツ！ドイツ！なべての上に！』の歌が曉天に向つてほとばしり出た。私の胸は感激につぶれさうだつた。」

爾後四年間、彼は終始歩兵として戦線に活動した。間斷なき第一線に於ける活動は幾度か彼の生命を脅かした。一九一六年十月七日にはソンヌの戦闘に於て重傷を負つて、ベルリン

近郊のペーリッツ衛戍病院に送還された。一九一七年の初め、ミュンヘンの補充軍に加つて再び西部戦線に赴いた。一九一八年十月十四日、イーゼル河畔の戦闘の際、猛烈な毒ガスに當つて殆ど失明しかつた爲に、ボンメルンのパーゼワルク衛戍病院に送られた。其處で彼は革命に遭つた。彼の眼が次第に快癒に向ひつゝあつた十一月十日、牧師から帝政の没落と共和國の成立とに關する總ての事情を聞かされたのである。四年間の殘虐な戦争の結果がこれか？ 其の時の彼の憤激の状は次の言葉に如實に現はれてゐる――

「私は母が死んで、其の棺を送つて以來、泣いたことはなかつた。青年時代に運命が苛酷であつた時に、私は却つてそれに對して頑強になつた。永い戦争の間に、私の戦友が相次いで斃れるのを目撃しては、自分の苦痛を訴へたりすることは罪惡だと思つた。彼等はドイツの爲に死んだのではないか！ 更に此の最も激しい闘争を行ふべき秋に、毒ガスの爲に眼を犯されて、最早永久に見えなくなるのではあるまいかとの懸念に戦慄してゐた時でさへ、良心の叫びは私の耳朵を打つた。情けない者よ！ 大衆が汝よりも數百倍も不幸になりつゝある

のに、汝は女々しく泣くのかと。かうして私は祕かに私自身の苛酷な運命を耐へ忍んで來たのであつた。だが今と云ふ今は、どうして泣かないでゐられやうか？ 私は初めて此の祖國の最大の悲運に際會して、今こそ一切の個人的苦惱の如きは何でもないことを知つたのだ。かくて一切は無駄に終つた。あらゆる犠牲も窮乏も、死の懸念に圍まれつゝ忍んだ飢渴も、二百萬人の死も、總ては無駄になつたのだ。……ドイツの母達が痛む心を以て其の最愛の子等と再び相見る希望もなく戦地に送つたことによる祖國人の犠牲の意味がこれだつたのか？ これこそ一團の破廉恥な裏切者の仕業ではないか？」³⁾

ドイツがマルクシストの手に落ちたことは、彼に取つて耐へ難い汚辱であつた。此の日に彼は自己の使命をはつきりと知り、自身の個人的幸福を願つてゐた過去を清算した。彼は遂に立ち上つた。終生政治家として戦ふ決心の付いたのは、實に此の時の興奮からであつた。一九一八年十一月の末、ヒットラーはミュンヘンに歸り、其の所屬聯隊の補充部隊に編入されたが、それは既に「勞兵會」の支配するところであり、ヒットラーに取つては何もかも

3) Hitler; a. a. O., S. 223 f.

氣に食はぬことばかりであつた爲に、一時トラウンシュタインに行つたが、翌年三月再びミュンヘンに歸つた。

大戦中にミュンヘンには北部工業地帯から多數の労働者が雪崩れ込んでゐた。しかもクルト・アイスナーは早くも一九一四年頃から此の地方に潜入して、戦争に倦んだ労働者、軍人、知識階級の中に猛烈な革命思想を鼓吹しつゝあつた。かくてミュンヘンの實權は十一月七日に既に労兵會の掌握するところとなり、翌年四月の初めにはアイスナーとトラウとはソヴェート共和政開始を宣言し、ベルリン政府に對して「帝國からの分離」をスローガンとして、其の支配を維持せんとした。ヒットラーは兵舎の中から猛然と反對した。爲に彼の身邊も危くなり、一度は中央委員會の監察官によつて拉致されかゝつた位である。しかしアイスナーの暗殺と、それに引續くソヴェート政權の壊滅とによつて、ミュンヘンは靜穩に歸した。

ヒットラーは第二步兵聯隊に於ける革命事件の審問委員に任命され、次いで養成士官になつた。秩序回復直後の當時のミュンヘンでは、新しい運動乃至思想に關して嚴密な調査が

行はれた。それでヒットラーは一夕其の公的資格に於て、新たに編成された「ドイツ労働黨」の會合に臨席した。此の席上に於て偶々彼はゴットフリード・フェーダーの「利子奴隸制の打破」に關する講演を聞いて多大の感動を受けた。彼はこれこそ刻下のドイツに於て解決すべき最大の問題であると共に、將來のドイツ國民の核心に觸れるものがあると考へたのである。此處に於て彼は此の若き運動を全國的な大衆運動にまで育て上げる決心を以て、第七番目の黨員として入黨した。これが今日彼の率ひる國民社會主義ドイツ労働黨の前身である。間もなく彼は其の才幹を認められて、アントン・ドレクスラーに代つてその首領になつた。

毎水曜日に此の小政黨はミュンヘンのカフェーに集つて討論し、毎月一回、後には二回、演說會を公開し、彼等自ら立看板を立て、招待券を配布して、熱心に同志の獲得に努めた。しかし其の結果は極めて慘めであつた。其の時のことを彼はかう述べてゐる——
「私は今もなほ當時のことをまざ／＼と覚えてゐる。初めて八十枚の招待券を配布した夕

刻、今夜こそ來會者が多いぞと胸を躍らせて待つてゐた。ところが一時間も定刻より遅らせ
て開いた會場で見たものは、依然として例の七人だけだつた⁴⁾と。

しかし彼等の不屈の努力は次第に効果を表はし聴衆が増加し始めた。一夕其の講演會に於
て、ヒットラーは自ら約三十分間に亙る演説をしたが、それは聴衆に多大の感動を與へた。
此の時に初めて彼は「自分は人を説服する能力を持つてゐる」ことを知り、自己の稀れに見
る雄辯を自覺したのである。

一九二〇年二月二十四日、新運動最初の大衆演説會が約百名の聴衆の前に開かれた。其の
席上で初めて二十五ヶ條の黨綱領を發表した。此處に於てヒットラーは漸く世人から注目を
受け始めたのである。

これまでのヒットラーの波瀾に富んだ境遇は、爾後の政治思想並に活動の上に多大の影響
を與へた。

4) Hitler ; a. a. O., S. 389.

第一に幼少時を過した土地ブラウナウは、ニュルンベルグの愛國的本屋ヨーハン・フィリッ
プ・バルムがフランスの暴虐を非難した小冊子「壓制下のドイツ」を販布した處で、一八〇
六年ナポレオンの命によつて銃殺された場所である。近隣の古老から此の物語を聞かされた
ヒットラーの幼い心には、此の時代に早くも愛國的感情が芽生えつゝあつた。

次いでドイツのバッサウ及びオーストリアのリンツの如く、獨逸國境地方に於ける學校生
活は、彼をして此の國境を撤去し、ドイツ人は唯一の國家に統一さるべきことが、自然的、
歴史的必然であることを痛感せしめた。かくて當時彼が非常な情熱を以て勉強した學科は歴
史と地理とであつた。

其の兩親に早く死に別れて、十五歳にして既に生活上の困難と、社會制度の不合理とを経
験したことは、彼の鞏固な意志を創り上げると同時に、社會問題に多大の關心を持たしめる
結果になつた。しかし彼がウィーンの職場を轉々してゐる間に知り得たマルクシズムは、何
等彼に取つて魅力にならなかつたのみならず、却つて社會民主黨の壓倒的指導下にあつた勞

働者の個人主義的な暴行を嫌悪した。彼は労働者の一般的権利擁護と其の生活改善との手段としての労働組合と、政治的階級闘争の機關としての労働組合との區別を判然と認識したのである。彼は階級闘争を事とする労働組合を、マルクシズム的な、國際的ユダヤ人の陰謀の機關と見做して、彼の青年らしい理想から、正面これに反対した爲に、其の仲間から壓迫されて職場を失つたことは一再でなかつた。

同時にヒットラーは民族闘争の國たるオーストリアの首府ウィーンの放浪生活に於て、國の單位は民族でなければならぬことを知つた。オーストリアハングリーの如く多數民族の強制的結合は、畢竟國民の道徳心墮落の原因であつて、ドイツは同一血液、同一言語、同一文化の純粹なドイツ民族によつて結成されねばならないと云ふ信念が、彼に取つて不動のものとなつた。

反ユダヤ主義思想を抱くに至つたのも亦、此のウィーン時代である。彼は少年時代にはユダヤ人のことを餘り聞かなかつたし、彼の兩親も此の「選民」の話を、其の子供に聞かせる

ことを努めて避けた。彼が始めて反ユダヤ思想に接したのは、ウィーンで反ユダヤ主義新聞「國民新聞」を通じてであつた。殊に彼のユダヤ人憎惡の念は、偶々ガリシヤのユダヤ人の極端な非國家的生活を目撃して強められた。

同時に後に彼の運動のスローガンの一つとなつた反議會主義的傾向も亦、ウィーン時代に芽生へた。一日彼は議事堂の壯麗さに眼を奪はれながら傍聴に出掛けた。其の結果彼が得たものは議員連の無責任に對する嫌惡の氣持以外の何物でもなかつた。其の時の模様を彼は次の嘲笑的な言葉で述べてゐる――

「數百人のこれらの國民代表者は、ある重大な經濟問題討議の爲に出席してゐた。……其の案の内容は辛じて聞き取られる程度の低い聲で討論された。といふのは彼等の中にはドイツ語でなしに、スラヴ語で話す者もあつたから。私は其の時まで新聞で知つてゐたことを目の當り見たのだ。手振り身振りで、様々の國語で叫び合つてゐる連中を見て、私は吹き出さざるを得なかつた⁵⁾」と。彼の見解によれば、當時のオーストリア議會はドイツ國民大衆の利益

5) Hitler; a. a. O., S. 83.

を代表しない、非ドイツ的土臺に立つものであつて、畢竟議會は責任の歸趨なき饒舌家の舞臺に過ぎなかつた。

更にヒットラーが此のウィーン時代に於て實際に見聞した二つの國民主義的運動があつた。一はシェーネラーの汎ドイツ運動であり、他はリューガーのキリスト教社會運動であるが、此の二運動は若きヒットラーの心を強く捉へ、彼の將來の方向の上に多大の影響を與へたものであるが故に、此の機會に於て暫らく述べなければならぬ。

ヒットラーによれば、ハプスブルグ黨があらゆる手段を以て、ドイツ主義を根絶せんとしたのに對して、ドイツ人の眼を開き、此の惨めな王權の壓制から祖國を蘇らしむべき急務を見抜いたことは汎ドイツ運動の功績である。しかしながらヒットラーがウィーンに出た時には既に此の運動はキリスト教社會運動の勢力に押されてゐた。此處に於てヒットラーは汎ドイツ運動が最初の華々しい登場にも拘らず、忽ち衰へたに反して、一方キリスト教社會黨は非常な勢力を以て發展したのは何故かといふ疑問から、此の二運動、延いて其の首領ゲオル

グ・フォン・シェーネラーとカール・リューガーとの興味ある比較に及んでゐる。故に此處にはヒットラー自身をして語らしめよう。

其の才幹に於ても、根本問題の認識とに於ても、シェーネラーの方が優れてゐた。彼はリューガーよりも遙かに正しくオーストリアの必然的没落の運命を洞察してゐた。しかし彼は人情の機微を察することが出来なかつた。此の點に於てはリューガーに強味があつた。

汎ドイツ運動の目標は理論的には正しかつたが、此の理論的認識を大衆に植ゑ付けることに失敗した。シェーネラーはブルジョア社會の狭い範圍にのみ支持者を見出さうとした。此の大衆の意義の無理解が彼の失敗の原因である。

リューガーは此の點に於て正にシェーネラーと對蹠を爲してゐる。彼はブルジョア上層階級の政治的勢力のみを以てしては、現代に於ては最早新運動の勝利を齎らすに足りないことを知つてゐた。此の故に彼は其の活動の重心を被壓迫階級の上に置くと同時に、舊勢力をも出来るだけ利用する爲に、既存の有力な制度をも全くは排斥しなかつた。これによつてリュ

ーガーは大なる犠牲的精神と大膽な闘争心を有する不動の支持者を、没落に瀕しつゝある廣大な中産階級に於て獲得したのである。更に彼は其の賢明なカトリック教會に對する政策によつて、間もなく其の青年僧侶達の支持をも受けることが出来た。しかるに此の運動も亦失敗した。⁶⁾

此處に於てヒットラーは此の二運動の失敗が今後のドイツ社會運動の上に貴重な教訓を残すものとして、其の失敗の原因の検討に進んでゐる。

彼によれば汎ドイツ運動失敗の原因は次の三點に歸せられる。

第一は社會問題に對する理解の不足である。其の結果支持者はブルジョア層のみに限られた。

第二は大衆の獲得よりも議會闘争を先にしたことである。

第三は國民の精神的要求を無視して、カトリック教と激しく戦つたことである。

これに反してキリスト教社會黨は汎ドイツ運動に於て缺けてゐたものを全部具へてゐた。

6) Hitler; a. a. O., S. 106 ff.

しかし同時にこれは他の缺陷を持つてゐた。即ち

第一に此の運動の反ユダヤ主義は人種的根據に立たずして、宗教的理由から出發してゐた。此の種の反ユダヤ主義運動に對しては、ユダヤ人は久しく慣れ切つてゐた爲に少しも痛痒を感じなかつた。

第二にそれが眞の「國民主義」運動である爲には、ウィーンに運動の重心を置くべきではなかつた。ハプスブルク國家は救はれるには餘りに墮落し過ぎてゐた。しかるにキリスト教社會黨がウィーンを救ふことによつて、オーストリアをも救ひ得ると期待したことは、やがて其の黨自身をも他の墮落的な諸政黨と選ぶところなからしめるに至つた。⁷⁾

以上の二運動の比較から、ヒットラーは結んで云ふ。

「若しキリスト教社會黨が大衆に對する賢明な認識に加ふるに、汎ドイツ運動の人種問題に對する正しい理解を有し、より國民主義的であつたか、若しくは反對に汎ドイツ運動が其の反ユダヤ主義の目的と國民主義思想の意義との正しい理解に加ふるに、キリスト教社會黨の

7) Hitler; a. a. O., S. 111.

如き實際的賢明さ、殊に社會主義的思想をも具へてゐたとすれば、此の運動はドイツを救ふことに成功してゐたであらう」と。

此のヒットラーの言葉を見れば、彼自身が後に率ひるに至つた國民社會主義の方向が判然と觀取されるのである。

第二節 國民社會主義運動の擡頭と現状

國民社會主義ドイツ労働黨（以下省略してナチスと呼ぶ）が、大戰終末直後僅か七名のドイツ労働黨から發達し、一九二〇年二月二十四日のミュンヘンに於ける、最初の公開大衆演説會によつて、初めて其の活動が世人から認識されるに至つたものなることは、前節に於て述べた。

此の大衆に對する最初の喚び掛けは確かに成功であつた。「ブレスト・リトウスク條約とヴェルサイユ條約」なる演題の下に、ヴェルサイユ條約の不當と、ドイツ國民覺醒の急務とを説

8) Hitler; a. a. O., S. 133 f.

く、火のようなヒットラーの言葉は、完全に聴衆を魅了し去つた。これこそ媾和條件に對して、國民の抱く不満を公然と叩きつけた第一聲だつたのである。實際聯合國によつてドイツに向つて提示された媾和條件は餘りにもウィルソンの十四ヶ條の原則と懸け離れてゐた。それによればドイツは、エルザス・ロートリンゲン、ザール地方、オイベン、マルメディー、ボーズン、上部及び西部プロシヤの大部分、北シユレジャの一部、即ち領土に於て七萬五千平方キロメートル、人口に於て約六、七百萬人を失はねばならなかつた。其の結果、重要な石炭産地の三分の一、及び鐵鑛産地の大部分を失ひ、ドイツの鐵産額は戦前の二割に激減する。更にドイツは其の商船總噸數中の十分の九、爾後五ヶ年間二十萬噸宛を提供し、二ヶ年以内に二百億金マルクを支拂ひ、ドイツ陸軍は十萬以下に制限すること等が要求された。ウィルソンの謂ゆる民族自決權の跡は、事ドイツに關する限り何處にも認められなかつた。しかも國內に於ては革命後の混亂は依然として續き、殊に右翼社會主義派と左翼社會主義派、これに配するに中央黨を初めとするブルジョア諸政黨の抗争は激甚を極めた。流血の慘事はドイツ各都

市で繰返された。一月十六日のリーブクネヒトとローザ・ルクセンブルグ虐殺の報は正に此の紛亂の山であつた。此の全國的騷擾に際しても政府は民心の歸趨を示すことが出来なかつたのである。

ヒットラーも「我が闘争」の中で、當時のドイツの情勢を次のやうに述べてゐる。

當時國民は二つに分れてゐた。一は有識階級を含んだ極く少數の國民主義者であるが、彼等は其の思想と目的とを皮相な精神的武器によりて貫かんとした。他はこれに對立する勞働者大衆であるが、彼等は多かれ少なかれ、極端なマルクシズム運動に結び付き、一切の精神的抵抗を暴力によつて破らうとした。彼等は國民全體の利益を忘れて、故意に外國の支配に自己を委ねんとする徒輩であつた。かゝる情勢下にあつてドイツの復興に取つて最も重要なことは、如何にして武器を製造するかに非ずして、如何にして武器を擔ふに足るべき國民を作り上げるかにあつた⁹⁾。

此處にヒットラーは彼の使命を見たのである。そしてかう云つてゐる――

「故にドイツ國民の政治的權力恢復の問題は、第一に我が國民の自主心の恢復にある。而してそれは一に非國民的大衆を國民主義化することによりてのみ達せられる。

かくて我々は既に一九一九年に、我々の新運動の最高の目的は、大衆の國民主義化にあることを知つたのである。¹⁰⁾」

此のドイツ民族の更生をスローガンとする國民社會主義運動が、ヴェルサイユ條約の苛酷さに悲憤し、諸政黨間の無自覺な抗爭と新政府の無力とに失望した大衆に歓迎されたことは當然である。ナチスの勢力は漸次増大した。演説會毎に増加する聽衆は堂に溢れた。

一九二〇年三月十二日、汎ドイツ主義者カップの指導の下にルットウィッツ、エールハルト等の國民主義者によつて興された謂ゆるカップ一揆の際には、ナチスは熱心にこれを支持した。

同年夏初めて國民社會主義運動のシムボルとして黨旗ハーケンクロイツ（鉤十字）が制定された。ヒットラーによれば其の地色の赤は綱領の社會主義的性質を、白は國民主義的性質

10) Hitler; a. a. O., S. 365.

9) Hitler; a. a. O., S. 364. f.

を象徴し、ハーケンクロイツは反ユダヤ主義を表示するものである。

一九二一年五月のロンドン會議は、ロンドン計畫書の名に於て賠償總額を一千三百二十億マルクと決定し、向後三十二年間ドイツは毎年二十億マルク支拂ひ、更に其の外に輸出貿易額の二割六分に相當する金額を支拂ふべきことを決定した。しかし此の負擔は到底ドイツの耐へ得るところではなかつた。當時ドイツの全産業は未だ復興の途上にあり、數百萬の歸還兵は復職の機會なくして街頭に溢れ、労働者の生産能力は體育的にも道德的にも著しく低下し、頻發するストライキにドイツ産業は悩んでゐたのである。かゝる情勢下にあつて、賠償の重壓は徒らにドイツ經濟混亂を煽るのみである。國民の憤懣は彼等を驅つて、賠償絕對反對を標榜するナチス運動に投ぜしめた。同年にはナチスは既にバイエルに於ける有力な政黨になつた。同時に猛烈な迫害が反對者の手によつて加へられるに至つた。一は社會民主黨とカトリック中央黨との連帯になるバイエル政府の壓迫と、他は共產黨の攻撃とであつた。殊に後者の新聞紙による攻撃と演說會場の攪亂とは次第に激しくなつた。これよりさき、一九

二〇年十二月ナチスは「フェルキシエ・ベオバハター」を買収して黨機關紙とした。又ヒットラーは「暴行に對抗するには暴行を以てする外はない¹¹⁾」と揚言して、さきに會場整理の爲に設けた組織隊 (Ordnungstruppe) をして、反對者の妨害に當らしめた。現在のナチスの突撃隊 (謂ゆるエス・アー、Sturmabteilung) の起源である。

一九二一年十一月二十四日ミュンヘンのホーフプロイハウスザールの大集會に於て、突撃隊は會場を襲撃した共產黨系労働者と初めて正面衝突を行ひ、これを撃退した。一九二二年夏あらゆる國粹的團體が共和國保護法に反對して、ミュンヘンのケーニヒブラツツに大聯合示威運動を行つた時、ナチスは六百の突撃隊を参加せしめ、ヒットラー自身は七萬の群集の前で演說し、激勵した。次いで一九二二年十月に國粹團體によつてコーブルグで開催された「ドイツ・デー」には八百の突撃隊が参加した。爾後突撃隊はナチスの宣傳と示威運動との缺くべからざる機關となつた。

一九二二年の初め、ブリヤンに代つて内閣を組織したポアンカレは、ドイツに賠償支拂の

11) Hitler; a. a. O., S. 393.

誠意なしとして、イギリスとの協調政策から強力政策に轉換し、其の結果として、一九二三年一月佛白聯合軍のルール占領が敢行されたのであつた。

戦争直前には年額約九千萬噸の石炭を産出し、ドイツ製鐵業及び染色工業繁榮の源泉たりしルール地方の占領は、恢復を急務とするドイツに致命的な打撃を與へた。殊に此の占領の目的たるや、單に賠償金支拂の強制手段たるに止らず、他方には炭坑や鐵道の管理によつて直接に賠償金を取立てんとするにあつた。よつて佛白兩軍は盛んに石炭、コークスを徵發し、鐵道を強制管理して其の收入を押へ、國有林を伐採し、其他工場の製品を沒收した。此の無辜の國民の頭上に課せられた高壓手段は、此の地方の愛國的感情を著しく刺戟した。しかし其の對抗策としての消極的抵抗は失敗に終つた。何となればそれはフランスには何らの痛痒を感じしめざるのみならず、却つて一時的にもせよルール地方の全産業を全く荒廢せしめたからである。必然の結果として全ドイツ經濟は破局的混亂に陥つた。マルク紙幣の暴落と物價の狂騰とは極度に國民生活を脅かした。尤も此のインフレーション的傾向は早くも一九二二

年十一月上部シュレシヤ問題決定の際に始まりかゝつてゐた。假りに當時マルク價下落の上に現はれた數字を示せば左の通りである。

一九二二年五月	一ドル………六二マルク
八月	八四〃
九月	一〇五〃
十月	一五六〃
十一月	二七〇〃

(十一月十二日上部シュレシヤ問題決定)

次いで一九二二年七月以降、巨額賠償金支拂とマルク爲替投機に加ふるに、ラテナウの暗殺はドイツ政界並に財界に對する不安を高め、マルクは再び左の如く落調を辿り始めた。

一九二二年七月	一ドル………四九三マルク
八月	一、二〇〇〃
十一月	八、〇〇〇〃

此の勢に拍車をかけたものが右のルール占領である。一九二三年一月には對米一ドルにつき四萬マルクの相場は同年十一月中旬には一ドルに付き四萬二千億マルクと云ふ驚くべき暴落を示し、マルク紙幣の國內價值もそれに準じ、マルク紙幣は文字通り反故化したのである。ゼームス・エンゼルは當時のドイツ一般國民の窮乏を指摘して云ふ「ドイツ人の大部分に取つて恐ろしい受難と絶望の時期であつた。此の五年間を通じて彼等は飢餓と隣合せに住み、彼等の貯へは飛び去り、彼等の商品は翌日の僅かな食物の代償として消え去つた。大工業家、金融資本家、投機者、地主等の少數の繁榮は、一般國民の困惑と窮乏との上に何物も齎らさなかつた。此の時代に國民の健康と力とは甚だしく損はれた。同時に心理状態も必然的に悪化し、國民道徳は此の苛酷な條件が課せられた時には正に最低に達した¹²⁾」

此の混亂の結果ラインランドには分離運動さへも起り、此の前後はドイツに取つて最も憂ふべき存亡の秋であつた。

此の消極的抵抗の失敗から八月十二日クノー内閣は瓦解し、シュトレゼマンがこれに代

12) James W. Angell; The Recovery of Germany, p. 57.

り九月其の中止を命じた。ヒットラーはクノーの此の失敗を次の如く嘲笑してゐる——「ドイツに取つての一つの禍は、此の商人たる政治家クノーが政府を企業と見做し、企業として取扱つたことである。『フランスはルールに石炭があるから占領したのではないか?』故にクノー氏に取つては、ストライキの敢行によつて、フランスが石炭を獲ることが出来なくなれば、企業の利潤が無くなつた結果として即刻に撤退するだらうと考へたことに少しも不思議はない¹³⁾」

民衆の憤怒と絶望とは其の極に達した。何人か起たなければならぬ。ヒットラーは叫んだ、「國民は犠牲によつてのみ救はれるのだ!」と。

一九二三年十一月八日、ドイツ革命五週年記念日の前夜、ヒットラーは將軍ルーデンドルフと共に、ミュンヘンのビュルガーブロイ・ケラーに於て、バイエル政府首腦者、即ち統治者カール、首相クニリーング、第七師團長ロツソー、警視總監ザイサー、高等法院長ボエナー等と語らひ、「十一月制度の終末とドイツ國民假政府の樹立」とを宣言した。しかし此

13) Hitler; a. a. O., S. 776.

のドイツ國民假政府はカール、ロツソー、ザイサー等の裏切りの爲に脆くも失敗し、ヒットラーは逮捕され、ナチス本部は完全に攪亂され、機關紙の發行は禁止された。

翌年三月彼は禁錮五ケ年、六ヶ月後保釋の判決を受けて、ランヅベルグの獄に下つた。

此のミュンヘン一揆は一時ナチス運動を根絶せしめたかに見えた。しかしヒットラーの植ゑ付けた國民主義の種は益々根強く生長しつゝあつた。一九二四年十月獄中で書いた「我が闘争」の一卷を抱いて出獄した彼は、間もなく其の勢力を恢復した。

一九二八年五月のドイツ總選舉には八十萬九千の得票を以て、議會に初めて十二の議席を獲得した。ナチスの議會闘争は正に此の時から始まる。

各聯邦議會に於てもナチスは目覺ましい躍進を續け、就中チュリンゲンに於ては、一九三〇年一月人民黨とナチスとの聯立内閣が成立し、ナチス黨員フリックが内務大臣として入閣した。

一九三〇年ヤング案の成立は再度國民を刺戟した。受諾か拒絶かの問題に付いて、國論が

沸騰した。其の成立を迎へた、謂ゆるワイマール憲法擁護派に對して、ナチスはフリーゲンベルグの率ゐる國權黨、デュスターベルグの鐵兜團と提携して、受諾反對運動を起して、六百萬の支持者を得た。

ナチスのヤング案反對の態度が、如何に當時の人氣に投じたかは、同年九月十四日の總選舉の上に靦面に表はれてゐる。即ち此の選舉はナチスをして六百萬の得票と、一〇七の議席とを獲しめ、ナチス運動發展の上に一時期を劃した、極めて重要な意義を持つものなるが故に、それに基づく各政黨の分野を掲げよう。

三五選舉區	
議席數	五七七
選舉權者數	四二、九八二、九一二
投票者數	三五、二二四、四九九
有效投票數	三四、九五六、四七一
各政黨當選者數並に得票數	

獨逸社會民主黨	一四二	八、五七五、二四四
國民社會主義獨逸勞動黨	一〇七	六、三七九、六七二
中央黨	六八	五、一八六、六三七
バイエル人民黨	一九	
獨逸共產黨	七七	四、五九〇、一六〇
獨逸國權人民黨	四一	二、四五七、六八六
獨逸人民黨	三〇	一、五七七、三六五
經濟黨	二三	一、三六一、七六二
獨逸國家黨	二〇	一、三二二、〇三四
獨逸農民團	二〇	一、一〇八、〇四三
キリスト教社會人民奉仕團	一九	八六八、二六九
獨逸農民黨	六	一、〇七三、五一六
農民同盟	四	
ハンノヴェル黨	四	
人民保守黨	三	四五七、〇八三

ヤング案の実施によつて一應賠償問題は解決したものゝ如く信じられた。しかしながら戦債並に賠償問題は世界經濟機構の上に於ける痛である。就中ドイツに取つて賠償金支拂の唯一の途は外資の借入によつて國內産業を繁榮せしめ、外國貿易の伸張を計るにあつた。其の結果はドイツの經濟機構に於ける基礎を益々脆弱ならしめた。一九三〇年末ドイツの短期外資總額は百三億マルクに達した。其の前年十月ニューヨーク株式市場の破綻に次ぐ世界經濟恐慌の深刻化は、此の脆弱な基礎に立つドイツ金融財政の上に最も直接的に反映した。加ふるに國內政治的不安があり、アメリカを初め、イギリス、スイス、オランダ等の債權國は資金を續々と引き揚げ始め、七月初めには十四億マルクを割る形勢になつた。かゝる情勢下にあつてフーヴァーのモラトリアム聲明は却つてドイツへの危惧を深めしめることにしか役立たなかつた。七月十三日のダナート銀行破綻に端を發して、ドイツは激しい金融恐慌に襲はれた。他面に於て近年國際貿易上の傾向たる各國の關稅の障壁は、ドイツ輸出貿易を不振ならしめ、これらの原因が相俟つて國內産業を壓した。必然の結果として失業者は増大し、一

九三二年の初めには其の數六百萬と推算された。ブリューニングを首班とする中間聯立内閣は此の難局に處すべく餘りに無力であり、それだけに國內政局を不安ならしめた。緊急令に次ぐに緊急令を以て時局を彌縫せんとしたが、民意は既に中間社會主義から離れ、國民大衆は右翼國民主義か、左翼共產主義かに奔つた。

一九三一年十月十一日のハルツブルグに於ける國民社會黨、國權黨及び鐵甲團の右翼諸團體の聯合による「國民反對派」の示威運動は、正に此の無力無策な聯立内閣に對する挑戦であつた。他面には金融資本の桎梏からの解放、ヤング案廢棄、失業者救済等の共通の問題を挟んで左右兩政黨の對立は尖鋭化し、一步誤れば市民戰爭にまで進展すべき危機を醸し出した。

一九三一年秋、相次いで行はれた各支分國議會選舉の結果は、中間諸派の益々急激な顛落と、國民社會黨並に共產黨の對立激化を物語る以外の何物でもない。就中國民社會黨はあらゆる地方選舉に例外なしに目覺ましい躍進の跡を示してゐる。

次いで本年一月のリッペーデットモルド、メクレンベルグシシュテレリッツ、及び四月のプロシヤ、バイエル、ウエルテムベルヒ、ハムブルグ、アンハルトに於ける選舉の結果も亦同斷である。殊に特記すべきは、共和國成立以來社會民主黨の牙城であり、且つドイツ政界の死命を制するプロシヤ議會に於て、國民社會黨は前回の六名から一躍百六十二名を獲得して、社會民主黨を蹴落したことである。

これに先立つ二月十三日の大統領選舉に於てはヒットラー自ら出馬した。

ヒンデンブルグ	一八、六六一、七三六
ヒットラー	一一、三三八、五七一
テールマン(共產黨)	四、九八二、〇七九
デュターベルグ(鐵甲團)	二、五五七、八七六
ウインター(革命黨)	一一一、四五六

右の結果を以てしてはヒンデンブルグの得票はなほ憲法規定の絶對多數に達しなかつた爲

に、次いで四月十日決選投票が行はれた。

ヒンデンブルグ	一九、三六七、六八八
ヒットラー	一三、四一九、六〇三
テールマン	三、七〇五、八八九

此の結果ヒットラーは落選したが、共産黨のテールマンを約一千万票の大差を以て引き離した。

當時中間派諸新聞紙は右の結果を以て、穩健派の勝利なりとして、内政的安定と、協調的外交政策を維持するものとしてヒンデンブルグの勝利を祝福した。果してさうだつたらうか？

其の翌日早くもブリューニング内閣は失業問題解決策としての土地管理案に關聯して瓦壞し、それに代るバーベン内閣の下で、七月三十一日聯邦議會總選舉が行はれた。其の結果は左の通りである。

國民社會黨	二三〇	一三、七三二、七七九
社會民主黨	一三三	七、九五二、二四五
共産黨	八九	五、二七八、〇九四
中央黨	七五	四、五八六、五〇二
バイエル人民黨	二二	一、一九〇、四五三
國權人民黨	三七	二、一七二、九四一
獨逸人民黨	七	四三四、五四八
國家黨	四	三七一、三七八
經濟黨	一	一四六、〇六一
農民團	一	九一、二八四
キリスト教社會黨	四	三六四、七四九
農民黨	二	一三七、〇八一
ウユルテンベルグ農民黨	二	九六、八五九

かくの如く國民社會黨は前回の二倍以上、即ち二百三十の議席を擁して、第一黨になり、

聯邦議會議長はナチス派のゲーリングが選ばれるに至つた。

最初バーベン内閣が成立した時、其の背後にナチスの有力な支持があるものと一般に信じられてゐた。しかるに八月十三日の組閣問題に關する政府とナチスとの交渉決裂以後、兩者は激しく對立するに至つた。此のバーベン對ヒットラーの乖離の結果は、政府のナチスに對する彈壓となつて現はれ、ナチスの突撃隊の如きは屢々苛酷な騷擾鎮壓令及び死刑令によつて其の活動を拘束されるに至つた。九月四日經濟振興を目的とする謂ゆるバーベン經濟計畫に關する緊急令が公布されたが、大膽な戻稅制度を骨子とする此の案は、左翼からは有産者を保護するものと見られ、右翼からは社會化への道程なりと非難された。同月十三日此の問題を中心として共產黨から内閣不信任案が提出され、騷擾裡に議會は解散された。次いで十一月六日に行はれた總選舉の結果は左の通りである。

國民社會黨	一九五	二三〇
	新	舊

社會民主黨	一二一	一三三
共產黨	一〇〇	八九
中央黨	七〇	七五
バイエル人民黨	一八	二二
國權人民黨	五〇	三七
獨逸人民黨	一一	七
國家黨	二	四
キリスト教社會黨	五	五
經濟黨	二	二
農民黨	六	二
ハンノヴェル黨	一	一

此の内注目すべき現象はナチスが三十五名を減じたるに拘らず、共產黨は十一名を増加したることである。しかしながら此の結果を以て直ちにナチス衰退の兆と、共產黨進出の希望とを示すものだと斷定することは早計である。蓋し今回のナチスの減少はバーベンII シュライ

への壓迫の下に右翼政府黨たる國權黨に蠶食されたと信すべき理由があると同時に、他面共産黨の増加も社會民主黨の犠牲に於てのみ得られたものだからである。

以上述べた如くナチスは今日まで正に驚異すべき急テムボを以て發展し、今や其の動向は單にドイツ國內のみならず、世界の視聽を集めてゐる。とは云へナチスは現在まで一絲亂れず、坦々たる途を歩いて來た譯ではない。他のあらゆる團體、運動がさうである如く、ナチス陣營内に於ても、感情の齟齬、救ひ難い意見の對立があつた。其の顯著な例は一九三〇年春のオットー・シュトラッサー一派の革命的國民社會黨の樹立、シェリングァース中尉以下五名の共産黨への轉向、一九三一年四月のシュチンネスの除名等である。

ナチスが將來如何なる運命を擔ふべきか、何人も豫斷し得ないところであるが、失業問題、軍備制限撤廢問題、對議會問題、等々の重要問題を廻つて愈々激化さるべき共産黨との對立、乃至はシュライヘルによつて代表されてゐる軍閥との關係に於ける將來のナチスの動向こそは、尠ならず我々の關心をそゝる問題である。

第二節 國民社會主義運動の綱領

一九二〇年二月二十四日のミュンヘンに於ける最初の大衆演說會に於て、二十五ヶ條のナチスの綱領が發表されたことは前に述べた。此の綱領こそはナチス運動の指針を爲すものであるから、此處に其の全文を掲げやう。

國民社會主義ドイツ勞働黨綱領

ドイツ勞働黨綱領は暫定的綱領とす。但し指導者は、將來生すべき大衆の不滿に基き黨存續を可能ならしむる目的を以てする外は、本綱領に於ける目的達成後と雖も、新たなる規定を加ふることを禁止す。

一、我々は各民族自決權を基礎として、一切のドイツ人が大ドイツの下に團結することを要求す。

- 二、我々は他國民に對するドイツ國民の平等の權利を要求す。此の故を以て我々はヴェルサイユ平和條約とサン・セルマン平和條約との廢棄を要求す。
- 三、我々は我が國民の扶養と、我が過剩住民移住との爲に土地（殖民地）を要求す。
- 四、國民たり得る者はドイツ人のみとす。ドイツ人たり得る者は、宗教の如何を問はず、ドイツ民族のみとす。故にユダヤ人は總てドイツ人たることを得ず。
- 五、國民たらざる者は、單に外來者としてドイツに居住する權利を有すると共に、外人法の適用を受くべき義務を有す。
- 六、國家の行政と立法とを決定する權利は國民にのみ賦與すべし。故に我々は國家、聯邦、市町村を通じて、各種の官公職は國民のみに與へらるべきことを要求す。我々は個人の性能を無視し、黨略のみを以て官公職を獨占する腐敗的議會政治を克服す。
- 七、我々は國家が國民の營業と生活との安全保護を以て第一の義務と爲すべきことを要求す。國家の全住民の生計維持困難なる時は、外國人を國外に放逐すべし。

八、ドイツ人ならざる者の將來の移住を禁止す。我々は一九一四年八月二日以後ドイツに移住したる一切の非ドイツ人の即時國外退去を要求す。

九、あらゆる國民は平等なる權利義務を保有すべし。

一〇、各國民の第一の義務は心身を健全ならしむる點にあり。個人の活動は全體の範圍内に於て、専ら萬人の利益を計るを目的とし、決して全體の利益に衝突すべからず。此の故に我々は次の條項を要求す。

一一、不勞所得の廢止。
利子奴隸制の打破。

一二、一切の戰爭に基く財産と生命との莫大なる犠牲に對比すれば、戰爭による個人的致富は國民に對する犯罪と見做さざるを得ず。故に我々は一切の戰時利得の完全なる沒收を要求す。

一三、我々は一切の（從來）既に社會化されたる企業（トラスト）の國營を要求す。

- 一四、我々は大企業に於ける利益参加を要求す。
- 一五、我々は大規模の養老制度の確立を要求す。
- 一六、我々は健全なる中産階級の創設と其の維持、百貨店の即時共有化、及び小營業者に對する其の低廉なる貸與、並に國家、聯邦、市町村に對する販賣の際に、一切の小營業者に優先權を與ふべきことを要求す。

一七、我々は我々の國民主義的要求に合致せる土地改革、共同利益を目的とする土地の無償沒收に關する法律の制定、地代の廢止、一切の土地投機の禁止を要求す。

註 釋

ナチスの綱領第十七條に對して反對者側から曲解せる解釋を加へられる結果として次の如き説明を加へねばならない。

黨は私有財産制の基礎に立つが故に「無償沒收」なる言葉は法律の制定に俟つべき

ことは云ふまでもない。不法に獲得され、又は國民の幸福の見地から管理されない土地は、必要に應じて沒收せねばならない。このことは第一にユダヤ人の土地投機會社に向けられる。

一九二八年四月十三日

ミュンヘン、アドルフ・ヒットラー

一八、我々は共同の利益を阻害するが如き行動を爲す輩に對して、斷乎たる鬭争を行ふべきことを要求す。公民に對する犯罪者、高利貸、買占人は、其の信教、人種の如何を問はず死刑に處せらる。

一九、我々は唯物論的世界秩序に味方するローマ法をドイツ共同法を以て補正することを要求す。

二〇、一切の有能にして勤勉なるドイツ人に教育を授け、指導的地位に就かしむる目的を以て、國家は全國民教育制度の根本的改革を立案すべし。百般の教育機關の教育原則は實生活上の要求に合致せざるべからず。國民思想の培養は教授（國民學）開始の當初に於て爲す

べし。我々は其の身分職業の如何を問はず、國費を以て貧困なる父兄の子弟に特に必要なる精神教育を施すことを要求す。

二二、國家は母子の保護、幼年労働の禁止、體操及びスポーツの義務の立法制定による身體鍛練の實施、一切の健全なる青年教育團體に對する最大の援助、によつて國民の健康を増進せしむべし。

二三、我々は傭兵隊の廢止と國民兵の完成とを要求す。

二四、我々は故意の政治的偽瞞と、其の新聞紙による流布とに對する鬭争を要求す。

ドイツ新聞紙の創刊許可に關し、我々は左の條項を要求す。

a、ドイツ語を以てする新聞紙の編輯者、及び其の協力者は總てドイツ人たることを要す。

b、ドイツ以外の新聞紙の販賣は國家の許可を要す。右の新聞紙はドイツ語を以てするを得ず。

c、非ドイツ人のドイツ新聞紙に對する金融上の援助、又は干渉は法律を以て禁止し、これが違反の罰則として、該新聞紙の發賣禁止、及び關係外國人の即時國外追放を要求す。

共國利益に反する新聞紙は禁止す。我々は國民生活上有害なる藝術、及び文學の法律的禁止と、これに違反せる機關の閉鎖とを要求す。

二四、我々は國家に於ける、あらゆる信教の自由を要求す。但し國家の存立を害せず、又はドイツ人種の道德觀に反せざるを以て條件とす。

我が黨は宗教的に一派に拘束されることなく、既成キリスト教を以て其の立場とす。黨は我々の内外に於けるユダヤ的唯物論的精神を克服すると共に、我が國民の永遠の強化は左の原則により、専ら内部より達せらるべきことを確信す。
私益に對する公益の優先。

二五、以上の諸原則遂行の爲に、我々は國家の強力なる中央權力の確立、國家全體に對す

る政治的中央議會の無條件の權威と、其の一般的組織とを要求す。

國家に委任されたる範圍内の法規實施の目的を以てする身分階級會議、職業階級會議の創設。

黨指導者は以上の條項實施貫徹の爲、必要あらば生命を捧げることを辭せず。

一九二〇年二月二十四日

ミュンヘン

此處に見るが如く此の綱領は、あらゆる政治的、經濟的、文化的政策について網羅的に體系付けられたものでもなく、其の要求事項の配列も整然としてゐない。しかるに一九二六年五月二十二日のナチス總會の席上に於て、「此の綱領は不變である」ことが宣言された。蓋し其の謂は、フェーダーの言を以てすれば、言葉の變更や、各條項の意義徹底化の爲の補正をも禁止するといふ意味に非ずして、其の根本精神を變更してはならないといふにある¹⁴⁾。故にそれは四圍の情勢の變化によつて、適宜な變革補正の加へられることは必要でもあるし、又當然期待されなければならない。

14) Gottfried Feder; Das nationalsozialistische Programm, S. 11.

ナチスの陣營内に於ても、此の綱領の不備缺陷は夙に認識されてゐるところであり、隨つてフェーダーの如きはこれに對する補足案として次掲の綱領案を作成した。勿論これは其の根本精神に於てナチスの綱領を一步も出でゐないが、其の補足乃至布衍として、ナチスの行はんとするところを、より明瞭に示してゐるやうに思はれるが故に、此處に其の全部を掲げやう。

ナチスの國家及び經濟綱領

一、國家政策的原則

ドイツ國家はドイツ人の故郷なり。

a、外交政策

- 1、一切の階級のドイツ人を包含せる統一的國民國家の確立。
- 2、外國に於けるドイツの利益の有力なる代表。

b、人種政策

- 3、ユダヤ人及び、あらゆる非ドイツ人の公的生活上に於ける責任ある地位よりの排斥。
- 4、東方ユダヤ人、其の他の寄生的外國人來住の禁止。益なき外國人並にユダヤ人は排斥せざるべからず。

c、國民政策

- 5、ドイツ文化及び運命を共にすべきドイツ人のみが、國民の權利を享有することを得。
- 6、ドイツ人にあらざる者は、ドイツ外客として外人法に服従すべし。
- 7、ドイツ人の權利と要求とは、外國人のそれに優先す。

二、經濟政策の原則

- 國民經濟の課題は需要供給に存し、金融資本をして最高の利得を爲さしむべきものに非ず。
- 8、國民社會主義は原則として私有財産制を承認し、且つそれを國家の保護下に置く。

- 9、但し國民全體の幸福の見地より、個人の手に集積すべき富に關しては一定の限度を置く。
- 10、一切のドイツ人は全體の幸福と文化との促進を目的とする團體を構成す。
- 11、一切のドイツ人は、かゝる一般的勞働の義務の範圍と、私有財産制の根本的承認との下に於て、自由なる營業の能力と、自由なる勞働所得の處分權とを享有す。
- 12、農業をも含む經濟生活の全領域に互り、小、中、大の經營を適宜に混合せしむべし。
- 13、從來既に社會化されたる事業は總て國有化すべし。
- 14、暴利、奸商並に國民の費用と犠牲とに於て、顧慮なく利己的富を追求する者は死刑に處せらる。
- 15、一切のドイツ人に對する勞働義務年限の制定。

三、金融政策の原則

貨幣制度は國家の支配下に立ち、金融力を以て國家内に國家を立つることを得ず。故に我

我は利子奴隷制の打破を企圖す。右の目的達成の手段は左の如し。

- 16、國家及び國民をして大金融資本に對する利拂義務より解放すること。
- 17、ライヒスバンク及び發券銀行の國有化。
- 18、一切の大公共事業（水力の利用、交通路の開発等）に於て資金調達を爲すには、無利子の國庫證券發行の方法を以てし、借入金の方法を回避すべきこと。
- 19、保證準備を有する幣制の確立。
- 20、無利子貸附を目的とする官公立建築産業銀行の創設（幣制改革）。
- 21、社會的國民經濟的原則に基く税制の根本的改革（税制改革及び免稅）。

四、社會政策的原則

- 22、終身年金制度の國有化による大規模の老年保險の確立。一切の急迫せるドイツ人に對し、一定の年齢、又は永久的營業無能力に應じて相當額の年金を支給す。
- 23、生産事情に従事する總ての者が、其の能力と年齢とに應じて、國民經濟的使命遂行

の爲に共同の責任を以て、其の事業に参加し、且つその収益に参加せしめらる。

- 24、名譽ある勞働に基かざる戰時並に革命時の利得、及び貪慾と暴利とによつて得たる財産を沒收し、これを社會事業建設に使用す。

- 25、第二十項に基き新設されたる公共的建築産業銀行によつて、全國的なる住宅新設によつて住宅難を緩和す。

五、文化政策的原則

政治的に自由にして、經濟的に健全なる國家の基礎に於ける、一切の科學と藝術との興隆を以て我々の最高の文化的使命とす。此の目的の爲に左の事項を要求す。

- 26、偉大なるドイツ精神生活の傳統によつて、肉體的に健全にして、精神的に自由なる青年の育成。
- 27、完全なる信教と良心との自由。
- 28、キリスト教の信條告白に對する特別なる保護。

29、ドイツの道德感に矛盾し、且つ國家及び國民の阻害を内容とするが如き宗教の壓迫。

30、有害なる著作、新聞紙、著書、藝術、演劇等の禁止。

31、ドイツ高等專門學校に於ける教授の自由、及び特殊技能ある指導的階級の養成。

六、軍事政策の原則

32、總ての自由なるドイツ人に對する武裝許可による國民の防衛。

33、傭兵制度の廢止。

34、嚴格なる階級的訓練を基礎とする專門將校團の下に於ける祖國防衛の爲の國民軍の編成。

七、其の他の諸改革

35、新聞制度の改革。ドイツ國民の要求に背馳する一切の新聞紙の發禁。虚偽又は故意に歪曲せる報道に對する最大の責任。

36、甚だしく頽廢せる現行選舉運動並に被選舉者の無責任（責任免除）の除去による選舉法の改革。

37、職業代表會議の創設。

38、土地所有權——土地所有權の原則的承認、個人的資本による土地金融の不許可、特に外國人及びユダヤ人に對する國家の先買權、不注意に管理されたる土地の國家的強制管理）

民法改革——（財産の一面的保護に對する現行法律に對し、個人的名譽、其の健康のより嚴重な保護）

39、國法改正

國家的形態——ドイツの本質に合致せる政體は、最高の首長の下に統一されたる國民主義的統治制度なりとす——此の首長が國民選舉君主か、大統領かは後の國民投票に一任す。聯邦制度——相互に異なる起源と歴史とに基き、鞏固なる內的結合によるドイツ國家

は、當然各支分國の廣汎なる内政的自治權によつて制限す。

聯邦國家の任務は、旅券、關稅、及び陸海軍の對外的ドイツ國民の代表にあり。

以上の綱領の全部について論評することは差當り本書の目的でもなく、其の閑暇もないが、其の主要なものに付いては後に逐次説明しやう。

第四節 ナチスの構成分子

一九一九年には僅々七名の黨員を擁した「ドイツ労働黨」から僅かに十三年後の今日、中央議會に於て二百二十九の議席を獲得して最大多數黨になり、過般の大統領選舉には一千三百四十萬票の支持を得たナチスの躍進の跡を辿れば、正に驚歎する外はない。

然らば此の加速度に増大したナチスの勢力は何處から來たか、又如何なる階級層の支持によるものであるか、これを研究することが本節の任務である。

詳細な數字を以て論證することは困難であるが、フランクフルター・ツァイツング紙は第一

回のナチスの躍進を物語る一九三〇年九月十四日の總選舉の結果に付いてかう述べてゐる。

「以上の選舉の結果の分析によつて、社會主義的二政黨は其の舊勢力を維持した。此の二政黨の勢力は一九二八年の議會に於ける四二・二％に對して一九三二年には三八・二％である。勿論これは一見すれば、衰退を物語るやうであるが、議員の絶對數は却つて十二名（二百七名に對する二百十九名）を増大した。このことは此の二政黨が最初から其の選舉民をよく動員し得た證左である。……これに反しナチスの勢力は一九二八年に既に殆んど動員し盡されてゐた。それ故に一九三〇年に於ける議員の増員（四百九十二名に對する五百七十六名）は大部分他のブルジョア諸政黨の占める所となつた。ナチスの勢力増大が大部分無産黨以外の諸政黨の犠牲によるものなることは、二、三の比較數を擧げるだけで證明される。例へばナチスが最も多くの支持を得たのは、ホルシュタインの二七％、ボムメルン、プレスラウ、南ハンノヴァーの二四・二％、バルツ、フランクフルト・アン・デア・オーデル、フランケン、東プロシヤ、メクレンブルグ、ウエーザー||エムズ、東ハンノヴァーの二〇％強であ

る。これに對して南北ウエストファーレンでは一二%及び一三・八%、ベルリンでは一二・八%、ライプチヒでは一四・一%である。故にナチスは社會民主黨及び共產黨の犠牲に於ては、中間諸政黨の犠牲によつて其の得票を増したのである。而してこれらの中間諸政黨は直接に其の從來の支持者を失つたのみではなく、新有権者の支持をも失つたのである。更に云ふ、――

「勿論ヒットラーの勢力は今日の客觀的狀勢から推せば、未だ其の頂點には達してゐない。世界經濟恐慌の嵐のたゞ中に、賠償の重壓に喘ぐドイツ民衆は、其の生活の窮迫が高まるに従つて何らかの制度の變革を求め、其處に逃避せんとする願望が熾烈である。其處にナチスの勢力扶殖の餘地がある。

其の基礎は二千百萬の無産労働者の存在である。一九二五年の統計によれば、右の二千百萬の労働者中一千五百萬は狹義の労働者であり、五百五十萬は銀行會社の使用人及び下級官公吏である。更に他方に小商工業者の群がある。此のプロレタリア大衆群に對して謂ゆる資

本家の數は抑々其の何パーセントに當るか？ しかるに現在のドイツ政黨の分野は毫も此の社會的階級層を反映してゐない。即ち前掲の一九三〇年九月の總選舉には、約八百五十萬の社會民主黨、約四百五十萬の共產黨の得票があつた。合計一千三百萬票、これだけがプロレタリア團體の得票の全部で、残りの多數労働者は社會主義的諸政黨に反對だつたと見なければならぬ。

故に從來はナチスはこれらマルクシストから得票を奪はずとも、五百五十萬の使用人、五百五十萬の小商工農業者を味方にすればよかつたし、また事實上も此の階級こそがナチスの中心勢力であつた」と。

かくてフランクフルター・ツァイツング紙は少くとも一九三〇年の選舉に於ては、ナチスは無産黨の陣營に喰ひ込み得ず、其の増加は一に中間諸政黨の犠牲と、新有権者たる青年の支持とに俟つものだと結論してゐる。

又ハンス・イエーガーはローテ・アウフバウ誌¹⁵⁾上に於て、右選舉の結果によるナチス陣營

15) Hans Jäger; Der Rote Aufbau, III. Jg. 1930, Heft 10, 529/35.

を左の階級群に分類してゐる。

ナチス得票數	六、三四〇、〇〇〇
ブルジョア	三二五、〇〇〇
中産階級	一、七九〇、〇〇〇
農民	一、一三〇、〇〇〇
勤人	一、七四〇、〇〇〇
労働者	一、三五五、〇〇〇

そしてイエーガーは右表の中で、労働者は大部分新有権者たる青年労働者だと云つてゐる。勿論イエーガーは左翼的反対側から見たものであつて、右の數字に絶對的公平さは認められないとしても、此の表に於て觀取されることは、中産階級（イエーガーは中小商工業者を指すのであらう）、觀念上中産階級に屬すべき勤人及び農民に大部分の支持を得てゐる事である。

以上は一九三〇年九月總選舉の結果によるものであるが、其の後の地方選舉を資料とし

て、ウェルナー・シュテファンはツァイトシュリフト・フュア・ポリチーク誌¹⁶⁾上で興味ある研究を發表してゐる。

第一に彼は一九三一年の秋に行はれた各支分國議會選舉の結果を、其の地方の經濟的、宗教的事情によつて左の四群に分けた。

第一群

	アラウンシュロイグ	アンハルト	シャウムブルグ	リッペ
ナチス	二六・六	三〇・〇	二〇・四	三六・三
ブルジョア諸政黨	二六・一	二〇・九	三〇・三	一七・一
社會主義諸政黨	四七・三	四九・一	四九・一	四六・五
	一九三〇	一九三一	一九三〇	一九三一
	一八・一	一七・一	一八・一	二七・〇
	三〇・五	二二・〇	三一・四	二二・〇
	五一・〇	五一・〇	五一・四	五一・〇

これらの北方諸國は九五乃至九九%まで新教徒であり、經濟的には農業が最も發達して

16) Werner Stephan; Zeitschrift für Politik, Dezember. 1931, Mai, August, 1932.

るが、工業も相當繁榮してゐる。而して此の地方ではナチスはアルジョア諸政黨の犠牲に於て勢力を増加し、社會主義諸黨は舊勢力を維持した。

第二群

	メクレムアルグIIシユウエイリン	
	一九三〇	一九三一
ナチス	二一・八	四一・〇
アルジョア諸政黨	三六・四	一八・五
社會主義諸政黨	四一・八	四一・八

此の地方も亦新教徒が多く、主として農業が行はれたるが、同じくナチスは中間諸政黨の得票を奪つて二倍の勢力になつた。

第三群

	ハムアルグ		ブレーメン	
	一九三〇	一九三一	一九三〇	一九三一
ナチス	一九・二	二六・二	一二・〇	二五・六
アルジョア諸政黨	二九・三	二二・九	四〇・一	三〇・二
社會主義黨	五〇・〇	四九・五	四五・五	四二・一

これらのハンザ諸都市は新教徒であつて、商工業が盛んに行はれてゐるが、ナチスの勢力は他地方に比して甚だしく微弱であるに反して社會主義ブロックは甚だ強力である。

第四群

	ヘッセン		オルデンブルグ	
	一九三〇	一九三一	一九三〇	一九三一
ナチス	一八・五	三七・一	二七・三	三七・三

アルシヨア諸政黨	二七・五	一〇・六	二六・九	一六・九
中央黨	一三・九	一四・三	一七・一	一七・六
社會主義黨	四〇・一	三八・〇	二八・七	二八・二

此の地方ではカトリック舊教が二三乃至三一%を占め、ヘッセンでは農工業が行はれ、オルデンブルグは主として農業地であるが、ナチスは後者に於ては前者程勢力を増大し得なかつた。此の地方で特殊な地位にあるのはカトリック教徒の支持する中央黨であつて、其の勢力は却つて増大した。このことはナチスがカトリックの支持を得なかつた證左である。

第二に彼は一九三二年四月二十四日に於けるプロシヤ、バイエル、ハムブルグ、アンハルトに於ける選舉及び三月のリップペーデットモルド、一月のメクレムブルグ、シユテリッツの選舉の結果を左の通り分類してゐる。

第一群

	プロシヤ
社會主義諸政黨	一九三〇
中央黨	一九三二
ナチス	三三・三
その他	三四・四
	プロシヤ
社會主義諸政黨	一九三〇
中央黨	一九三二
ナチス	三三・三
その他	三四・四

プロシヤは工業地方であり、大部分新教徒であるが、なほナチスは其の勢力を倍加した。

第二群

	バイエル	ウュルテムベルヒ
社會主義諸政黨	一九三〇	一九三二
	一九三二	一九三二
	二六・八	二五・九
	二二・三	二九・九

中 央 黨	三二・一	三二・六	二〇・五	二〇・五
ナ チ ス	一七・九	三二・五	九・四	二六・四
其 の 他	二四・二	一二・六	四〇・二	二七・二

此の南獨二州は三分の二は舊教徒であり、宗教的色彩が極めて濃厚であると共に、農民の勢力が大である。従つて此の地方に於ては中央黨の勢力は牢固として動かし難く、他の政黨の勝敗は一に農民の向背によつて決定されるのであるが、ナチスは此の地方に於ても躍進の跡を示してゐる。

第三群

中 央 黨	社 會 主 義 諸 政 黨	ハムブルグ	アンハルト
		一九三〇	一九三二
	五〇・〇	四六・七	四九・三
	一・五	一・四	一・二
			四四・〇
			一・二

此の北部二州は商工業地で新教徒が大部分であるが、なほ社會主義諸黨が最も勢力を占めてゐる。

第四群

ナ チ ス	一九・二	三一・三	二〇・四	四〇・八
ア ル シ ョ ア 諸 政 黨	二九・三	二〇・六	二九・一	一四・〇

社 會 主 義 諸 政 黨	リッペルデットモルド	メクレンブルグ	シユテリッツ
	一九三〇	一九三二	一九三〇
ナ チ ス	三九・三	三九・二	四〇・五
	二二・四	三〇・七	二二・六
ア ル シ ョ ア 諸 政 黨	三五・五	二七・六	三六・九
			一九三二
			三六・二
			二三・八
			四〇・〇

此の北部農業二州は殆んど新教徒であつて、ナチスは國權黨の犠牲によつて僅かに其の

得票を増してゐるに過ぎない。

第三に彼は本年六月の國會總選舉の結果を左の如く示してゐる。

	一九三〇	一九三二
ナチス	一八・三	三七・三
ブルジョア諸政黨	二八・九	一〇・六
中央黨	一四・八	一五・七
社會主義諸政黨	三七・六	三六・一

以上の諸選舉の結果の分析に基いて、シュテファンの結論せんとすることを總括すれば、大略次の四點に歸着する。即ち

- 一、ナチスは宗教的にはカトリックの支持を得ないこと。
- 二、社會主義諸政黨は膨脹はしなかつたが、舊勢力を維持したこと。
- 三、就中ナチスは工業地方に於ては甚だしい躍進を遂げ得なかつたこと、及び其の結果と

して

四、ナチスの勢力増大は主としてブルジョア諸政黨の崩壊によつて齎らされたことである。

此の結論は前に引用したフランクフルター・ツァイツング紙、及びイエーガーの所説に一致する。しかしながら此のシュテファンの分析に於て、重大な誤謬は、社會民主黨、社會労働黨及び共産黨が社會主義的ブロックを構成すると見做し、一括してナチスと對比せる點である。現下のドイツ状態にあつては、既述の如く社會民主黨も亦、他の中間諸政黨と共に分解過程にあり、ナチス或ひは共産黨の何れかに蠶食されつゝあるが故に、右の分析に於ては寧ろ共産黨と分離して、ナチスとの勢力消長關係を對比すべきであつた。

とまれ右のシュテファン並にフランクフルター・ツァイツング紙、イエーガーの所説等を綜合すれば、ナチスの中心勢力が勤人、中小商工業者等の謂ゆる中産階級者、農民、青年等であることがわかる。而して同時に此の點から右の論者は異口同音にナチスの發展性をも此

の範圍内に限らんとしてゐる。しかるに最近の狀勢は此の斷定を裏切り、勞働者大衆も亦、社會民主主義の陣營からナチスに投じつゝあることは、プロシヤ其の他の工業地方の選舉に於けるナチスの壓倒的勝利が物語つてゐる。

第五節 中産階級

抑々中産階級とは何か、資本家と無産者との如く、明確な限界を引くことが出来るか否かが第一に提起される問題である。

ヒットラーによれば「總て國民の團體は三大階級に分つことが出来る。即ち一方では人類の最も優秀な極端に立ち、勇氣と犠牲心によつて特徴付けられた、あらゆる道德の意味に於て優れた階級があり、他方ではあらゆる利己的な慾望と惡徳との存在の意味に於て最も俗惡な人間の層が其の對蹠に立つてゐる。此の兩極端の間に第三の階級として、輝かしい英雄主義もなければ、其の代りに犯罪もない、廣大な中間層がある。

一國民團體の發展時代は、最も優秀な部分の絶對的指導によつて特徴付けられる。通常の規則的な發展時代は、中間的要素の慎重な支配によつて特徴付けられる。而してかゝる場合には兩極端の確執は相互に平衡せしめられ、乃至は消滅する。

國民團體崩壞の時代は最惡の要素の支配によつて決定される。

しかし此處に注目すべきことは、私の謂ゆる中間階級としての大衆は、兩極端が相互に闘争し合ふ時に初めて表面に現はれるものであるが、兩極端の一方が完全に支配せる場合には、彼等は常に勝利階級の下に従屬せしめられるのである¹⁷⁾と云つて、國民に三階級のあることを認めてゐるが、此の分類にあつては純粹に經濟的立場からでなく、寧ろ多分に倫理的要素が加つてゐる。

フェーダーも「我々はドイツ中産階級に於て、ドイツ國民の最も價值ある部分を認め、且つ國家、地方團體が中産階級を維持する爲に、あらゆる努力を惜まざることを要求する」と云ひ、更に「經濟理想は多數の中小營業者の自由な存在である」と述べてゐる。同じくナチ

17) Hitler; a. a. O., S. 580 f.

スの綱領第十六條も亦、「健全なる中産階級の創設と維持」とを要求し、「小營業者に對する最大の顧慮」を必要としてゐるが中小營業者の外に、如何なる社會群を中産階級に屬せしめるかは明らかにされてない。

實際、中産階級の社會的意義が重視されるに至つたのは、比較的近來に屬し、隨つてそれが資本主義爛熟期の所産であることには、概して一致してゐるが、其の内容を構成する分子に付いては區々に定義されてゐる。

ウェルニツケは中産階級の概念に關して次の如く述べてゐる。

「従前の中産階級政策は中流農商工業者から出發し、且つ中産階級の概念を規定するものは、獨立せること、即ち熟練勞働力と中小資本とが結合せる點にあつた（ズヒスランド教授）。しかるに他の中産階級研究家は、例へばテオドル・フリツチの如く、其の範圍を擴大せんとして、金權主義と社會民主主義との間にあつて、此の兩極端を克服し、自ら支配權を獲得せんとする、あらゆる階級群を含み、隨つて官吏、勤人、自由職業等も中産階級運動に加へん

とする。故に此の一派は、獨立、資本所有、中間的所得の如き經濟的方面からのみでなく、政治的方面からも定義付けんとした。しかしながら科學的には此の兩者共に、未だ中産階級の完全な把握と限定とに成功してゐない。何となれば、彼等は道德、文化、進歩を擔ふものとしての、中産階級の文化的、社會的意義を正しく認識しないからである。……私はかくの如く定義する。——即ち中産階級に屬する者は、普通の國民教育を受け、其の職業に於て、單に肉體的、機械的勞働のみならず、多かれ少なかれ、精神的勞働をも爲し、中間的所得を得、乃至は中間的資本を所有する人々である。

故に中産階級は全體として見れば、官吏、自由職業をも包含する多少教養ある市民であつて、一方では大なる所得を有する富裕階級層に、他方では無産勞働者、又は専ら機械的勞働にのみ従事する階級に對立するものである。換言すれば、中産階級は其の職業、教育、財産又は社會的地位、生活狀態等によりて、勞働者階級の上層にあると共に、他面では大なる所得や財産を有せざる點に於て資本家、又は有産階級と區別される國民から構成される。

それ故に此處では二極端が存在する。即ち舊來の獨立小商工業者から成る中産階級と、近年の、年毎に増大しつゝある官吏、勤人、自由職業者からなる中産階級とがある。故に中産階級の概念は大體に於て、プチ・ブルジョアの概念と一致する。……昔の社會は貴族、宗教家、町人、其他農民、下層階級者等から構成されてゐたが、十九世紀に至つて、特權階級の除去と共に國民の概念が生じた。……しかしこれらの國民は經濟的並に社會的には數多の階級層、即ち大ブルジョア、中ブルジョア、小ブルジョア、及び労働者、プロレタリアート等に分れた。これに應じて農民も亦、大地主、中農、小農、労働者に分れた。大ブルジョアに屬する者は、大地主、大工業家、大商人、銀行家、高級官吏、其の他の富豪又は資本家であり、中ブルジョアに屬する者は、一般に中産階級と名付けらるべきものであつて、小ブルジョアに屬するものは小商人、小中工業者、旅館經營者、行商人、下級官公吏、勤人、自由職業家である¹⁸⁾と。

即ち彼によれば、中産階級は比較的新らしい階級層であるが、其中でも中小商工業者

18) J. Wernicke; Mitterstandbewegung, Handwörterbuch der Staatswissenschaften, Bd. VI. S. 594 f.

と、精神的勤勞者とに二大別されるべきことを主張してゐる。

ヒルファディングも亦、中産階級を中小經營者を主たる構成要素となす從來の中間階級と、謂ゆる新中間階級たる勤人階級群とに分つてゐる。特に彼の中産階級の發生と、其の經濟的、政治的意義に關する含蓄ある見解は傾聴に價する。

彼によれば中産階級は總て高度資本主義の特徴たるカルテル化による資本の利益獨占の所産である。即ち「獨占的利潤は他のあらゆる階級の頭をはねる¹⁹⁾」ことによつて、一切の産業部門に於ける大資本家の經濟的權力と政治的地位とを高めると同時に、中小企業家をそれだけ壓迫し、其の結果として産業的中産階級は止まる所なく衰退して行く。此處でヒルファディングが特に關心を置いてゐる點は、かゝる資本主義爛熟期の所産としての中産階級が量的に増大するといふ事實でなしに、質的に其の構造が變化すると云ふことである。彼は云ふ――

「小經營の大部分は大經營の補助的事業となり、隨つてそれは大經營の擴張に利害關係を有

19) Rudolf Hilferding; Das Finanzkapital, S. 460.

するに至つた。都市の修繕業、取付業等は、未だ補綴業にまで至らざる大工場生産によつて制約される。あらゆる種類の修繕事業の敵は、工場ではなくて總てこれらの仕事を同時に營む手工業である。それ故にかゝる階級層は労働者とは對立するが、大産業とは對立しない。しかし小經營の比較的大部分は、概して外觀上獨占せるのみであつて、實際には「資本への間接的依存關係」(ゾムバルト)に陥り、隨つて「資本に隸屬」(オットー・バウアー)してゐる。彼等は抵抗力に乏しく、組織力を缺いだ没落階級層であつて、完全に資本主義的大企業に依存し、其の出店になつた。……しかし重大なことは、同時にかゝる發展に伴つて、これらの階級層の政治的地位が變つたことである。……集中の爲の鬭争は寧ろ資本主義的領域内に於ける、大經營に對する中小經營の鬭争として行はれる。……しかしかゝる鬭争は一般に何ら反資本主義的に行はれるに非ずして、彼等中小經營は寧ろ、彼等自身を産み、彼等に活動の餘地を與へてくれる資本主義の急激な發展の中に救済を求めるのである。²⁰⁾かくてヒルファディングによれば、中小企業は大資本の壓迫により、自己の地位が貧窮化するに従つて、

20) Hilferding; a. a. O., S. 460 ff.

其の獨立の存在を失ふのであるが、しかも彼等は資本主義に對立せずして、却つて大資本家に迎合し、獅子の分け前に與らんとするのであると。

次いでヒルファディングは勤人階級を以て、中小經營者によつて構成される従来の階級層と本質を異にするものと主張する。曰く「近時一般に誤つて『新中産階級』と呼ばれてゐる者は、全く異なる立場に立つてゐる。かゝる階級層は商工業に於ける勤人によつて構成され、彼等は、大經營の發達と企業家の社會的形態とによりて、著しく増大し、生産指導者を首班として段階的階級を構成してゐる。プロレタリアート階級をさへ凌ぐ階級層は此の外にはない。……新たな機械の採用は人間労働力を過剰ならしめるが、技術家の監督をば決して過剰ならしめない。それ故に機械的、大資本經營の擴張はあらゆる種類の技術的勤人の生活利益であり、工業の勤人を大資本的發達の最も熱心な支持者たらしめる。

次に株式組織の發達も亦同様な方法で作用する。それは指導を所有から分離せしめ、指導をば高給賃銀労働者や勤人の特殊な機能に委ねる。同時に(彼等の)比較的高き地位は大な

る勢力と豊かな収入とを與へられる状態に置き、随つて此の状態からこれらのあらゆる勤人には門戸が開かれてゐるやうに見える。かくしてあらゆる階級に於ける經歷に於ける關心、昇進への慾望があらゆる勤人に目覺め、彼等の聯帶感を克服する。各人は他の者を抜いて半プロレタリア的状态から資本主義的所得の高さにまで向上せんとするのである：²¹⁾」

「しかし更に發展すれば、此の消極的態度は維持し難くなる。集中發展の結果による獨立の地位到達の機會の減少は、小經營者、小資本家をして益々多く其の子弟を勤人たらしめる。同時に此の勤人の數が増すに従つて、彼等の賃銀によつて構成された支出費目が増し、賃銀水準低下の傾向を誘致する。²²⁾」

即ちこれら勤人階級は最初の間は比較的高給を支拂はれ、昇進の門戸も開かれてゐるが、資本主義の發展に従つて、一方では其の數が増大し、他方では分業の進歩によりて専門的知識が漸次不要になり、普通教育を受けた低給の者に取つて代られるか、自ら不當に低い賃銀に甘んずる外はなくなる。しかしこれらの勤人階級は舊中産階級と異り、より高い教養と、

21) Hilferding; a. a. O., S. 474—475.

22) Hilferding; a. a. O., S. 477.

より優れた才能とを有するが、其の地位向上の希望が斷たれる時は、後者よりも労働者と結ぶ可能性が多い。

以上がヒルファデーイングの中産階級に関する所説の概要である。

しかしながら此處に看過すべからざることは、現代の極端に獨占化された資本主義制度の支配下にあつて、此の謂ゆる中産階級は單に量的に其の數を増大するのみならず、彼等の絶望感は必然的に彼等を尖鋭化せしめ、初めて獨立の階級として、それ自身の要求を持つに至らしめたことである。このことはわけても戦後のドイツに妥當する。インフレーション時代に最も甚だしい生活上の壓迫を受けたものは、俸給生活者、中小商工業者、小利子生活者等を含む中産階級であつた。其の結果これら中産階級は數に於て激増したのみならず、一部大資本家の致富に對する憎惡の念は、勢ひ彼等をして尖鋭化せしめ、階級的利益擁護の必要を痛感せしめるに至つた。

現實にドイツには中産階級と見做すべきものがどれ位あるだらうか。

フリードリッヒ・ツァーン²³⁾はドイツ社會群を左の如く分類してゐる。

社會群	主要職業(男女共) 一九二九年
上層階級	三〇八、五〇八
有識中産階級	一、一五三、四六九
農業中産階級	六、八〇七、五三四
商工業中産階級	三、〇三八、六一七
勤人	四、二八〇、〇二四
家内業	二九四、〇一四
行商	六三、二四二
陸海軍人	一〇七、六九一
僧侶	二七、四二一
熟練労働者	七、四〇三、八六四
農業労働者	二、四二八、九四三
不熟練労働者	四、五五一、二〇六

日備人	召使	合計
二一九、一八〇	一、三二五、五八七	三二、〇〇九、三〇〇

右の統計を見るも謂ゆる中産階級なるものが極めて重要な社會群を構成することが理解される。労働者大衆が殆ど社會主義によつて獨占されてゐる時、新たな大衆運動として起つたナチスは、此處に着目し、此の階級層に先づ力強い根を張つたのである。

23) Friedrich Zahn; Wirtschaftsaufbau Deutschlands, Handwörterbuch der Staatswissenschaften, Ergänzungsband, S. 983.

第三章 國民社會主義の思想體系

第一節 國民社會主義思想の起源

或る人は國民社會主義を以て、近來ヨーロッパを襲へる精神的疾患の一つであり、其の運動はクー・クラックス・クランの如き一種の暴力團體に過ぎないと誹謗し、又或る者はナチスの故郷はミュンヘンに非ずしてヴェルサイユだと擲揄する¹⁾。其の謂は國民社會主義運動が何らの思想的背景を持たず、戦争若しくは革命のどさくさに乗じて、國民的不満を煽り立てることのみによつて權力に近付かんとする運動だと云ふことである。これらの見解が眞なりとせば國民社會主義運動は泡沫の如く、忽ち消え去らねばならない。

しかるに事實はこれに反して國民社會主義運動は益々其の勢力を増大し、其の思想はドイ

1) Graf Carlo Sforza; Europäische Diktaturen, S. 133.

2) Theodor Heuss; Hitlers Weg.

ツ國民大衆の間に力強い根を張りつゝある。このことは既に國民社會主義が國民大衆の胸に訴へるべき何らかの思想的根柢を有する證左であると云はなければならぬ。

もとより國民社會主義は決して一つの纏つた思想體系ではなく、各種の思想が其の中に交錯し、随つて俄かに其の本質を定義付けることは極めて困難である。しかしながら其處には他の社會的潮流と區別すべき明白な諸種の特徴が認められる。即ち一般に國民社會主義の特徴と認められるものは、普遍主義、感情主義、神祕主義、現實主義等である。而して國民社會主義も亦唐突に現はれた思想ではなく、歴史的社會的必然の所産である以上は、これらの特徴のよつて来る源泉を探り、それらの思想を個々に互つて吟味して、兩者の關聯を求め、更に國民社會主義思想と混同され勝でありながら、しかも本質を異にする他の思想を明らかにすることによつて、初めて我々は國民社會主義思想の正しい姿を見出すことが出来るのである。

現代のドイツ國民社會主義に多くの影響を與へた思想乃至運動は、大體に於て浪漫主

義、國家社會主義、講壇社會主義、キリスト教社會運動、民族主義運動の五つに大別するこ
とが出来やう。勿論これらの思想乃至運動の間には多少の關聯の認められる場合もあるが、
主要な傾向に基き右の區別に従つて叙述を進めやう。

第一項 浪漫主義

浪漫主義は本來文學的藝術的潮流であつたが、新たに目覺めた理想主義哲學に內的に結
び付いた結果として、あらゆる生活領域にのり込み、全社會的文化的生活を改造せんとする
世界觀になつた。理性の神聖のみに拘泥する啓蒙哲學の激しい反動として生れた浪漫主義は
あくまでも形而上學的に立てられた哲學であり、それは生命の神祕を謙遜な驚きを以て眺め
た。啓蒙主義が社會を以て、獨立に存在し、自然的權利を與へられた個人間の自由な契約によ
つて成立するものと説かんとするに反して、浪漫主義は眼に見えざる社會の紐帶が個人間の
內的精神的連帶を構成し、個人は此の連帶から脱出し得ざるものたることを認識した。かくて

此の思潮の上には深い矛盾があり、それが一切の浪漫主義的藝術及び科學の上にも現はれて
ゐる。尤もかゝる思想的傾向は當時の浪漫主義時代にのみ固有なものではなく、多かれ少なか
れ歴史のあらゆる時代に見出されるのである。このことは結局それが確固たる體系を缺き、
統一的思想と見做し難い爲であつて、随つて浪漫主義に關する文献の極めて豊富であるにも
拘らず、其の明確な概念の把握を困難ならしめる所以でもある。かくてそれはヤコブ・バク
サの云へる如く「ドイツ精神の豊かな源泉から生じた思想の繼子³⁾」として取扱はれて來た。
これについて比較的明瞭な説明を與へてゐるものは、浪漫主義の復興者オトマール・シュバ
ンである。故に暫らくシュバンの言葉を借りよう。

「浪漫主義は、其の藝術及び國家觀に於いて専ら哲學に依存しつゝ、共同體の本質について
普遍主義的觀念を誘導した。

浪漫主義は先づ一定の藝術的思潮として現はれ、シュレーゲル兄弟、ノヴァリス、タイ
ク、ブレンタノ、アキーム・フォン・アルニム、テオドール・アマイドス・ホフマン、アイ

3) Jakob Boxa; Gesellschaft und Staat im Spiegel deutscher Romantik, S. 4.

ヘンドルフ等が此の派に屬した。しかしそれは最初から其の特有な性質から、生活及び科學のあらゆる範圍に侵入し、一種の文化運動になつた。しかし其の本質は専ら其の哲學的特徴によつて明らかになされてゐる。何となれば超感覺的なもの、先驗的なもの、神祕的なもの、無限的なものに對する關係が、意識的にか、無意識的にか、浪漫主義の藝術及び科學を完全に支配したからである。浪漫主義は第一に世界觀であつて、藝術ではない。浪漫主義を徹頭徹尾充たしてゐるものは、存在の不可解に關する感情、即ち世の中の不十分なもの、惡、死等に對する悩み、並に世の中に存在するかに見える廣大無邊なものの中に憩ひ、其の無限の中に我々を委ねんとする憧憬である。しかしながら疑惑と敬虔な献身（委任）との、此の兩極端の間の闘争と動搖とが浪漫的なものを構成してゐるのである。一般に云はれてゐる如く、冒險性、無型式性、主觀性が浪漫主義の詩の本來の特徴を爲すものではなく、存在そのものの不可解に關する哲學的根本感情、懷疑と神祕との矛盾が本質的なものであつて、其處から初めてあらゆる現象は夢想的な混沌、矛盾、冒險等の如き性質を帶び、其處から初めて浪漫

主義の詩の無型式性が生じ、自我と世界との間を動搖せる自我の主觀性が生ずるのである。

かく解してのみ、即ち啓蒙思想及びルネッサンスの反對運動として起つた世界觀並に文化運動と解して、初めて生活と科學との全領域に對する浪漫主義藝術の影響が説明されるのである。即ち人間は宇宙の一部として解釋されることによつて、其の一切の主觀性にも拘らず、個人主義的にでもなく、孤立的にでもなく、個別的にでもなく、全く宇宙的共同體の一部分として認められるのである。かくして人間は國家及び其の他の共同體に於ても亦、主觀的なもの、自主的なものとして、なく、社會的な生活關係の一部分として現はれる。宇宙的なものは社會に移され、自我の懷疑と神祕とは共同體の上にも及ぼされ、かくして國家と社會とは浪漫主義的觀察の對象となるのである。⁴⁾

即ちシュバンによれば、一方には全世界の形而上學的綜合に關する觀念、他方では此の世界に對する疑惑、即ち夢想的な生活觀念が浪漫主義の本質である。

此の浪漫主義思想の立場から普遍主義的、有機的國家觀を導いたのはフィヒテであつた。

4) Othmar Spann; Die Haupttheorien der Volkswirtschaftslehre, S. 89 ff.

フイヒテの初期に於ては社會契約に關する自然法の強い影響が残つてゐたが、やがてそれは根本的に克服された。カントは人間の自治自決權のみを中心とする英佛啓蒙思想の經驗主義及び唯理主義を破つたが、倫理學及び國家學に於ては依然として個人主義に捉はれてゐた。これに反してフイヒテは、人間を認識論的に個人として、⁵⁾なく、多數、即ち精神的交互體の一部と認め、延いて國家は初めから存在する全體であつて、有機的存在だと見做した。

更に國民の意義に付いて彼は「國民とは社會に於て共同の生活を續け、自己を自己の中から、自然的並に精神的に創造して續けて行く人間の全體である」と云ひ、特にドイツ民族の本質的並びに歴史的發展に基く優越性を主張し「より深い、彼等自身の間から生ずる新たな創造を爲す」ことがドイツ人の特徴であり、ドイツ民族と他の民族との重要な區別は、「人が人間自身の中に存する絶對的第一次的なもの、本然的なもの、即ち人間の自由、無限の改善、永遠の進歩、を信ずるか、或ひはこれら總てのものを信ぜずして、寧ろ却つてこれら總ての反對を目睹し、理解し得たと誤解してゐるか」にある。そして「自ら創造的に新

5) Johann Gottlieb Fichte; Rede an die deutsche Nation, Reclam. S. 128.

たなものを作り出しつゝ生活する總ての人、或ひは新たなるものを創造し得ぬまでも、少くとも價値なきものを全く捨て、何處かに本然的生命の流れを把握せんと欲せる人、或ひは其處までは進まぬまでも、少くとも自由を豫想し、且つ自由を憎んだり、それを恐れたりすることなく、却つてこれを愛する人、總てかくの如き人は本然的人間であつて、彼等を民族として觀察する時に、これこそ第一次的民族、純眞民族、即ちドイツ人である」と云つてゐる。此の彼の國民主義的思想は「獨逸國民に告ぐ」の十三講に最もよく現はれてゐる。彼は後に述べる他の浪漫主義の學者ギョーレスやシュレーゲルと同じく國家の自然的國境に反對し「國家の第一の、本來の眞の自然的境界は、明かに其の内部的境界である。總て獨逸語を語る者は、あらゆる人工の加はるに先立つて、單なる自然によつて見えざる數萬卷の書物と結びつけられてゐる。……このことは次第に明かになり、自然的一體に綜合され、不可分の全體となる。……此の内部的な、人類自身の精神的性質によつて引かれた限界から、初めて其の結果として住民の外的限界が生ずる。」⁷⁾以上の如くフイヒテの國民主義は汎ゲルマン主

6) Fichte; a. a. O., S. 122

7) Fichte; a. a. O., S. 215 f.

義的思想にまで發展してゐる。此の國民主義的立場から社會問題を眺める時に、彼の國民社會主義的思想が生ずる。

彼は萬人に勞働の義務を課して云ふ。「人間が自然に許された儘に容易に、自由に自然を支配しつゝ眞に人間らしく地上の生を營むことは、人間の敬虔な願望であるのみならず、其の權利と運命との止み難き要求である。人間は働かねばならない。しかしそれは重荷に呻吟しつゝ、其の力の恢復後直ちに再び其の重荷を運ばねばならない牛馬の如きものとは異なる。人間は心ものどかに、歡喜に溢れて働き、彼の心と眼とを天に向ける餘裕を持たねばならない。此の時間に彼は修養するのである。」⁸⁾

此の總ての勞働に従事する人間を、彼は生産者(農業)、技術家(工業)、商人の三部に分ち、國家は生産、取引の經濟的活動を監視、測定し、其の所産を個々の身分階級(Stand)に分配することによつて、一切の國民が等しく快適な生活を營まねばならないと述べてゐる。即ち彼によれば「總ての者は全體の奉仕者であつて、全體から其の分前を與へられる。何人も

8) Fichte; Der geschlossene Handelsstaat, S. 28.

特別に富むことも、貧乏であることも出来ない」⁹⁾のであつて、隨つて一切の財産の私有は總ての國民の生活を出來るだけ安易ならしめる爲にのみ許されるのである。此の點から彼は無制限な自由競争は全體の爲の幸福を阻害するものとし、自由主義と重商主義とを「商業の「ナアキー」と非難し、對内的には生産を國家の統制下に置くと共に、對外的には外國貿易は國內生産の均衡を破るものとして、國家の經濟的封鎖を主張した。

シュレーゲルも亦自然哲學から出發して、社會國家を有機的全體と見做した。彼によれば、國家は大なる道德的個體であつて、此の國家は本來「人類の向上と發展との促進を以て最大の使命とするものであるが、それは單に消極的に人間に保證と保護とを與へることを以て足れりとせずして、積極的な方法をも講ぜねばならない。」¹⁰⁾此處から彼は國民國家の主張に進んでゐる。

「國民は數多の家族が規則、道德、習慣、利害等によつて共同的全體に結合された一大綜合的家族である。たゞ國民と家族との異なる點は、前者にあつては此の連帶の範圍が餘りに大な

9) Fichte; a. a. O., S. 34.

10) Friedrich Schlegel; Philosophische Vorlesungen, S. 355.

るが爲、家族程密接に結び付けられてない點だけである。¹¹⁾同時に彼は世界主義に反對して云ふ——「最近企てられつゝあるが如く、諸國民を一丸たらしめるよりも、人類を數多の國民に分つて置く方が自然により適合してゐる。諸民族の統一の如きは強制と人爲的制度とを以てしても永久には維持し難い不自然な綜合に過ぎず、言語、道德、法則の混合の結果は自ら此の制度自體を徐々に弱め、やがては一切の連帶、堅忍、忠實、愛を破壊し、國民的特徴の喪失によつて國民精神と力とは根柢から奪はれるであらう。¹²⁾」

彼は最善の國家形態は身分階級國家にありとし、此の身分階級國家構成の原始的身分階級 *Orstände* を次の五階級に求めた。

- 1、物質を生産する者、即ち農民、
- 2、それを加工する者、即ち工業家、
- 3、道德、科學等の促進に従事する者、即ち學者、宗教家、
- 4、外敵に當る爲の「軍人階級」としての貴族、
- 5、補充的身分階級、即ち産業上の傭人、一般商人。

而して身分階級制度に於て國民の自由が最も長く保證され、人類は最も完全な發達を遂げ

11) Schlegel; a. a. O., S. 357 f.

12) Schlegel; a. a. O., S. 358.

ることが出来る。諸民族の歴史上、此の制度が失はれ始めたところでは、常に道德の頹廢、祖國愛と國民的精力との喪失等が間違ひなく現はれてゐると。¹³⁾

ヨセフ・ギョーレスはラインランドの僧侶であり、共和制フランスを地上の樂園なりと謳歌したが、其の革命に幻滅を感じて思想上の轉換を爲した。「青少年時代に私は共和制の思想と人間の政治的社會的狀態改善の思想とを同一視してゐた。私は此の思想にある限りの情熱を傾倒し盡し、ありたけの生活力を捧げ、其の中にのみ生き甲斐を感じた。しかるに私にのしかつて來た經驗は餘りにも大であり、それに關聯せる事件は餘りにも多く、且つ印象深かつた爲に、それを直截に傳へ兼ねた。私は今や自由が失はれ、人間生活と人間の向上に用ひらるべき人間幸福の最大資本たる力は全く亡び、將來に對する高利の負債以外には何物も残されなかつたことを痛感したのである。¹⁴⁾此の失望から彼は從來蔑視してゐた國民主義思想に轉換し、「世界人」の思想を捨て、民族の本質と各國民の特性との相違を深く覺るに至つた。

13) Schlegel; a. a. O., S. 365.

14) Josef Görres; Resultate meiner Sendung nach Paris, Schellberg; S. 80.

彼はフイヒテの如く國家の自然的境界を退けて、山脈や河川とは無關係に各民族間には、內的道徳的性質の中に明確な境界が引かれてゐると主張した。

彼によれば「言語は個人を相互に結び付ける一大紐帶であつて、……それは全體に對して一般に國民性と呼ばれる共通の氣持を與へるもの」¹⁵⁾である。しかしながら民族の相違は單に言語のみにあるのではなく、「フランス國民性とドイツ國民性との間には超え難い間隙」¹⁶⁾を認めてゐる。彼の此の思想は却つてフイヒテに強い影響を與へ、フイヒテの「ドイツ國民に告ぐ」は、實に其の七年後に講ぜられたものである。かくて獨佛國境、即ちラインランドに住む彼は、あらゆる浪漫派諸學者の中で國民主義問題の核心を掴み、國民主義的感情に燃えた最初の人だつたのである。

以上の諸學者の影響を受けて、浪漫主義的國家思想の傑出せる代表者となつた者はアダム・ミュラーである。

ミュラーは新らしい浪漫主義の共同體の概念を經濟學及び國家論の上に移した。彼によれ

15) Görres; a. a. O., S. 59.

16) Görres; a. a. O., S. 61.

ば「國家は人事の總計であり、生ける全體への人間の結合」¹⁷⁾であり、絶對的な生けるもの、精神的なものであり、「あらゆる理念の永劫に躍動せる國」¹⁸⁾である。

此の國家觀念は勿論フイヒテに基因するが、其の應用及び實際的内容の方面に於ては、ドイツ中世紀の封建制度に於ける、人格的な、生々した各部分の結合を理想とした。かくてミュラーは激しく自然法の理論及びスミスの個人主義的、資本主義的經濟觀を以て「過激な國家解體の學說」として非難した。同時に彼はモンテスキューの國家生活上の權力分割の思想にも反對した。

彼の經濟理論も亦、自ら利己的な、孤立的見解を退け、社會的要素の關聯と統一及び其の歴史的背景とを考察の立場とした。彼は云ふ——「國家の國民經濟を語り、それに関與せんとする者は、此の國家の全範圍に於ける多面的な經濟的領域と問題とを一括して觀察せねばならない。單に孤立せる一つの價值や、個々のものゝ獨立した意味のみによつては國民經濟の様相を知ることとは出來ず、精々のところ數量的な全部の綜合が得られるのみである。全部の

17) 18) Adam Müller; Elementen der Staatskunst, S. 60.

解剖のみによつては眞に高い何物も得られない。かゝるものは多かれ少かれ附隨的なものに過ぎない。……事物の關係が關聯的に觀察され、且つ此の關係が同時に相互的に再びより大なる關係に結合され、かくして人間の肉體の機關の如く、一つづつ綜合され、究極に於て無限の均齊、即ち各部分の完全な均衡が得られるならば、全體の様相は明瞭に認められる。即ちかくしてより大なる輪廓と、同時にそれを構成する無數の機關も共に認められるのである。¹⁹⁾

此の普遍主義的有機的觀察の立場から、彼は個人の經濟的競争を退けて、それに代ふるに共同體、例へば族長家制、ツンフト經濟、及び都市經濟に於ける、あらゆる人格的關聯の生ける力を以てせんとした。随つて彼は個人主義の所産たる勞資の對立を非難して云ふ、「アダム・スミスが極めて高く評價した勞働の分離と機械化とに對して、精神は不斷に反抗してゐる。²⁰⁾」「……それが故に人間をして自己を没却せしめる程、甚だしく分化された仕事は未だ國民社會には存在しない。²¹⁾」

にも拘らずミュラーは商工業及び農業の中に資本主義的要素の存在を容認したが、これは

19) Müller; a. a. O., S. 49.

20) Müller; a. a. O., S. 57.

21) Müller; Versuche einer neuen Theorie des Geldes S. 107.

勿論他の封建的財産制、ツンフト、ギルド等に於ける國民主義的事業の補充的形態としてあつた。

富に關しても「富はあらゆる財貨の集積である」といふスミスの機械的概念を極力排斥して、富は物ではなく、其の使用性に歸因するので「國民の眞の富は國民全體の存在である」といひ、更に富の使用價值を個人的使用價值と社會的價值とに分ち、「ある物に效用ありと云ふ爲には、國民社會全體に對する關係に於ても亦價值がなければならぬ。²²⁾」随つて價值は經濟的政治的團體の全體の中に於てのみ決定されると云つてゐる。

更にミュラーは貨幣概念について云ふ。「貨幣は國家や言語と異り發明されたものである。人間は如何に懸け離れてゐるやうとも人と物とが必要である。……故に彼は自分自身の外に、常に彼を人と物とに結び付ける紐帶を必要とする。……此の結合を完成するものは市民社會の初まりから今日に至るまで國家である。而して貨幣は此の團結に對する必要、又は國家の經濟的表現たることは、恰も法律が國家の法的表現たると同様である。物の間に於てはそれ

22) Müller; Elemente, S. 257.

は貴金屬であり、人と人との間に於ては言語である。其の各々は各自其の領域に於て、人間が常に人間的又は物質的事件に於て求めんとする團結を完成する。即ち貴金屬は物の間に於ける最も自然な連鎖であり、言語は人力の中の最も自然な紐帯である。故に言語と貴金屬とは貨幣の現はれる爲の二つの形式であり、經濟的國家の二大體現である。²³⁾

故に硬貨と紙幣とは本質を同じうするものであつて、市民社會の經濟的表現に過ぎない。而して國家の最大の貨幣制度は硬貨が紙幣と正しい關係に置かれた時であつて、貨幣の増加は經濟力がそれによつて發展せしめられる時にのみ許容されるが、他の場合に於ける任意な増加は危険であると主張してゐる。

ミュラーは又生産を土地、勞働、有形的資本、精神的資本の四要素に基かしめ、これに對應して、國民を貴族階級、市民階級、商人階級、教育家又は宗教家階級の四つの身分階級に分ち、此の四階級の調和的關係によつて、有機的全體が構成されると云ひ、かゝる調和を身分階級國家に於て求める。「身分階級國家によりて、上下擧つて國家の全體及び一般について常

23) Müller; Versuche, S. 158.

に眼を開くことが出来る。國家に於ける個人や有産者の集合以上のものたる此の全體は、其の見透しの利くことによつて、比較的才能乏しき者までも政治上適所に置くことが出来る。²⁴⁾ かくの如くミュラーの功績は個人主義的精神の全盛時代に、其の機械的、唯物論的思想を排斥して、初めて國家經濟の普遍主義的全體觀を立てたことである。シュバンの言葉を借れば「ミュラーの前にはマルクスの辯證法的鋭さも、リカードウの分析力も消し飛ばされてしまつた。²⁵⁾」

彼にあつては退歩が改革であり、復古が同時に進歩を意味した。「一切の政治的要素は中世紀に發見される。しかしこれらの要素は完全に結合されてゐなかつた。：：何となれば、それは結合的ではあつたが、有機的ではなかつたから」と云つてゐる。²⁶⁾

浪漫主義思想の影響を多分に受け、屢々それと類似の論據を以て自由主義經濟思想に反對し、其の經濟觀に於て多分の國民主義的傾向を帯びてゐたのはフリードリッヒ・リストである。彼によれば一國民の繁榮は富の集積が大になる程、大になるのではなく、國民の生産力

24) Müller; Über König Friedrich II, S. 253.

25) Spann; a. a. O., S. 97.

26) Müller; a. a. O., S. 134.

がより發揮される程大になるのである。かくて彼も亦經濟學の上に普遍主義的な、且つ歴史的考察を行ひ、經濟の社會的關聯を説き、スミス及びリカードウの抽象的考察方法を退けて、國民の概念を以てする具體的文化的共同體の概念を誘導した。かくて精神的道德力、全體の有機的關聯、全體に於ける部分の關係に重心を置いた彼の思想は明らかにミュラーの影響である。

以上の浪漫主義諸學者の思想に於て、一貫して流れる共通の特徴は、個人主義、自由主義、^{コスモポリチズム}世界主義、唯理主義の否定としての普遍主義、背理主義、國民主義であり、ドイツ國民の本質的並に歴史的優越感の基礎に、國家社會の全體的有機的關聯を調和せんとする點である。我々は此の浪漫主義思想の中に、現代ドイツ國民社會主義の濫觴を見ることが出来るのである。

浪漫主義は更に一面にはキリスト教社會主義運動の上に多大の影響を與へたが、現代の學者にあつて純粹に其の思想を繼承するものは、フリースト・シュテワルト・チエムバレン、

オスワルド・シュベングラール及びオトマール・シュバン等の人々である。

しかしこれと類似の傾向を多分に有し、しかも其の本質を異にするものは國家社會主義の一派及び急進的マンチェスター學派、即ち謂ゆる講壇社會主義一派である。

第二項 國家社會主義及講壇社會主義

國家社會主義はロードベルツス、ラッサール等によりて代表されたものであつて、新しい社會的秩序を一階級の革命運動によらずして、既存の國家の援助によつて實現せんとするものである。

ロードベルツスは初期工業労働者の悲惨な生活の改善を以て、健全な社會狀態を構成する爲の根本問題と認めた。しかし彼は私有財産制の原則的承認の基礎に立ち、單に土地及び資本のみを國有に移すことによつて生産の統一的實行を計ると共に、資本利子と地代との廢止を主張した。しかも彼によれば労働者は個人主義、隨つて其の平等の權利を要求すべきでは

なく、此の國家社會主義的理想は、社會的なホーヘンツォルレン王國の下に於て、永年の經驗によつて初めて實現されるといふのである。

ラッサールの國家觀はマルクスの唯物論的見地からでなしに、フィヒテ、ヘーゲルの理想主義的哲學から出發し、ドイツ浪漫主義から眞の國家的意識を汲んだ。「國家は：：道德的全體に於ける個人の統一であり、此の團結に統一されたあらゆる個人の力を數萬倍にも強め、個人として使用する場合の數萬倍もの用途に向けるところの統一である。故に國家の目的はブルジョアによつて現代考へられてゐるが如く、個人的自由と財産とを保護するものではなくて、國家の目的は寧ろ此の團結によつて個人をして個人としては到達し得ざる存在の段階に到達せしめ、個人としては不可能な教育と力と自由との獲得を可能ならしめることにある。かくて國家の目的は人間の本質を政治的に發展せしめること、即ち人間の本分たる文化を現實の存在たらしめることであり、自由に對して人間を教育し發展せしめることである。」²⁷⁾

しかしながら他面に於て彼の經濟觀はリカアドウの勞銀鐵則から出發し、此の法則から免

れる唯一の方法として、勞働者は生産組合を組織して自ら企業家たる地位を獲得すると共に、政治的には獨立の一政黨を組織して、普通選挙の爲に戦はねばならないと云ふことによつて、階級の對立を認めてゐる。

かくの如く通常國家社會主義と呼ばれてゐる一派は、思想的には浪漫主義の影響を受けて、普遍主義的であり、國家を高く評價したが、民族的主張は稀薄であると共に、一面に於ては個人主義思想の影響を受け、階級の對立を認めた。要するに彼等の主張の核心は國家による自由經濟への干渉、又は經濟的契約の自由のある程度の制限にある。此の點に於て國家社會主義と國民社會主義とは嚴に區別せねばならない。國民社會主義は社會國家を飽くまでも有機的に、歴史的に眺めんとするものであり、殊に後に述べる如く民族的主張が極めて重要な要素になつて居り、それは延いて強權主義に導くが、國家社會主義にあつては、このことはない。故に國家社會主義は國民社會主義の政策的一面を示すものではあるが、同一のものではない。更に國家社會主義に類似する講壇社會主義にあつても、例へばワグナーの租稅理論に於て

27) Ferdinand Lassalle; Auswahl von Karl Renner; S. 185.

認められるが如く、國家の立法的保護によつて、下層社會の地位を向上せしめんとするに止まり、傾向的により社會主義的ではあるが、これらの思想は何れも、寧ろ「社會改良派」と稱すべきであつて、國家社會主義との相違は單に、後者にあつては勞働者自體の自助的活動に、より多く重心を置くに反して、前者は國家の活動をより多く期待する點にあるに止まる。勿論これらの「社會改良派」も亦、カメラリズム以後のドイツ主義の因襲に捉はれ、多少浪漫主義的傾向が見られぬではないが、畢竟自由主義的形骸から完全に脱却してゐない。

しかしながら上述の國家社會主義及び講壇社會主義の主張は浪漫主義の思想と共に、後のキリスト教社會運動の上に多大の影響を與へてゐる。

第三項 キリスト教社會運動

キリスト教社會運動は原始キリスト精神の復活運動として起つた。その主張によれば新約聖書に於ける神の國は彼岸にあるのではなく、内在的なものでもなく、現實のものでなければ

ならない。キリストと共に、キリストを信する者のみの間に神の啓示があるのではなく、神の世界は秘められた聖なるものゝ中から卑俗な生活の上に現はれる。それは宗教ではなくて生ける神であり、意識現象ではなくて、現實の社會的政治的生活の凡俗な現實である。

キリスト教社會運動は開放的な現實の神の國を歴史的發展の目的と見る。神の國は魂の内部に於ける精神的現實ではなくて、人間の良心と意志との上にも實現されるが、境遇、實生活の上にも實現される。キリストは萬物を新たにするものであり、随つて人間の心のみならず、社會、國家、經濟をも新たにするのである。アルトハウスは云ふ。「山上の垂訓の中に此岸の神の國の樹立に對する規範がある。即ち個人生活に對する規則のみならず、社會問題解決の根本法則がある。從來の教會は愛の社會改造力を信じなかつたが、愛こそはキリスト教の革命的力である。その中に新らしい、よりよき世界の組織力が眠つてゐる。故にキリスト教は勇敢に神の國實現の爲に戦はねばならない。²⁸⁾」

更に彼等によれば、「愛なくしてはキリスト教はなく、行動なくしては愛はない。」かくてそ

28) Paul Althaus; Religiöser Sozialismus, S. 11 f.

れは行動的であり、革命的である。又それは一方では宗教としての超世界的なものを求め、他方では實際の經濟政治生活の中へ突入すべきことを主張するが故に、其の主張は極めて飛躍的であり、矛盾に充ちてゐる。

キリスト教社會運動の先驅は既にヴィッヘルン・フーバー等に見られるが、初めて新約聖書の中に社會的倫理のみならず、經濟的、社會主義的プログラムを發見して、積極的に社會問題との關聯を求めると至つたのは、ルドルフ・トッドの「ドイツに於ける急進社會主義とキリスト教界」(一八七七年)に於てである。彼の社會主義に對する態度は獨斷的であり、其の社會改革案は夢想的であつたが、社會運動に對する情熱をキリスト教界に鼓吹するに與つて力があつた。

これに次いでキリスト教社會運動としての鞏固な土臺を築いた者はアドルフ・シユテカーである。彼は一方では講壇社會主義、他方ではトッドの影響を受けて、一八七八年キリスト教社會黨を組織した。其の綱領によれば現下の社會民主主義は夢想的であり、眞の社會改革

は王政及びキリスト教の立場から、平和的な労働者團體の組成によつて達せられるといふにあつた。即ち専門的職業組合、裁停機關の創設、寡婦、幼老者、失業者等の國家的保護、國有及び公有財産の擴張、累進的所得税、相続税の創設等が掲げられてゐる。しかるにアイゼナッハに於ける一八九五年の第二回綱領に於ては、より綜合的である反面、より保守的になり、反ユダヤ主義的傾向と農民及び中産階級保護の傾向を示すに至り、一切の非キリスト教並に非ドイツ的制度の排撃を主張した。これらの主張はやがてキリスト教社會運動が國民主義運動に轉化する前提であつた。しかし彼自身の功績はキリスト教主義と保守主義との立場から、國家社會主義思想を説くと共に、宗教を以つて一切の經濟的進歩に對する精神的道德的な不可欠の要素たらしめた點にある。

これに反してフリードリッヒ・ナウマンのキリスト教社會運動は、より自由主義的であり、より大衆的であつた。又其の經濟理論はトッドと異り、キリスト教及び新約聖書のみを典據とするものではなかつたが、キリスト教の中に革命的性質を認め、宗教によるマルクシズム

の克服と、被壓迫大衆の社會改革的な結合とを主張した。彼は社會民主主義の没落と、キリスト教社會主義時代の到來とを確信し、可なり徹底した社會改革の思想と經濟の正しい認識とによつて、從來のキリスト教社會運動よりも遙かに統一的な、近代的な運動たらしめた。更に彼は労働者同盟を作り、これを將來のツンフト運動にまで發展せしめんとした。

元々彼のキリスト教社會運動の綱領に於ては、其の經濟的要求と宗教的原則との統一が缺けてゐたが、後には全く宗教的色彩を失ひ、一八九七年ナウマン自身が教界から政界に轉身するに及んで、此の運動は全く政治化した。かくてナウマンに取つて、後の社會運動への影響は宗教的社會改革運動としてよりも、寧ろ國民主義運動の方面にあるが、これは別の項に於て述べる。

これらはプロテスタントを中心とする、主としてドイツに起つた運動であるが、カトリック社會運動は非常な勢力を以てオーストリアに榮えた。

從來オーストリアのカトリック教徒間では、保守黨の勢力が壓倒的であつて、大地主によ

つて鞏固な支持を受けてゐた爲に、労働問題は輕視され勝ちであつた。此の方面に於ける運動は實にカール・フォーゲルザングによる「キリスト教的社會改革月報」(一八七五年)の發刊に始まる。

此の一派の特徴は浪漫主義の濃厚な影響の下に社會の身分階級的構成と、中世紀的なキリスト教的、ゲルマンの原則への復歸にある。殊に社會的害惡を金融制度の中に認め、貸金利子の廢止を主張した。

此の運動は一八八〇年ウィーン市長リューガー²⁹⁾を首領として、ウィーン及びニーダー・オーストリア地方に起つたが、多分に反ユダヤ主義、就中ユダヤ的金融支配反對の傾向を示し、力強い國民層の支持を贏ち得た。

以上のキリスト教社會運動に共通な點は、根本的に浪漫主義的傾向を示し、封建主義的な社會の有機的關聯を主張したこと、及び他面には國家社會主義乃至講壇社會主義の影響を受けて、社會的害惡を國家的保護と労働者の自助手段との兩面から除かんとしたが、其の支持

29) 本書二四頁以下参照。

層は大體に於て中産階級に止つたことである。就中特記すべきは、其の多くが最初にはキリスト教を以て社會改革の前提としたが、後には其の經濟的要求の高まるに従つて、多かれ少かれ宗教的色彩を失ひ、保守的な國民主義的大衆運動に轉化し、同時に反セミチズム運動に結び付いたことである。かくて此の國民主義運動は浪漫主義に現はれた國民主義思想から現代の大衆的國民主義運動への橋渡しとなつた。

第四項 民族主義運動

ドイツの民族主義運動は一面には浪漫主義に現はれた國民主義的感情が基調になつてゐるが、他面には又ゴビノーの「人種不平等論」と同じ立場から出發してゐるかに見える。即ち前者にあつては民族乃至國民を寧ろ文化的連帶と見んとする傾向が濃厚なるに反し、後者は人種の見地に立つものである。例へばゴビノーの如きは、白色人種は思考力に富み、秩序と平和と自由とを愛し、人生を楽しむ種族たることを無條件に認め、世界の文明は白色人種に

よつて齎らされたことを主張してゐる。即ち彼は、

「あらゆる文明は白色人によつて生れたものであることは歴史の教へるところである。社會が發達し、輝かしい存在たり得るには、社會に本來の優越的存在を永く維持すると共に、社會がこれらの種族中の最も優れた者に隸屬せねばならない。このことを最も明白に證明するには世界でこれまで支配し來つた文明を見れば好い³⁰⁾」と云ひ、次いで彼は過去現在を通じて地球上で完全な社會状態を造つた民族は十種であつて、其の他は「太陽の周圍の遊星」の如く、多少ともにこれに依存せるに過ぎないとし、これに文明を従つて左の十種に分つてゐる。

- 1、インド文明
- 2、エジプト文明
- 3、アッシリヤ文明
- 4、ギリシヤ文明
- 5、支那文明

30) Gobineau; Versuch über die Ungleichheit der Menschenrassen, Bd. I, S. 285.

6、イタリヤ文明

7、ゲルマン文明

8、9、10、アメリカ文明（アルカニー、メキシコ、ペルー）

彼によれば此の十種の文明中、最初の七文明は少くとも一部はアリヤン民族に依存する。故に「アリヤン人種の支配がなかつたならば、ヨーロッパ民族の間には如何なる文明も生じなかつたであらう³¹⁾」と。此の見解がドイツの民族主義運動、延いてはナチスの國民主義的主張に如何に影響するところ多きは、後に述べるヒットラーの主張に明白に現はれてゐる。

さてドイツ民族主義運動は大抵獨逸統一運動として起つたが、其中でも異彩に富めるはシェーネラーの汎ドイツ黨とナウマンの國民社會同盟とである。

シェーネラー³²⁾は農民出身であつた關係上、此の運動が大衆運動でなければならぬことを早くから見抜き、一八九七年のウィーンに於けるドイツ國民大會から盛んになつた。ドイツ民族の統一を妨げる最大の障碍はハプスブルグ王朝にありとして、極端にハプスブルグ家を

31) Gobineau; a. a. O., S. 289.

32) 本書二四頁以下参照。

嫌惡した。其の他の特色は反ユダヤ主義、反民主主義であると同時に、キリスト教社會運動の影響を受けて宗教的色彩が濃厚であつた。リューガーのキリスト教社會運動と共に、オーストリア時代のヒットラーに多くの感化を與へ、彼の運動の上に於ける重大な指針となつたことは前に述べた。

フイヒテ以後ドイツには多くの國民社會主義的思想の發生を見たが、初めて其の思想の上に「國民主義」と「社會主義」との名稱を併用して、具體的な運動にまで導いたのは、キリスト教社會運動から出發したナウマン³³⁾である。即ち彼が一八九六年「國民社會同盟 Nation-alsozialer Verein」を組織せるを以て嚆矢とする。しかしながらナウマンにあつては、其の名稱は「社會的 sozial」ではあつたが、「社會主義的 sozialistisch」ではなかつた。かくて「國民社會主義」の名前はナチスによつて初めて用ひられるに至つたのである。

ナウマンの初期の思想に於ては、講壇社會主義の影響を受けて一般に「社會主義的」と認めらるべき要素があるにはあつたが、民族主義的主張の方がより多く彼の運動を特徴付けて

33) 本書一一五頁以下参照。

る。此の傾向は彼の「國民社會主義問答」に最も明快に現はれてゐるが故に其の要旨を掲げやう。³⁴⁾

「我々が國民主義的土臺の上に立つのは、外部に對するドイツ民族の經濟的、政治的權力の保持が、内部に於ける一切の重要な社會改革の前提と思惟されると同時に、外部的權力は、政治上重大關係ある國民大衆の國民主義的觀念なくしては、永久に維持されないことを確信するが故である。故に我々は外部に對しては力の政治、内部に對しては改革の政治を慾求するものである。」

1、何故に我々は我々の運動を國民社會的と名付けるか？

我々は國民的なるものと社會的なるものが、此の運動に於て相關聯することを確信するが故である。

2、國民的なるものとは何ぞや？

其の影響を全世界に及ぼさんとするドイツ國民の衝動である。

34) Friedrich Naumann; Nationalsozialer Katechismus.
S. 5 ff.

3、社會的なるものとは何ぞや？

其の影響を國民内部に於て擴張せんとする労働者大衆の衝動である。

4、如何にして此の兩者は相關聯するか？

全世界に對するドイツ的影響の擴張は、大衆の國民主義的觀念なくしては不可能であり、且つ國民間の此の大衆の影響の擴大は、世界市場に對するドイツ權力の將來の發展なくしては不可能だからである。

5、全世界に對するドイツ的影響の擴張は、如何にして大衆の國民主義的精神に依存するか？

ドイツがアジア、アフリカ、アメリカ、就中ヨーロッパに於て、重要な地歩を獲得する爲め、陸海軍に對する大なる犠牲は、労働大衆の同意なくしては永久に齎らされないが故である。

6、労働大衆は果して陸海軍擴張を妨げる能力を有するか？

今日ではなほそれだけの能力を持たないが、彼等の勢力増大に従つて十年乃至二十年後には可能である。

7、労働者大衆の勢力増大の見込はあるか？

見込どころが、確定的事實である。蓋し労働者層の數と教養とは不斷に高まりつゝあるが故に。

8、労働者大衆の勢力増大によつて、軍備の擴張が妨げられる懸念はないか？

否、戦争は永久に世界から消滅せざるが故に。

11、我々ドイツ人は將來の大戦争に中立を守ることが得るか？

然り、若し我々がドイツ國民の滅亡を欲するならば。

14、労働者大衆の政治的勢力の擴大は危険ではないか？

極めて危険である。若し此の大衆が國民主義思想を持たなければ。

18、かくも政治的に重要な國民大衆が、何故に今日まで國民主義的でなかつたか？

彼等は今日まで政治的責任感を持たしめられなかつたからである。

19、何故に政治的責任感がなかつたか？

彼等は反對派として出現したものであるが、國家的權力は、専らその政治的反對者の手にあつたからである。

21、國際的社會主義は何故發展の見込がないか？

各國民の文化の水準が著しく異り、且つ一國民の進展は他國民の衰退によつて達せられるものなるが故である。

22、一切の文化的國民の勢力を、共同に伸張することは出来ないか？

然り、これら諸國民の生産物販路が狭小なるが故に。これら市場の開發は文化的諸國民の膨脹よりも遅れる。世界市場獲得闘争は生存闘争である。

26、國家とは何ぞや？

國家とは立法と行政との上に表はれた國民生活そのものである。國家は往々にして誤り

考へられてゐる如く、一支配階級の制度ではない。

かくして彼の國民主義思想は、大衆を背景とする國權の伸張による帝國主義思想にまで發展してゐる。此の汎ゲルマン思想に對する具體的要求は、更に大戰半ばに上梓され、歐米の廣い讀者層に普及した彼の名著「中歐論」に現はれてゐる。それによれば中歐諸國、即ちドイツ、オーストリア、ハンガリーはドイツを中心として、國際的團體でなくて鞏固な國家的連帶關係に立つことが、國防上も、經濟上もドイツ民族の世界制覇上必須條件なりとするにある。彼は云ふ「戰爭の協力が偶然であるか、或ひは必然であるかの疑問が生ずるが、私は後者であることを主張する。嘗てはオーストリアとプロシヤとが偶然に結び付けられたことがある。……今や古きドイツ帝國に於けるよりも統一の必要が多い。現在にあつては前記地帯（中歐）の大小國家は共同の交戰團體となり、勝利と敗戦も共通の運命になつてゐる。……戰爭は中歐精神の創造者となつた。……世界戰爭のあらゆる協者は、現在及び將來に於ては中小の國力を以てしては、最早大なる政策を行ひ得ざることを痛感してゐる。……此の

國家連合の歴史過程に於てプロシヤは餘りに小であり、ドイツは餘りに小であり、オーストリアは餘りに小であり、ハンガリーは餘りに小である。……それ故に中歐の結合は偶然でなく、必然である。³⁵⁾」そしてナウマンは此の廣大な民族國家に於て、經濟的には國民生活維持の基礎を農業に置き、殊に小農制度によるべきものとし、政治的には國家を強大ならしめる爲に大衆の國家觀念を強め、全體に對する奉仕の精神を國民に鼓吹せんとした。彼によれば、「民主主義と帝政」とが最上の政治形體であつて、帝政は決して傳統や歴史的要求の所産に非ずして、國民主義的權力意志と生活意志との結晶であつて、其の繁榮には上層階級と大衆との強調が保たねばならない。而して民主主義は無産大衆をして、彼等自身の國家であるとの自覺から、國家を愛し強大ならしむべく努力せしめる爲に役立つものであつて、同一民族たる觀念が國民大衆の自覺の精神的内容を爲すものだと言張してゐる。

以上説き來つた如く現代ドイツ國民社會主義運動は既に浪漫主義に於て其の思想的根柢を

35) Friedrich Naumann; Mitteleuropa, S. 3 f.

有し、更に國家社會主義キリスト教社會運動、民族主義運動等の思想及び主張を採り容れたものであるが、尙詳細にナチスの思想自體を次節に於て検討しやう。

第二節 國民社會主義と國民主義

前節に於て述べたやうにナチスに取つて最も本質的な特徴は國民主義であるが、此の國民主義には社會國家を有機的關聯に於て見るフイヒテ、ミューラー等の浪漫主義諸學者の國家主義、アリヤン民族の文化的優越性から出發するナウマン、シェーネラーの如き民族主義者の汎ゲルマン主義、キリスト教社會運動の抱く反セミチズム、これらの思想が混然と融合されて居り、他の言葉を以てするならば民族的國家主義とでも名付けることが出來やう。

元來民族が如何に觀念されるかに付いては議論が多い。種族と同一であるか、或ひは土地、國家の如き外部的連帶によつて結び付けられたものであるか、又言語、宗教、文化を等しくするものゝ團體と解すべきかの疑問を解くことは容易ではない。此の點に關するシュパンの

所説を見やう。

「民族 (Volk) 又は國民 (Nation) の概念を把握する爲に、著名な學者達は、國家、言語、人種、宗教、氣候、地勢、共通の傳統、文化、最後には外的な國民的共同意識等の多くの特徴を擧げてゐる。しかしながら歴史的諸民族を右の見地から見れば、直ちに明らかにされることは、それらの特徴のどれも民族の本質を完全に把握し、其の史的現實を説明するに足りないことである。……」

第一に國家的連帶から説明せんとする者は、屢々國家を國民的統一と同一視してゐる。例へばモールは『國民 (Staatsbürger) の全體が民族を構成する』と云ふ。……しかし國家と民族と同一でないことは、オーストリア、ロシア、トルコの如き國家を見れば明らかである。これらの國家に於ては、其の中の數民族間の鬭争が絶えない。……」

次に言語に付いて云へば、言語も亦國家と同じく民族の眞の特徴と考へられてゐるが、これも民族の概念を確定し得ない。例へば各國に住めるユダヤ人はエルサレムを故郷とする

一民族と見做されてゐるが、其のユダヤ語は今日に於ては僅かに文獻上見られるのみである。……

人種に關しても、それは民族と極めて重大な關係に立つが、未だそれを以て民族の重要な決定條件と云ふことは出来ない。ゴビノー、チェムバレン等は人種を民族の特性、文化力の主要な條件と見做してゐるが、現代に於ては最早統一的人種、統一的根源による民族はあり得ない。同一のドイツ人に付いて見るも、北獨のドイツ人はスラヴ人、ケルト人、ローマ人の血が南獨程多くは混つてゐない³⁶⁾と云ひ、最後に彼自身の見解として「民族は共通の根源から出で、同一言語を語り、共通の政治的、文化的發達を遂げ、共同の意識を有する人々の全體である」と述べてゐる。

シドニー・ハーバートも亦ほゞこれに似た定義を下してゐる。

さてナチスは民族を如何に考へてゐるか。ヒットラーは人種の先天的優劣を信じ、優秀な人種は其の純血を守らねばならないと主張することによつて、寧ろゴビノーに近似した思

を取つてゐる。此の純血の尊重から、延いて民族と人種とは殆んど同一視されてゐる。テオドール・ホイスが、マルクシズムは歴史的發展過程の原動力を階級闘争に見たに反して、ナチスは血と人種とにそれを認めることによつて、前者の立場が史的唯物論であるならば、後者は生物學的自然主義だとまで極言してゐる³⁷⁾。此の言葉は確かに言ひ過ぎであるが、ナチスが如何に人種に重心を置いてゐるかを示すものである。

ヒットラーによれば、現代の我々の文化、即ち藝術、科學、技術等の發達は殆んど全部アリヤン人種の所産であつて、アリヤン人によつて人類は其の進歩を促がされ、其の認識の光によつて蒙昧の途を照らし、地上の支配者になつたのである。そして彼は人類を文化建設者、文化維持者及び文化破壊者の三種に分ち、アリヤン人のみが第一種の文化建設者だと主張する。「彼（アリヤン人）から一切の人間の創造の土臺と障壁とが生ずるのであつて、たゞ其の外形と色彩とが個々の民族の特徴によつて制約されてゐるに過ぎない。彼は一切の人類進歩に有力な土臺と計畫とを與へるのであるが、たゞ其の實行の上に個々の民族の相違が現はれ

37) Theodor Heuss; Hitlers Weg, S. 31—32.

36) Spann; Gesellschaftslehre, S. 469—474.

てゐるに過ぎない。例へば僅々數十年間に東亞に於て固有の文化が生れたと云はれてゐるが、其の究極の根據は正しく我々の場合と同じく、ギリシャ的精神とゲルマン的技術とにある。たゞ其の外形——少くとも其の一部分の——がアジア的特徴を帯びてゐるのみである。普通に考へられてゐる如く、日本が其の固有の文化の上にヨーロッパの技術を取り入れたのでなくて、ヨーロッパの科學と技術とが日本人の特性によつて粉飾されたのである。日本の文化が今や日本人の生活方法を決定するとしても、其の實生活の基礎は固有の文化に非ずして、歐米の、隨つてアリヤン人の科學と技術との所産である。此のアリヤン人種によつて東洋も亦、一般人類進歩の恩恵に浴してゐるのである³⁸⁾としてアリヤン人種に文化建設者としての地位を與へ、更に「假りに今日日本からあらゆるアリヤンの影響を奪ひ、歐米文化が亡ぶとしても、なほ暫らくは日本の科學と技術とは進歩し、存続するであらう³⁹⁾」と云ひ、かくの如き其の文化的基礎を他人種から得、しかも其の影響が除かれた後までも、なほ其の文化を維持する人種が第二種の文化維持者であると云つてゐる。

38) Hitler a. a. O., S. 318.

39) ebenda.

文化創造者としてのアリヤン人に對蹠の關係に立つものは、文化破壊者としてのユダヤ人によつて代表されるセミ族である。ヒットラーによれば、此の謂ゆる選民位自己保存慾の強烈な人種は未だ嘗て存在しなかつた。しかもユダヤ人は其の固有の文化を缺ぎ、其の文化は常に周圍の諸民族から與へられるにも拘らず、彼等には文化民族として最も重要な前提たる理想主義的精神がなく、又此の強い自己保存慾の故に、彼等には犠牲的精神が缺け、共同の危険に脅かされる場合の外は決して協力することなく、此の危険から免れるや否や、忽ち彼等はエゴイストの本能を發揮して、互ひに激しく鬭争し合ふのである。かく人類の向上に缺ぐべからざる理想なきことは、やがて彼等に文化創造力がないのみならず、却つて人類進歩を妨げる原因たらしめるのである。⁴⁰⁾

ナチスの反セミチズムは此處から出發するのであるが、此の問題は後に述べる。

かくの如くヒットラーは人種を三種に分ち、人種混合の結果は、

一、高級人種の水準低下

40) Hitler; a. a. O., S. 319—327.

二、其の精神力、肉體力の退歩

に導くが故に、純血を尊重せねばならないと云つてゐる。

しかしながらシュパンと共に我々も亦、人種と民族とを同一視することの不當であることは勿論、全く純粹な人種の存在を認めることは出来ない。後に述べる如くナチスは一民族は一國家に統一さるべきことを主張するのであるが、人種と民族とを同一視する時は、汎ゲルマン主義よりも、寧ろ汎ヨーロッパの思想に導かるべきではないか？ ナチスの領袖の一人レフエントロヴも此の點を認めてゐる。「ドイツ民族と云へばとて、それは人種的には甚だしい混合であることを見落してはならない。更に言語、慣習、交通、新聞紙、政治等によつて生じた、外形的類似のことを云つてゐるでもない。ドイツに於ける北方運動は、今なほ残存せるドイツの北方民族的要素を計畫的に強め、且つドイツ民族の本質の事實上の決定權を有するものたらしめることが民族的使命であるとの根本思想を抱いてゐる。ドイツ社會主義⁴¹⁾は完全にこれに一致する。ドイツ社會主義も亦、かゝる民族問題が全國民によつて感知され、

41) Reventlowは國民社會主義をかゝる言葉で表現してゐる。

關心を拂はるべきことを要求する。此の要求に基くドイツ社會主義の使命は、人種的に異なるドイツの成員を綜合統一し、彼等を其の最善の特質や能力に應じて全體の中で活動せしめることである⁴²⁾と。

此の故にヒットラーの右の所説は、ナチスの反セミチズム運動の一前提と見做すべきであつて、これをナチスの民族國家に關聯せしめる時には、彼の云ふ人種 *Rasse* は民族 *Volk* との言葉の上の混同であつて、ゲルマン民族を指すものと考へねばならない。とは云へナチスの國民主義は飽くまでも優秀な人種乃至民族の根柢に立ち、延いてそれはゲルマン民族の國家的統一のみならず、優者支配による帝國主義的色彩を多分に混へてゐる。このことは次の言葉に觀取される――

「通常行はれてゐる政治思想は、國家それ自體に於て、創造的な文化構成力を具へてゐることを以て出發點として、人種的前提には何ら觸れてゐないが、それは寧ろ經濟的必然の所産であるか、精々のところ政治的權力慾の結果である。此の根本觀念は其の論理的必然過程に

42) Reventlow; Deutscher Sozialismus, S. 224 f.

於て、人種に潜在する力の承認のみならず、個人の價值輕視に導く。蓋し一般の文化創造力に關する個々の人種の相違の否定は、必然的に此の最大の誤謬を各個人の判斷の上にも移すが故である。人種平等の前提はやがて民族、延いては個人の平等の根據になる。⁴³⁾

「これに反して民族的世界觀は、人類の意義を其の人種的根本要素の中に認める。それは國家に於て原則上目的に對する手段のみを認め、且つ此の目的を人類の人種的存在の維持にありとする。故にそれは絶対に人種の平等を認めざるのみならず、其の相違の間にも、價値の大小を認め、此の認識から宇宙の永久の支配意志に従つて、優者、強者の勝利を促し、劣者の服従を要求することを以て、其の義務と爲すのである。⁴⁴⁾」

「此の故に民族的世界觀は、力の自由な競争を反映し、隨つて永久的な相互の向上を促し、遂には最も優秀な人類をして、此の世界に土地獲得によつて、世界各地に於ける活動に對する自由な途を拓くが故に、自然の眞の意志に合致してゐる。

我々は皆、人類問題を論ずる時、支配民族としての最も優秀な人種が全世界の手段と機會

43) Hitler; a. a. O., S. 419.

44) Hitler; a. a. O., S. 421.

との支持を得て、それらの人類支配を必要とする時期の到來することを信ずる。⁴⁵⁾」

以上によつて我々はナチスの國民主義が、浪漫主義のそれと異り、血統によつてつながれた種族的國家を内容とするものであることを知つた。このことは種族乃至民族の純血を尊重せしめ、強烈な反セミチズム思想と結び付いてゐることも前に一言した。故に此處には暫らく其の反セミチズム思想に付いて述べなければならぬ。

由來キリスト教社會運動に於ける反セミチズムは主として宗教的立場から來てゐた。しかしナチスはそれと異り、人種の見地から出發して、ユダヤ人を文化の敵と見做すことは、其の民族主義の當然の歸能である。即ちヒットラーはユダヤ人が常に各國民の間に寄生しつゝ、「宗教團體」の名の下に別の社會を構成してゐるが、シヨールバンハウエルの云へる如く、其の「嘘つきの名人」としての特性から、「宗教團體」とは實は彼等の本體を覆ふ爲の手段であるから、此の方面に反セミチズム運動の重心を置くことは外的外れだと云つてゐる。かくてヒットラーは民族としてのユダヤ人が如何に他民族を毒し、其の國家に破壊的作用を及ぼしたかを

45) Hitler; a. a. O., S. 422.

知るには、彼等が今日まで爲し來つた途を想ひ返せば充分だと云ひ、ユダヤ人の發展の跡を辿つてゐる。其の要領を簡単に纏めやう。

民族移動時代の初期からユダヤ人は早くも商人として出現したが、最初はそれ程厚顔でもなかつたし、殊に新來民族は生來の柔順さと素朴さを以て、却つて商人としてのユダヤ人の存在を喜んだ。

其の結果ユダヤ人は漸次經濟的方面で活躍し始めた。勿論彼等の活動は主として、生産者として、なく中間取引者として、あつたが、此の方面に於ける才能は遙かにアリヤン民族を凌ぎ、容易に商業を獨占し始めると共に、高利による金貸を營むに至つた。商業及び、就中彼等の重視する金融業に於ける地位の確立と共に、彼等は都會地方に定住して、「國家内の國家」を構成し、漸次其の特質を暴露し始めた。かくて彼等が中世紀人の最も重要な財産たる土地をも投機の對象たらしめるに及んで、漸く民族的反感が高まり、其の高利は反對者を刺戟し、其の無耻は憤りを、其の富は妬みを買ふに至つた。

しかしユダヤ人は如何なる迫害にも屈しなかつたのみならず、却つて封建諸侯の財政的窮迫に乗じて宮廷に入り込み、金融的援助の代償として特權を要求し、封建諸侯の没落を急がしめた。ドイツ民族がユダヤ人の害毒から免れ難い運命に縛りつけられたのは、實にユダヤ人に籠絡された、これら封建諸侯の責任である。

ユダヤ人は漸次其の外形的生活をドイツ的に改め、言語もドイツ語に改めたが、それは一は市民權を獲得し、他は金融支配による世界制覇を遂げんとする手段であつて、彼等の外的生活の如何に拘らず、其の特性は不變であつた。即ち彼等是一種族に取つて最も重要なものは血統であることを知れるが故に、自らセミ族としての純血を保ちつゝ、他の民族の血を汚濁せしめる。ユダヤ人の男子は決してキリスト教の婦人とは結婚しないが、ユダヤ人の女をキリスト教の男子に配することを躊躇せざるは此の故である。

彼等は外貌を装ふ爲に慈善行爲を辭せず、時代の先達たらんと努めるが、實際には國民の經濟を毒し、國民を滅亡の淵に導きつゝあつた。即ち彼等は株式の手段によつて、國民的生

産過程に侵入し、生産に對する個人的所有權を奪ひ、それを賣買の對象たらしめた。かくて企業家と労働者との乖離が生じ、延いては政治的階級分裂に誘つた。そしてユダヤ人自ら國民的労働力の所有者乃至其の統制者としての地位を確保した。

ユダヤ人が彼等の蒙る種族的、民族的差別打破の爲に利用した有力な武器は新聞であつた。そして彼等は新聞の利用によつて輿論を常に誤れる方向に導いた。

しかし此の時期に於ける彼等の最高の目的は、民主主義の勝利であつた。個人的人格を退け、其の代りに無責任な衆愚の支配を以てすることは、最も多くの機會を彼等に恵んだ。

高度の經濟的發展に伴ふ労働大衆のプロレタリア化、農村から都市への労働者の移動的傾向、健康の阻害と權利の信念の喪失、賃銀の低下と企業家の巨利、これらの社會悪は悉くユダヤ化の結果である。

ブルジョア階級が無反省にこれらの事情を看過せる時に、ユダヤ人は一方では人類搾取の資本主義的方法を極度にまで發展せしめつゝ、他方では其の犠牲者を煽動し、其の指導者と

なつた。嘗ては彼等は封建世界打破の爲にブルジョアを利用したが、今やブルジョア社會破壊の爲に労働者を利用せんとするのである。かくして彼等は労働者大衆の間にマルクシズムの思想を植ゑ付けた。

しかも其の眞の目的は、労働者自身の奴隸化と、一切の非ユダヤ人全滅にある。一方では金融資本の獨占、他方ではマルクシズムの大衆を武器として、今や民主主義に代ふるに彼等自身の少數獨裁の實現を企て、計畫的に經濟と政治との兩方面から革命の準備を爲し、民族を内部的に對立抗爭せしめ、インターナショナルの思想を植ゑ付ける。

究極に於てユダヤ人は、經濟的には社會的企業を國家から奪つて自己の金融支配下に隷屬せしめ、政治的には國民的獨立の根據を破壊し、文化的には國民的感情を喪失せしめ、一切の美なるもの、崇高なるものを奪つて、低い動物的地位に追ひ落とし、宗教的には習慣と道徳とを輕蔑して、國民の最後の支柱を失はしめるのである。

此の種の最も恐るべき實例を提示するものがロシアであつて、其處では三千萬の人間が非

人道的な壓迫の下に殺され、飢ゑてゐるに反して、他方では一群の少數ユダヤ人が國民大衆を獨裁してゐるのである。⁴⁶⁾

以上の如くヒットラーによれば、一切の社會悪は總てユダヤ人の所業であつて、殊にインターナシヨナリズムはユダヤ人の陰謀の最たるものであるが故に、極力これを排斥して、ドイツは純粹なドイツ民族の血を以て護らねばならないと云ふのである。

ナチスの綱領の殆んど大半が、ドイツ民族純血の主張と、ユダヤ人對策とに關する規定に割かれてゐることを見ても、反セミチズム思想がナチスの民族主義の根幹を爲すものであることがわかる。

第二節 國民社會主義と社會主義

ナチスは國民主義であると同時に、其の社會主義的性質をも主張するのであるが、其の包藏する社會主義思想は如何なるものであらうか？

社會主義の概念の下で通常無雜作に考へられてゐることは、第一に生産手段の私有廢止である。例へばカール・デールは社會主義に次の如き定義を下してゐる。

「社會主義とは生産手段の私有廢止を希望するか、又は我々が此の社會制度の發展の中に包含されると考へる思想である。……故に我々は社會主義の本質を消極的には、それが土地及び資本の私有に反對するものと云ふことが出来るが、積極的には其の本質は、個人的所得を労働に基いてのみ與へ、最早財産所得からは與へざることを主張することだと云はねばならない。⁴⁷⁾」

此の意味に於ては國民社會主義は社會主義ではない。何となればナチスは不勞所得は容認しないけれども、私有財産制の原則的承認をば明言してゐるからである。

しかしながらナチスによれば、右の如き解釋は社會主義の概念がマルクシズムによつて獨占された結果であつて、眞のドイツ社會主義はドイツにのみ固有なものであり、西歐思想たるマルクシズムと全く無關係なものである。此處にも亦我々はナチスに於ける浪漫主義的底

47) Karl Diel; Sozialismus und Kommunismus, Handwörterbuch der Staatswissenschaften, Bd. S. 579.

46) Hitler; a. a. O., S. 329—358.

流を見るのである。

「ドイツ社會主義は、他國民によつて模倣され得る一般的な社會主義や一般的な制度ではなく、それはドイツの本質から生じたものである。ドイツ的社會主義は一切の積極的なもの、消極的なもの、特有なもの、をこめてドイツ國家と共に亡ぶものではない。しかしながらドイツ國家はドイツ社會主義を構成し、促進すべき唯一の機會を與へるものである。かくの如きドイツ社會主義の概念に對して、それは狭すぎるとの非難が擧げられるかも知れない。即ちドイツ社會主義を吟味するには、少くともゲルマン民族、又は一定の北方民族について其の環境、特性、歴史等を研究せねばならない。しかしながら、かゝる疑ひに對しては、これらの同一根源から生じた諸民族の主要な部分、即ちアングロサクソン、オランダ、スカンジナビヤ及びドイツ人を見よと答へるだけで充分である。これらの諸民族が數百年の間に其の環境、政治、經濟、人種的混合、其の運命等によつて、如何に變化したか？ 彼等は數限りない要素によつて、其の形態の上に著しい變化を與へられた。……ドイツ社會主義

の如き統一的思想の下にゲルマン民族を悉く包括せんとすることは、ユートピアであり、根本的な誤りである。

反對に我々はドイツ社會主義に關する我々の思想を單にヴェルサイユ條約によつて、勝手に狹められた今日のドイツ國內に限らんとするものではない。勿論此の範圍は先づ實際的活動の中心地たるべきは云ふまでもないが、オーストリア、チェッコ・スロヴァキヤ、ポーランド及びフランス領たるか、自治國となるかに無關係に、ドイツ・エルザスのドイツ國民をも等しく特徴付けるものである。⁴⁸⁾

「國民及び國民の觀念のみが、専らドイツ社會主義の對象となるべきものなるが故に、我々にとつては、社會主義とはあらゆる生活關係を通じて一貫せる、最高の意義に於ける國民の思想を意味する。よし、正否は別として、國際的社會主義の慣習に従つて、團體 (Genossenschaft) と云はずして、社會 (Gesellschaft) と云はれたとしても、我々は強ひて反對するまでもない。しかし此の言葉の本來の意味に立ち戻つて云ふならば、ドイツ國民の一構成分子たる

48) Reventlow; Deutscher Sozialismus, S. 145—146.

ドイツ人は、其の性質、自然的環境、運命、根本思想等、あらゆる事情と條件とによつて、獨特の存在たらしめられたものである。かゝる者の社會を精神と組織と政治制度とによつて完成することを、我々はドイツ社會主義と呼ぶのである。……ドイツ社會主義の目的は人間を創造することに非ずして、其の土臺たる國民を創造することである。⁴⁹⁾

故にナチスに取つては、社會主義とはドイツ的なものであつて、換言すればドイツ國民主義そのものが直ちに、ドイツ的な本來の社會主義なのである。この主張はシュベングレーの「我々ドイツ人は社會主義者である。他の民族は社會主義たることは絶対に不可能である」と云ふ言葉と完全に一致する。此のシュベングレーの言葉こそナチスの社會主義思想の核心を爲すものであり、如何にナチスが彼の思想に負ふところ多きかを思はせる。それ故に我々は一應シュベングレー自身の思想を跡付けねばならない。

シュベングレーによれば、現代ヨーロッパ人種の間には、二大思想が闘つてゐる。一はイギリスの人生觀、即ちイギリスの本能としての海賊的精神 *Wikingergeist* から生じた思想で

あり、他はプロシヤ的、ドイツの人生觀、即ちプロシヤの本能としてのドイツ騎士的精神 *Ordenggeist* から發達したものである。

前者は個人の幸福を要求するに反して、後者は全體の幸福を目的とする。イギリスの人生觀にあつては、個人の自由が最も尊重され、全體、即ち國家は完全に二次的役割しか與へられず、隨つてイギリスでは久しく兵役義務も就學義務も、保險義務もなかつた。これに反してプロシヤの人生觀にあつて最も重要なものは全體、即ち國家であつて、個人は此の全體の爲に存在するのである。存在するものは「我」でなくて、「我々」のみであり、各人は此の共同感に基いて存在することが出来るのである。此の思想の根柢に立つて、ウィルヘルム一世やフリードリッヒ大王はプロシヤ國家を建設したのであるが、イギリスはこれに反して「國家の代りに、國家と秩序とに反する自己保存の爲の、顧慮なき鬭争を念願とする個人の概念」⁵⁰⁾を立てた。此のイギリスとプロシヤとの人生觀の相違の原因は、前者に於ては島嶼を以て國家を構成せる爲に、國家としての全體觀念が忘却されてゐたに反して、後者は自然的境界を

50) Oswald Spengler; *Preussentum und Sozialismus*, S. 35.

49) Reventlow; a. a. O., S. 150.

缺ぎ、國民全體の鞏固な團結を以てせざれば、周圍の外敵を防ぐことが出来なかつた爲である。

以上の相對立する二つの人生觀から、更に二つの相異つた人間的秩序が生ずる。即ちイギリスにあつては富の上に、全體の貧富の差の上に建てられた秩序が生じ、プロシヤに取つては、權威 *Autorität* の相違、即ち命令と服従との關係を基礎とする秩序が生じた。それ故に前者にあつては、人間を評價する爲の第一の規準は、彼の貧富如何にあり、プロシヤドイッにあつては、全體の間で占める地位如何にある。プロシヤ人に取つては位階も亦、勞務に對する報酬である。

「フリードリッヒ・ウィルヘルム一世以降、軍人や官吏の俸給はイギリスの中産階級に屬する者の額に比して甚だしく少額であつた。にも拘らず、彼等は遙かに勤勉に、私心なく働いた。位階は究極に於て俸給であつた。ベーベルの下に於てさへもさうであつた。此の國家内に於ける勞働者國家は決して富むことを意圖したのではなく、支配せんと欲したのであ

る。これらの勞働者が彼等のストライキに於て重心を置いたものは賃銀問題に非ずして、其の權力問題、事實か否かは別として彼等の雇傭者と相反した世界觀、道德的原則に對する點にあつた。而して此の場合根本的には敗れても、道德的勝利を贏ち得たのである。かゝる事情はイギリス勞働者には到底理解し難いところである。……しかるに此の訓練された勞働運動が相互に相手方を無視して、激しい賃銀政策に突如轉換するに至つたことは、イギリスの原則の勝利であつた。⁵¹⁾ 即ちドイツ勞働者が其の本來の國民的使命を忘れ、利己的運動に急激に轉換したことは、彼によれば一九一八年十一月革命によつて、眞の社會主義が葬られ、イギリス主義が優位を占めるに至つた結果に外ならない。シュペンゲラーは云ふ。「眞のイギリス人は資産なき者の命令に服従し得ないと同じく、眞のプロシヤ人は單なる富に到底屈することが出来ない⁵²⁾」と。

此の相違は更に兩國民の經濟觀の上にも反映する。人類の經濟的本能、其の經濟的權力の發現方法の多様性を無視して、専ら唯物論的に見んとするとは甚だしい誤謬である。

51) Spengler; a. a. O., S. 46.

52) Spengler; ebenda.

「東境の殖民的騎士道の世界觀からは、其の必然的の原則として、國家の經濟的權威が生ずる。權利と義務とは生産と生産活動とに分ち與へられる。其の目的は個人の繁榮に非ずして、全體を富ませる爲である。」⁵³⁾これに反してイギリス商業民族の海賊的本能にあつては鬭争と掠奪とが目的であつて、「此の本能に取つては、一切のものは個人が自己を富ましめる爲の獲物であり、商品である。總てのイギリス機械工業は専ら商業的利益の爲に營まれる。それはより廉價なる商品製造に用立たしめられるのである。イギリス農産物の價格が賃銀低下の影響を及ぼす時には、農業は商業の犠牲に供せられる。一八五〇年のイギリス工業界に於ける企業家と労働者との間の全鬭争は、商品たる『労働』に關するものであつて、一は安く奪はんとし、他は高く賣らんとした爲である。マルクスが『資本主義的社會』に付いて指摘せる一切の缺陷はイギリス的經濟本能にのみ妥當するものであつて、一般の人間の經濟觀に妥當すると云ふことは出来ない。

最高の言葉、自由貿易は海賊的經濟であり、プロシヤ的な、随つて社會主義的言葉は財交

53) Spengler; a. a. O., S. 47.

換の國家的統制でなければならぬ。故に國民經濟全體から云へば、商業は支配的地位から從屬的役割に移されねばならない。……故にマルクス型の社會主義の對象となるのはイギリス型の資本主義のみであつて、超個人的見地から出發せる經濟生活統制のプロシヤ的思想は一八七九年の保護關稅立法以來自らドイツ資本主義を國家統制の意味に於ける社會主義的形態に移した。⁵⁴⁾

かくの如く、イギリスの原則は「個人的財産の増殖」であり、プロシヤの原則は「一單位としての國民全體の幸福の計畫的向上」である。殊にこのことは財産の觀念に關する兩者の見解の相違の上に明瞭に觀取される。

イギリス人に取つては、財産は所有者が任意に處分し、管理することの出来る獲物であるが、プロシヤ人に取つては所有者が國家から其の管理を委ねられた財であつて「一定の權利と義務との附帶せる古代の一種の知行の如きもの」⁵⁵⁾である。

彼は云ふ、「財産のゲルマン的尊重は、個人に役立たしめる爲ではなくて、全體、即ち國

54) Spengler; a. a. O., S. 49.

55) Spengler; a. a. O., S. 90.

家に役立たしめる爲である。これが社會化である。……社會化とは徵收又は掠奪の方法による國有化ではない。一般的に云へば、それは所有權の歸趨の問題に非ずして、行政技術の問題である⁵⁶⁾と。そしてプロシヤ的經濟觀を次のやうに綜合してゐる。

「古代のプロシヤ思想は、細心な所有權及び相續權の保護の下に、全生産力を獨自の立法の形式によつて統御し、實際の當事者の個人的企業心、才幹、精力、精神を、規律と、其の規律によつて許された範圍内の自由とを以て活動せしめることであつた。この事實は夙に昔のカルテルやシンヂケートの場合に廣く認められ、計畫的に勞働方法、勞働評價、利益分配、及び命令者と執行者との間の服務關係の上にも及ぼされてゐた。……此のプロシヤ的統治形態こそ二百年此の方、社會主義の使命と爲し來つたところのものである⁵⁷⁾」

此の經濟に對する立場の相違から、イギリスでは經濟力が國家を支配するが、プロシヤでは國家が經濟を支配するのである。

以上説く如く、プロシヤ的人生觀にあつて、あらゆる方面に亘つて最大の重點は、全體、即

56) Spengler; a. a. O., S. 89 f.

57) Spengler; ebenda.

ち國家に置かれるのであるが、シュベングラールによれば此の人生觀こそ、社會主義の概念の究極の、最も深遠な意義であり、且つ此の人生觀はドイツ民族にのみ固有のものなるが故に、眞の社會主義は此のドイツ的社會主義のみである。

以上のシュベングラールの思想は明らかに個人主義に對して普遍主義、唯物主義に對して理想主義を對立せしめんとするものであつて、浪漫主義的考へ方である。

さて此の思想がナチスの社會主義概念に如何に大なる影響を與へてゐるかは、前のレフェントロヴの言葉を見れば充分であるが、更にそれは一九三〇年八月、ケルンのラインランド公會堂に於けるヒットラー自身の言葉に極めて明瞭に認められる。曰く、

「若し今日諸政黨の運命に變化があるとせば、それは數多の人々が彼等の個人的運命のみを重視し、國民全體の運命は綜合された個人の運命の結果であると云ふ考へ方に支配されてゐる爲である。彼等は個人の運命が全體の運命を作るのではなくて、全體の運命があらゆる個人の運命を決定し、構成するものであり、且つ重要なことは個人の救済に非ずして、全體の

救済であることを認めないことである」と。同じ思想は彼の「我が闘争」を初め、ナチスのあらゆる文献の中に認められる。

「若しも眞に國家を構成し、乃至は維持する力は何かと聞かれたならば、其の答は次の一言に盡きる。即ち全體に對する個人の犠牲的行爲と犠牲的意志とである。」⁵⁸⁾(ヒットラー)
「社會主義は平等化に非ずして、全體の爲にする根深いプロシヤの奉仕である。」⁵⁹⁾(シュトラッサー)

「『私益に對する公益の優先』なる觀念を貫くことが現代社會に彌漫せる個人主義的觀念の腐敗的影響によつて、かくの如く破壊された國家、國民、經濟に對する、『眞の國家』の普遍主義的社會秩序の勝利を意味する。」⁶⁰⁾(フェーダー)

これらの主張は同時にシュバンの「普遍主義の見地に立てば、社會の本質は個人に非ずして、超個人的精神である。」⁶¹⁾と云ふ見解にも一致する。

かくしてナチスの謂ゆる社會主義は普遍主義的主張に外ならないのであつて、要するに一

58) Hitler; a. a. O., S. 167.

59) Gregor Strasser; Freiheit und Sozialismus, S. 36.

60) Gottfried Feder; Das Program, S. 11.

61) Spann; Der wahre Staat, S. 109.

單位としてのドイツ國民の全體の福祉を計ることであり、内容的には其の國民主義と完全に一致する。

此の故にナチスが社會主義なりや否やは、社會主義概念の規定如何に懸る問題であり、随つてマルクシズム的社會主義の立場から、ナチスの綱領、政策を拉し來り、それが社會主義でないとは断定することは的外れだと云はなければならぬ。

第四節 國民社會主義とマルクシズム

前節に於て述べた如く、ナチスの社會主義は個人主義的な西歐思想から生れた唯物論的社會主義と判然と對立するのみならず、却つてかゝる思想は眞の社會主義の敵として極力排撃するのである。故に其のマルクシズムに對する批判を吟味することは、ナチスの思想を一層明確ならしめる一助ともならぬ。

シュペングラーによればマルクスの考へ方は全然イギリス的であつて、マルクスの階級分

離は、古代の海賊本能に基き、事實上の存在として主體と客體、掠奪者と被掠奪者しか認めないイギリス商業民族の状態から抽き出されたものである。それ故に「此の概念をプロシヤ的國家思想にも當て嵌めんとすることは無意味である。マルクスは『一切は萬人の爲に』といふ原則から生ずるところの、各人は等しく全體、即ち國家の奉仕者たる地位にあると云ふ國家思想を、イギリス的工場奴隸制度の事實から區別することが出来なかつた。即ち彼はプロシヤ主義の單なる外貌しか把握し得ず、其の本質たる、一階級にのみ偏倚せざる組織、原則、共同團體、技術的形式たる社會主義を理解せずして、それをイギリス的な社會に於ける勞働者階級の目的と武器たらしめ、全く古代イギリス海員思想に捉はれて、掠奪者と被掠奪者——搾取者と被搾取者——の思想と混同し、加ふるに勝利後の獲物分前の利己主義的方法を注入した。⁶²⁾」かくてマルクスにあつては勞働者は其の商品の販賣者であり、企業家は其の購入者として剩餘價值を獲る爲に勞働者を壓迫し、隨つて其處から階級闘争が生ずる。此處にマルクスが社會主義を以て勞働者の爲の目的乃至武器と見做す所以がある。

62) Spengler; a. a. O., S. 71 f.

マルクスの此のイギリス的思想からは、國家は考へられない。「彼の思想にあつては國家は考へられない。彼は國家なき社會の構成を頭に描いてゐる。イギリスの政治的議會制度に於けると同じく、彼の描く社會は經濟生活に於ても、單に二つの主權的二黨派があるのみで、此の黨派の上に立つものがない。故に存在するものは闘争のみであつて、仲裁機關を缺き、勝利か没落か、即ち此の二黨派の中の一の獨裁しか考へられない。共產黨宣言は資本主義的黨派、即ち惡黨派の獨裁をプロレタリア的黨派、即ち良黨派のそれに置き代へんとする。マルクスはこれ以外の方法を知らないのである。

しかるにプロシヤ的社會主義的國家には、かゝる善惡二黨派の對立はなく、それは國民全體である。⁶³⁾」

マルクスの道德も亦イギリス的である。

「マルクシズムは其のあらゆる原則に於て、それが政治的思索から出發せずして、神學的思想から出たものたることを暴露してゐる。第一に其の經濟理論は倫理的根本感情の結果で

63) Spengler; a. a. O., S. 75 f.

あるが、……其の根本觀念は道德律と考へねばならない。社會主義と資本主義なる言葉は此の誤れる宗教の善惡と解される。ブルジョアは惡魔であつて、賃銀労働者は新らしい神話のエンゼルである。……

その結果マルクスは労働の蔑視を説く。労働、苛酷な、長時間の、苦しい労働は不幸であり、不勞利得が幸福である。自己の労働によつて生活する人のイギリス的輕視は、獲物の掠奪のみを事とし、航海を続けることは本來の目的でなかつたヴィンガー本能の結果である。此の故にイギリスでは労働者は奴隸である。⁶⁴⁾しかるにマルクスは徹頭徹尾此の労働の神聖の意味を到底理解し得ないイギリス思想に捉はれてゐた。

更にシュペンゲラーによればマルクスの思想に支點を與へたものは彼のユダヤ的本能である。

「マルクスは、彼自身のユダヤ人問題に關する著書の中に現はれてゐる、彼のユダヤ的本能に據る所が多い。創世紀の始めに於ける肉體的労働の呪咀、日曜日を労働によつて阻害する

64) Spengler; a. a. O., S. 73.

ことの禁止、これらのイギリス的感情に現はれた舊約的情熱に捉はれてゐた。それ故に労働を要せざる人に對する彼の憎惡が生れたのである。フィヒテの社會主義は彼等を怠け者として、義務を忘れた、人生の寄生者として輕蔑するが、マルクスはそれを羨むのである。⁶⁵⁾

かくてマルクスにあつては労働は義務ではなくて「商品」であり、彼の道德は商業道德である。賃銀闘争は労働者と商人とが、商品たる労働で投機を行つてゐるのである。「剩餘價值と云ふ有名な言葉の秘密は、實は商人が反對者から奪はれた獲物に外ならない。⁶⁶⁾」かく見ればマルクスにあつては階級利己主義が其の根本原則で、「マルクシズムは労働者の資本主義である。何となれば其處にはマルクスは思想的にマルサスやコブデン、並にダーウインに接近してゐるから。商業は常に生存競争であり、産業に於て、企業家は其の商品「貨幣」を、労働者は其の商品「労働」を交換し合ふのである。マルクスは資本の所有權を奪ふが、労働者の個人的利益に對する權利のみは認めんとする。かゝる思想は「非社會的であり、眞にイギリス的」⁶⁷⁾である。次にシュペンゲラーの唯物史觀批判を簡單に見やう。

65) 1. Spengler; a. a. O., S. 74.

66) 2. Spengler; a. a. O., S. 75.

67) Spengler; ebenda.

マルクスは産業國イギリスに關する圖式的 (schematisch) な、しかも極めて疑はしい視點から得た様相を全歴史に及ぼさんとした。即ちマルクスは此の經濟的構成の、全「人間社會」への妥當性を主張し、殊にこれこそが歴史の流れに於ける唯一の本質的なものとした。

「經濟的狀態 (物理的意味に於ける) を原因と見做し、宗教、法律、道德、藝術、科學を作用と見做すところの唯物史觀は、それが無宗教的な、傳統を失つた都會人の思索に合致するが故に、現代に於ては明らかに人を信ぜしめるべき何物かを含んでゐる。其の故は經濟的事情が實際に『原因』である爲ではなくして、藝術や宗教が無力に、空虚に、外面的になり、今や事實上、時代の唯一の力強く發展せる表現形態の影となつたからである。⁶⁸⁾」

其の師ヘーゲルがプロシヤ人として、殆んどゲーテ的に把握された發展の中心に國家を置いたのに對して、マルクスは機械的ダーウイン的な「進歩 Evolution」(ドイツ的ならば Fortschritt と云はなければならない) の中心に、イギリス人らしく「經濟」を置いた。ヘーゲルにあつては國家が歴史の創造者であり、政治は歴史であつて、彼の言葉には「人間社會」は

68) Spengler; a. a. O., S. 79.

ない。しかるに、マルクスは國家なき歴史を考へ、歴史を經濟的利害關係の闘争と見做した。それ故にシュペンゲラーによれば、唯物史觀はイギリス的史觀である。⁶⁹⁾

次いでシュペンゲラーはマルクスの唯物史觀にあつては、從來の歴史と同じく「古代から中世、中世から近世への進歩の途を辿り」、究極に於て地上の樂園に立つところの、一つのイデオロギーに墮してゐると云つてゐる。「マルクシズムは一つのイデオロギーである。その證明は唯物論者が信仰の力を失つた後にキリスト教から繼承したところの、彼の歴史の區分に見出される。」しかるにシュペンゲラーにあつては生命は「目的」を有せず、人間は目的を持たない。世界の存在は目的であり得るには餘りに崇高すぎる。「しかしながら人間に與へられた此の生命、人間に運命から贈られた此の現實を最高の内容で満たし、それによつて自ら誇らから得る如く生活し、我々の中の何物かを此の完成されつゝある現實の中に存続せしめる如く行動すること、これが使命なのである。我々は『人間自體』ではない。それは過去のイデオロギーに屬する。世界主義は哀れむべき言葉である。我々はある時代の人間であ

69) Spengler; a. a. O., S. 79.

り、ある國民の、ある範圍の、ある型の人間である。このことは我々が存在に意味と深さとを與へ得る爲の必要は條件である。實行者は實行者なる言葉によつてさうであり得る。我々が此の一定の限界を充すに従つて、我々の作用は益々廣く及ぶ。プラトンはアテナ人であり、ケールはローマ人であり、ゲーテはドイツ人であつた。彼等が全く、第一に、さうであつたと云ふことが、彼等の世界史的影響を與へ得るに至つた前提である。⁷⁰⁾故にシュペンゲラーにあつては、人類とは抽象であり、實在するものは、常にある制約の下に於ける定型的なものでなければならぬ。其處から彼はマルクスの抽象的な人間社會の概念を退けるのである。そして最後にかう結んでゐる。

「此の立場から我々は今や、ドイツ革命のたゞ中にあつて、マルクシズムと社會主義とを對立せしめる。未だ曾て理解されなかつたプロシヤ主義たる社會主義は、最高位の一つの現實であり、マルクスは文獻である。文獻は古くなるが、現實は勝つか、死滅するか何れかである」⁷¹⁾と。

70) 71) Spengler; a. a. O., S. 80.

此の人間社會を抽象的な人類の發展に依存するものと見るマルクシズムからは、世界主義の抽象的概念しか生じないが、存在するものは常に一定の約束の下に於ける生ける現實と見るドイツ社會主義からは、躍動せる國民國家の思想が生れる。

レフェントロヴは云ふ、「國際社會主義は國民及び民族を低い社會的發展狀態の現象形態と見る。國際社會主義に取つては、國家及び民族は『社會主義』への途の退歩であり、障礙である。……これに反してドイツ社會主義に取つては、ドイツ國民それ自體が、理論上も實際も、最初にして最後のものであり、ドイツ社會主義に取つては、國民が理想であり、其の完全な實現が彼の全努力の内容を爲す。……此の故にドイツ社會主義に取つては、國民又は民族は最初から自然に與へられた統一であつて、各人が其の中で自由な生活を營み得る爲の生ける有機體である」⁷²⁾と。

此處にマルクシズムと、シュペンゲラーのプロシヤ主義と同じ内容を持つナチスの謂ふ社會主義とは鋭角的な對立を爲す。

72) Reventlow; a. a. O., S. 148.

「國際社會主義の祖述者達の見解は、一見してそれが形式的推論の結果であつて、國民の上に存在する心理の誤解と、無限の價値の輕視とにあることがわかる。……ユダヤ的な冷血國際主義者マルクスは、彼の謂ゆる既存の『プロレタリア』階級の意識的國際主義から出發し、『勞働者階級』の鞏固な團結による、あらゆる國境の破壊を最高の目的とするものである。各國の勞働者の事實上の連帶が、生ける統一として存在せざることは明らかであつて、それは常に幻影である。⁷³⁾」

更に右の對立は兩者の階級闘争理論の上に一層明確に現はれてゐる。ナチスが階級の對立及び階級闘争を嚴に否定することは、ヒットラーの次の言葉に明らかである。

「國民社會主義的勞働組合は階級闘争の機關に非ずして、職業代表の機關である。國民社會主義國家には何らの『階級』は存在せずして、在るものはたゞ政治的には完全に平等な權利と義務とを有する國民のみである。……元來勞働組合が『階級闘争的』なのではなくて、マルクシズムがそれを階級闘争の用具化したのである。マルクシズムは國際的ユダヤ人が自由

73) Reventlow; a. a. O., S. 30.

にして獨立な民族國家の經濟的基礎を破壊し、國民的商工業を阻害し、自由な民族を超國家的世界金融ユダヤ主義の下に隸屬せしめる爲の經濟的武器を作つたのである。⁷⁴⁾」

次いでシュペンングラーとヒットラーとはマルクシズムの「非社會性」を特にストライキの闘争手段の中に認めんとしてゐる。シュペンングラーによれば國家全體の幸福に顧慮せざる放恣な賃銀闘争の思想は、プロシヤ的ドイツ的的人生觀に正反對なものである。「ストライキはマルクシズムの最も非社會的な特徴であつて、……其の闘争手段の前提は、國家としての國民は存在せずして、在るものは常に黨派のみだといふことである。放恣な賃銀闘争並にプロレタリア黨派の勝利の後に、賃銀を一方的に決定せんとするマルクシズム的思想はイギリス的である。これに反してプロシヤ的思想にありては、一切の勞働を通じて其の賃銀の決定は超黨派的、國家的であつて、個々の職業階級の爲ではなく、全國民の利益の爲に、全部の經濟狀態に應じて計畫的に決定するのである。……かくてそれは非國家的な取引的な個人的手段としてのストライキを禁止する。賃銀の決定は企業家及び勞働者に任せられずして、一般經濟會議

74) Hitler; a. a. O., S. 674 f.

に委任される。⁷⁵⁾

右の點に關するヒットラーの見解も同じである。「勿論此の國民社會主義的國家は、企業家と労働者との兩派の大衆闘争の代りに、萬人に法的保護を加へねばならない。國民經濟の發展と、それに害悪を及ぼす一切の弊害や缺陷除去の義務は經濟會議の任務である。今日の數多の闘争は身分階級會議と中央經濟議會とによつて調停される。かくして貸銀問題に於ける企業家と労働者との間の闘争は無くなり、これらの問題は一般により高所、即ち國民全體と國家との幸福の立場から解決される。⁷⁶⁾

更にナチスに於ける著るしい特徴は、其の種族的乃至民族的見地並に「國家破壊の最大原因」としての金融資本打破との立場から、マルクシズムの排撃に及べる點である。ヒットラーに取つては、マルクシズムの「究極的目的」は「一切の非ユダヤ的國民國家の破壊⁷⁷⁾」にある。シュトラッサーが「マルクシズムは諸國民の國民主義的經濟獨立に對する國際的金融支配の爲の權力闘争である⁷⁸⁾」と云ひ、レフエントロヴが「國際的社會主義は、それが完全に

75) Spengler; a. a. O., S. 77.

76) Hitler; a. a. O., S. 677.

77) Hitler; a. a. O., S. 85.

78) Strasser; Freiheit und Brot, S. 12.

インターナショナルなものであれ、一國內に止まるものであれ、要するに手段であつて、如何なる場合にもそれは國際資本主義の忠僕である⁷⁹⁾」と云へるも、等しく軌を一にする。

然らばナチスに於て、ユダヤ人は如何にしてマルクシズムに關聯せしめられるか？ ヒットラーは云ふ「彼(ユダヤ人)は労働者に接近し、其の信頼を獲る爲に、彼等の貧困な運命に對する表面的な同情や義憤を粧ふ。彼は各個人に、よしそれが事實上のものであらうが、想像上のものであらうが、其の生活上の苦惱を痛感せしめんと努力する。彼はあらゆるアリヤン人の中に眠れる社會正義に對する要求を眼覺ましめ、それを巧みに幸福な者に對する憎惡に轉じ、社會的弊害除去の爲の闘争に一種の世界觀的外貌を與へる。かくして彼はマルクス學說を基礎付けるのである。

彼はマルクシズムが一切の社會正義の要求に不可分なりと主張することによつて、其の普及を計る。……此の學說は理性と狂氣との混合物であつて、人間、隨つて民族と其の種的内容との絶對的否定によつて、人間文化全體の根本的基礎を破壊する。これがマルクスの世

79) Reventlow; a. a. O. S. 33.

界觀の眞の核心である。……人間と人種との破滅と共に少数者支配の最大障礙が除かれる。而して此の少数者とは即ち、ユダヤ人のことである⁸⁰⁾と。

以上の如きマルクシズムと社會主義との對立から、シュペングラの次の如き斷定が生ずる。即ち一九一八年十一月のマルクシズム的革命時代に當つて、「眞の社會主義は戰線で最後の争闘を繼續してゐたか」、或ひは「戰死してゐたか」の何れかであり、「それは一九一四年八月に鼓舞されて立ち上り、一九一八年に裏切りに遭つたところの社會主義である⁸¹⁾」と。同様にヒットラーもかう云つてゐる——

「一九一四年八月のドイツ労働者をマルクシズムと同一視するのは馬鹿である。ドイツ労働者は當時未だ此の有毒な疫病に罹つてはゐなかつた。でなければ彼等は戰闘に参加しなかつた筈である。……マルクシズムは一九一四年の七月頃、それに迷はされてゐたドイツ労働者が覺醒して、時々刻々祖國の爲に劍を取つて立ちあがるのを見て驚かざるを得なかつた。瞬時にしてマルクシズムの破廉耻な國民僞購の害毒は吹き散らされたのである⁸²⁾」。

80) Hitler; a. a. O., S. 350 f.

81) Spengler; a. a. O., S. 12.

82) Hitler; a. a. O., S. 184 f.

第四章 ナチスの政治理論

第一節 國家觀

前説に於て述べた如く、ナチスは其の現實主義的立場から抽象的な人間社會を認めず、且つ國際主義を其の上に立てられた幻影として退けつゝ、他方に於て生ける現實としての民族の基礎に立てられた國民主義を高調する。かくてナチスに於て要求せられる國家は云ふまでもなく民族國家である。即ちそれは血によつてつながれ、一切のドイツ國民を共同の意識的に統一せんとする汎ゲルマン國家でなければならぬ。このことはナチスの綱領第一條、第四條乃至第九條に極めて熾烈な要求となつて現はれてゐるところであり、唯理主義の反動として起つた浪漫主義思想の先人ファイヒテ、ギョルレスの自然的國境否定論、民族主義者ナウマンの中歐統一論と一致してゐる。

同時にかゝる民族國家の要求されるところにあつては、其の普遍主義的立場から、國家は最早個人主義的自由主義やマルクシズムに於けるが如き、言語や自由な連帶感によつて原子的に結ばれた個人の單なる集積ではない。

フェーダーは云ふ——「現代支配せる學說によれば、社會は個人の集積であり、國家は最上の意味に於て多數個人の同一目的に結ばれた團體である。

それによれば、社會の構造は恰も石造家屋に等しいと云はなければならない。即ち此の石造家屋にあつては個々の石のみが唯一の現實であつて、其の家屋の外形は偶然の所産であり、其の石の積み方如何は家屋に取つて無關係であつて、如何に多くの石の機械的集積から成れるものであらうとも、依然としてそれは石造家屋たるに過ぎない。

我々の國民社會主義的社會學乃至國家哲學によれば、國家は家である。……此の家は數多の個々の部分的偶然的集積に非ずして、計畫的に綜合されたものである。……かくて初めて混沌は有意義に、有機的に秩序立てられ、一定の計畫に従つて、混沌から形式が生じ、無意

味な大衆は有意義に結合された全體となり、各部分は眞に有意義な生活となり、此處に初めて、眞の國家が生ずる。¹⁾

同じくヒットラーにあつても、國家は一つの政治的權力、同一の言語の下に於ける自由な人間の綜合でなくして、有機的統一としての民族そのものが國家である。故に「國家の最高の使命は人種の保存と向上と」にある。即ち彼は究極の目的を國家に見ずして民族に見る。

「民族的世界觀の基礎に立つ新運動の第一の義務は、國家の本質と存在目的に關する觀念に統一的形式を與へることである。

而して其の根本的認識は、國家は目的に非ずして手段だといふことである。實に國家はより高い人類文化創造の前提であるが、其の原因ではない。寧ろ其の原因は専ら文化創造力に富む人種の存在にある。²⁾

「國家自體が文化を一定の高さまで高めるのではなく、それを制約するのは國家の中に含まれた人種である。……國家は目的に對する手段であつて、其の目的は精神的にも肉體的にも

1) Feder; a. a. O., S. 16 f.

2) Hitler; a. a. O., S. 430.

同一種族に屬する人間の共同團體の維持と促進とにある。此の維持そのもの、中に第一に種族的存在が含まれ、其の結果、此の人種の持つ一切の力が自由に發揮せしめられるのである。此の力の一部分は先づ肉體力の維持に役立たしめられ、他の部分が精神的向上に利用される。しかも其の各々は相互に他の前提となるのである。此の目的に資するところなき國家は誤まれる存在現象である。……

此の故に民族國家の最高の目的は、優秀な人間の善と尊嚴とを創造する文化的な、種族的要素の維持である。故に我々アリアン人は國家の下に民族の生ける組織を構成し、此の民族を保存するのみならず、其の精神力を更に發揮せしめることによつて、最高の自由に到達することが出来る。」優秀な國家と劣等な國家との評價の尺度も亦、其の國の暫時的な文化の水準又は國防力の強弱に非ずして民族である。」³⁾

「優秀な國家と見做さるべきものは、其の國家がそれによつて代表された民族の生活條件に合致せるのみならず、此の民族を國家の存在によつて活動せしめ、全世界に其の文化的意義

3) Hitler; a. a. O S. 431 ff.

を認識せしめる國家である。蓋し國家の使命は新らたな力を産み出すことでなくして、既存の力を發揚する爲の自由な途を拓くことだからである。それ故に如何に文化が高くともその民族が純血によつて統一されざる時には、かゝる國家は劣等な國家と云はなければならぬ。蓋しかゝる國家は最早既存の文化すら維持し得ざるのみならず、生ける國家に統一された民族の文化創造力をも破壊するが故である。」⁴⁾

以上の如く國家を以て民族の統一と見做し、且つ其の使命を民族の精神生活の維持向上にありとするナチスの立場は、國家を以て單に國民の共同生活を保障する爲の團體であり、随つて其の活動を個人の自由な活動に抵觸せざる範圍に限定せんとする個人主義的立場と著しい對蹠を爲す。

かくてナチスの民族國家は究極に於て、文化國家であるが、このことは國家と經濟との關係に關する次の言葉にも現はれてゐる。

「技術と工業との進歩に伴ふドイツ商業の繁榮は自ら、これら總ては強力な國家の前提に於

4) Hitler; a. a. O., S. 435 ff.

てのみ可能であることを忘却せしめた。のみならず反對に、國家の存在自體が工業や商業の繁榮に俟つものであり、經濟狀態が最も健全な、最も自然な基礎であると考へる者さへある。

しかし國家は本來一定の經濟觀乃至經濟的發展と無關係なものである。

國家は經濟的任務遂行の爲め、一定の地域内に於ける經濟人の團體ではなくて、肉體的にも精神的にも平等な人間の進歩と、其の存在目的の到達とをより容易ならしめる爲の團體組織である。これ以外に國家の目的と意義とは存在しない。同時に經濟は此の目的達成に必要な數多の手段の中の一つに過ぎない。……種族維持の衝動は人類共同體構成の第一の原因である。それ故に國家は民族的組織であつて、經濟的組織ではない。此の大なる相違が、特に今日の謂ゆる政治家に理解されてゐない。其の結果彼等は經濟を以て國家の基礎たらしめ得ると信じてゐるが、實は國家は種族保存の意志に基づく活動の結果である。しかしながら種族の保存は個人の犠牲心に俟つべきものなるが故に、小人のエゴイズムでなく、常に英雄的道徳によらねばならない。……故に國家の創造と維持との眞の前提は、本質を等しくする平等

な種族と、其の最高の犠牲心との上に立つ共同生活觀の存在である。……國家創造と國家經濟との特性が、經濟と關聯すること如何に少きかは、一國の內的力が極めて稀れな場合にしか謂ゆる經濟的繁榮と一致しない事實が最も明瞭に示してゐる。しかもかゝる場合でさへそれは既に其の國家の没落が近付きつゝある兆であつたことは數多の實例が示してゐる。⁵⁾

かくてヒットラーはドイツが赫々たる國威を發揚してゐた時代には、經濟も繁榮したが、しかし此の經濟はドイツ國民の唯一の内容ではなくて、其の中に道徳が失はれれば國家は再び衰頹し、やがては經濟も衰へざるを得ないと云つてゐる。然らば眞に國家を創造し、維持するのは何かと云へば、結局「全體の爲にする犠牲心」⁶⁾である。「私益に對する公益の優先」の原則が此處でも主張されるのであつて、國家は個人の爲にあるのではなく、個人が國家の爲に存在するのである。

以上述べたところがナチスに於て觀念される國家である。

さてかくの如き普遍主義的立場に立つ民族國家は必然的に強權主義に結び付き、内に向つ

5) Hitler; a. a. O., S. 164—167.

6) Hitler; a. a. O., S. 167.

ては厳格な個人の服従と規則、外に向つては國威の發揚を要求し、延いては帝國主義的傾向から免れることが出来ない。しかしこれについては項を改めて述べやう。

第二節 身分階級國家

國家を以て個人の機械的原子的集積と見る個人主義的國家觀の代りに、國家を有機的全體と見、個人の絶對的平等を認めず、其の政治形態の上に貴族主義を移さんとするナチスは、身分階級國家に於て其の政治經濟理想を體現せんとする。

シュバンも個人主義的秩序と普遍主義的秩序との特徴を左の如く對立せしめてゐる。

個人主義的秩序の特徴

一、原子的なること。

a、國家乃至社會の各構成員は互ひに同質にして平等である（“homogen und äquivalent” 平等の原則）。

b、各人は究極に於て孤立的である。

二、隨つて國家形態は必然的に統一的であり、直接的である。蓋し各個人の平等からは各人が直接的關係に立つ國家權力が生ずるからである。

普遍主義的秩序の特徴

一、各部分の原子的平等に代ふるに、有機的不平等を以てすること。

a、國家社會の各構成員の不平等。

b、目的達成上の等價値。^{エキヴァレンツ}

c、等價値は更に能力に於ける平等を意味する。

二、部分の段階的不平等（rangordnungsmässige Wertverschiedenheit）。

三、社會の各部分は孤立的個人から成立するものに非ずして、團體によつて構成される。更に此の團體の特徴は精神的全體の一部たること。其の結果
a、身分階級的構成。

- b、間接制の確立。
- c、各部分の有機體化。

シュバンは此の觀點から進んで、國家社會は本來相互に不平等な者によつて構成されるのであるが、更にかゝる國家社會の下にある團體は平等なものによつて構成されると主張し、これを「團體の内部的平等又はホモゲニテートの法則」と名付けてゐる。次に相互に平等であり、相互に結合して團體を構成する者は少數なるが故に、右の原則から更に「團體の狭小性の法則」が生ずる。而してこれらの團體が其の價值に應じて順次結合されて一體を爲す時に、原子的ならざる有機的な國家社會が構成され、ピラミッド式に最も價值あると共に最も少數の階級層が其の頂點を構成し、最も價值少く、且つ多數者の階級層が其の根底を構成する。此の價值の支配、即ち眞の權力支配なくしては社會はあり得ない。

次に此の相互に價值を異にする諸團體は如何にして構成されるかに付いてシュバンは次の如く説いてゐる。

相互に相異なる各團體が夫々其の特性を具へて、全體の構成分子になるのであるが、此の分子を爲すものは身分階級 (Stände) である。それ故に此の身分階級は次の特徴を具へねばならない。

- 一、全體の表現たること。
- 二、しかしそれは全體の完全な表現に非ずして、全體の特殊な表現たること。
- 三、二の結果として他の身分階級と本質的相違を含むこと。

これらの組織の段階としての身分階級が政治的には國家を構成する。それ故に國家はこれら各部分の觀念的統一體であつて、此の基礎の上に生活の全組織が置かれるのである。總て組織なるもの、明白な特徴は、これらの組織内部及び組織相互間の支配關係なるが故に、一つの身分階級の政治的立場は國家内部に於て一定の支配的立場を維持する。

さて此の身分階級が純粹に精神的に、其の内部關係によつて統制され、相互に其の價值に應じて區別されて、價值のピラミッドを構成する時に、身分階級の最善の政治形態、即

ち最善の國家形態が構成される。「最善の國家形態は最善の者を支配者とする國家形態である。⁷⁾」

さてこのことが如何にして可能であり、如何にして實現されるかの問題が起る。シュパンによれば相互に不平等であり、且つ相矛盾する部分を全體に統一することが最高の組織の問題である。而して此處に行はれるものは、彼の謂ゆる支配段階の法則、若しくは支配實行の間接性の法則である。即ち善なる者が善悪一切を支配するものではなく、善又はそれに近いものを支配するのであつて、最善なるものは善なるものを、善なるものは次位の善なるものを支配することによつて、順次「支配は其の性質上段階的に上から下に及ぶ⁸⁾」のである。

それ故に「最善の國家形態は、形式的に見れば、國體を段階的に構成されたる國家形態、即ち我々の謂ふ最廣義に於ける「身分階級的」に構成された、身分階級國家である。：：身分階級國家が普遍主義的社會觀の最も完全な政治的表現である。⁹⁾」

以上がシュパンの身分階級國家に關する根本觀念であるが、これは明らかに浪漫主義思想

7) Spann; Der wahre Staat, S. 204.

8) Spann; a. a. O., S. 205.

9) Spann; a. a. O., S. 207.

の復活であつて、國民生活の正しい姿を中世紀の身分階級の中に見出さんとするものである。即ち個人主義思想の極端な支配による現代の社會的・政治的・經濟的行詰りを、多分に倫理的要素の盛られた身分的連帶によつて打開せんとするものであるが、同時にこれは近年に於ける顯著な思潮の一つでもある。即ちイタリヤに於ては既に、此の身分階級國家の思想は其の組合國家の形態に於て實現され、ドイツに於ても身分階級會議の萌芽は早くも、ビスマルクによつて提議された經濟議會、及びワイマール憲法第一六五條に於ける帝國經濟會議に於て見出されるのである。

しかしながら此の身分階級國家の要求は、ハンス・ロイブケも云へる如く、それは中世紀其の儘の姿に復歸せんとするものではない。中世紀人は例へば、貴族階級(Fürstenstand)、騎士階級(Ritterstand)、市民階級(Bürgerstand)等の如く、共同生活の強制的形態の中に生れ、終生それは身分として固着してゐたが、現代に於ては身分階級は最早身分を離れて、經濟的要素が極めて強く加はつたことを特徴とし、自己の意志と其の環境とに應じて自由に選

擇された身分階級に加はるのである。

それ故に近代的觀念に於ては、身分階級國家制度は、一面には普遍主義的立場から考へられた最優秀者の支配を可能ならしめる政治形態たると同時に、他面に於ては、此の制度の中に經濟と政治との調和を求めることによつて、從來の政治經濟組織の缺陷を匡正せんとするものである。このことはシュバンの次の言葉にも觀取される。

「現代に於ては身分階級の根據に立つ社會の新秩序の最も重大な問題は、經濟的身分階級の組織である。これに反して古代や中世紀に於ては、政治的身分階級の構成が中心問題であつた。今日純經濟的身分階級が重視される所以は、經濟的問題が最も重要であり、且つ歴史的發展の上からもさうである爲ではなく、個人主義的社會に於て、生活の廣汎な領域を占める此の經濟が無秩序の中に放置されてゐるが故である¹⁰⁾」と。

それ故に此處には先づ、身分階級國家の經濟側の觀察から進まねばならない。以下シュバンの所説に聞かう。

シュバンは其の前提として身分階級の根本的特徴を擧げてゐる。即ち

- 1、身分階級は其の經濟的特徴として、一種の組合的性質をそれ自體の中に含んでゐる。
- 2、身分階級は内部的自決權を有する。
- 3、身分階級に分たれた國家は、他の有機體の如く、更に多くの有機體から成る。
- 4、個人が各々身分階級に所屬することは、必然的に競争を排除する。

5、身分階級的社會は精神的である。

6、身分階級國家に於ける自由と平等とは、平等者間の自由と平等である。

7、身分階級は集中化を企圖するに非ずして分散化に制約を加へる¹¹⁾。

次にシュバンは身分階級の財産關係に論及してゐる。彼によれば將來の身分階級は其の本質上職業組合でなければならぬ。此の職業組合の財産關係は次のやうに考へられる。身分階級は人間の大きな集合なるが故に、其處には絶対に完全な平等はなく、隨つて共產的財産はあり得ない。しかしながら私有財産制の承認は身分階級的連帶に合致せる共有的制度を設

11) Spann; a. a. O., S. 247.

10) Spann; a. a. O., S. 248.

けることをも斥けるものではない。即ち身分階級に於ては、財産の管理は個人に委任されるが、それは身分階級、究極には國家によつて制限されるのであつて、つまり形式的には私有財産制はあるが、それは部分的全體（身分階級）によつて支配される。

第二は職業的身分階級（Berufsstände）の組織如何の問題である。彼の云ふところによれば、將來の身分階級的經濟制度は從來の經濟組織を、決して人爲的、強制的に新たな形態に變へんとするものではなく、隨つて一般企業の國有化の如きを主張しない。事實に於ても特殊財政的、又は軍事的理由等によるもの、外は統一的大經營、國有化の傾向は認められず、寧ろ現存の企業形態を其の儘に保存して、それを擴張せんとする傾向がある。即ち「一方には労働組合、他方にはカルテル及びカルテル類似の企業聯合があり、此の兩者が總労働契約によつて結ばれるのであるが、これこそ國民經濟上將來の身分階級的發達の基礎たるものである。」¹²⁾

此の傾向は大企業のみならず、中小企業に於ても一般に認められる現象であり、それが産業界に於ける身分階級的社會の支柱を爲すものであるとして、更に右の所説を布行してゐる。

右の總労働契約は云ふまでもなく、労働組合又は労働者と、企業家組合又は企業家との間の賃銀、労働条件等に關する契約である。此の既存の總労働契約が右の新經濟組織の上に如何なる關係があるか？「此の労働關係の共同的、全體的統制から、カルテルと労働組合との眞に有機的な結合が得られる。此の結合によりて單なる労働秩序から全體的、職業秩序が生れ、究極に於て労働組合とカルテルとの相互關係から統一的組合（フンクト）が生れる。」¹³⁾

「かくして總労働契約はそれ自體に於て、労働秩序から職業秩序を生み出すと同時に、二つの全體、即ち労働者と企業家とを一つの職業組合、即ち眞の組合に組織する傾向を持つてゐる。故に總労働契約は明らかに、労働組合とカルテルとを其の有機的構成分子とする統一的全結合を構成する力を具へてゐる。労働組合とカルテルとは組合（職業團體）の自然的下級分子を構成する。」¹⁴⁾

13) Spann, a. a. O., S. 257.

14) Spann; a. a. O., S. 258.

12) Spann; a. a. O., S. 256.